令和２年度 老人保健事業推進費等補助金
（老人保健健康増進等事業分）

# 認知症の本人の意見と力を活かした地域共生社会づくりに関する調査研究事業

## 報告書

一般社団法人　日本認知症本人ワーキンググループ

令和３（２０２１）年３月

# 目　　次


**事業要旨** ..... i～ii

**１　事業経過** ..... 1

１）事業背景と当初（事業計画時）の事業目的

２）事業経過

**２　全国調査** ..... 2

１）調査概要（対象・調査時期・調査方法・回答数） ..... 2

２）都道府県調査結果 ..... 3

３）市区町村調査結果 ..... 26

４）認知症疾患医療センター調査結果 ..... 47

５）主な項目の記述回答 ..... 64

○都道府県 ..... 64

○市区町村 ..... 66

○認知症疾患医療センター ..... 78

**３　本人参画推進ワーキンググループによる検討** ..... 85

１）ワーキンググループの概要 ..... 85

２）本人参画を進めるためのポイントとステップ」づくりのための検討 ..... 86

○「認知症の本人」からの意見（１） ..... 87

○「認知症の本人」からの意見（２） ..... 92

○自治体担当者から（グループミーティング採録） ..... 97

３）本人参画を進めるためのポイントとステップに関する実践事例 ..... 102

４）本人参画を進めるためのポイントとステップ「手引き」の構成と内容 ..... 108

**資　料** ..... 109

１．全国調査 調査票（都道府県・市区町村・認知症疾患医療センター） ..... 109

２．認知症の本人の意志と力を活かした地域共生社会づくり　話あいシート ..... 131

# 要　旨

## １．事業目的

知症施策推進大綱（令和元年 6 月）では、認知症の本人の視点を施策の企画・立案や評価に反映するよう努めることとされたが、当該取組みに未着手、あるいは単発事業の取組にとどまる自治体が多く、どのように進めていけばよいか課題や悩みを抱えている自治体が多い。全ての自治体で認知症施策全般について本人視点にたって充実させるための効果的・体系的な推進策を検討する必要がある。そのため本研究事業では、全国調査を実施するとともに、本人参画型で取組が未着手の市町村へのバックアップに関する検討結果をもとに、都道府県と市町村等が協働して本人参画の施策を展開しながら、地域共生社会づくりを効果的・体系的に推進していくための手引きや事例集を作成し、自治体等へ配布を行うことを目的とする。

## ２．事業内容

1）.市区町村へのバックアップ機能に関するワーキングチームの設置

2）全国調査の実施：都道府県認知症施策担当者、市区町村認知症施策担当者、認知症疾患医療センター（以下、疾患センターとする）を対象に、メールでのアンケート郵送法による悉皆調査を実施。

3）認知症施策を本人視点にたって充実させるための効果的・体系的な推進策の検討

4）手引き、映像資料の作成　5. 報告書の作成.

## ３．事業の主な結果

### 1）調査の主な結果

① 回収数（率）：都道府県　37（78.7%）、市区町村794（45.6%）、疾患センター199（41.7%）であった。

② 施策担当者が「本人が意見を言いやすい関係を作っている」に関して、「今までやっていない」という回答が、都道府県では59.5%、市区町村では64.1.1%、疾患センターでは26.6%であった。

③ 本人の意見と力を活かした施策展開の導入として普及が目指されている「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方については、都道府県、市区町村、疾患センターとも、「その存在を知らなかった」も含めてまだ活用できていない場合が過半数以上を占めていたが、一方では取組全体を推進するために積極的に生かしている都道府県、市区町村、疾患センターも見られた。

④「本人発信が活発になっている」と回答した都道府県は43.2%、市区町村は11.2%、疾患センターは22.3%。「把握していない」が都道府県は51.4%、市区町村は41.4%、疾患センターが33.0%であった。

⑤「地域の中で活き活き暮らす本人が増えている/増えてはいないが充実してきている」と回答した都道府県は18.9%、市区町村は10.6%、28.4%であった。いずれも「把握していない」が高率であり、都道府県67.6%、市区町村41.4%、疾患センター4.6%。

⑥ 本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での多様な課題に関して、都道府県、市区町村、疾患センターともに多様な課題が示されたが、共通して高率であったのが、「活き活き

過ごす本人に出会えておらずイメージや可能性がつかめていない」「余裕がない」であり5割前後～7割強を占めていた。疾患センターでは、課題の中でも「方針がない/不明確」という課題が高率であり38.7%であった。

⑦ 今後の要望としては、都道府県、市区町村、疾患センターとも共通して、「他自治体の取組事例を知りたい」、「具体的な進め方や内容の資料がほしい」、「本人の声と力を活かした地域共生に関する研修や情報交換の場が欲しい」が高率であり約9割以上を占めていた。

**2）認知症施策を本人視点にたって充実させるための効果的・体系的な推進策の検討**

全国調査結果及びワーキングチームでの検討を通じて、現状を改善しより効果的・体系的に本人視点にたった施策を充実させていくために、以下の 5 点の提案を集約した。

①行政関係者の認知症観を変えることから始める
②地域共生実現にむけての「方針」を、行政として明確に掲げる
③行政が使う「ことば」の見直し・改善作業に取り組む
④「本人の声」を記録し、本人と地域に活かす
⑤担当者が、「本人とともに」進めている自治体と相談・交流できる機会・しくみをつくる。

あわせて、以上提案 5 点に関する実例及び実現可能性を踏まえて、各提案についての方策を提示した。

**3）手引き・映像資料の作成**

以上の提案を、今後各都道府県・各市区町村・各認知症疾患医療センターが実行していくことを促進するための、わかりやすいガイド、映像資料を作成した。

## ４．まとめ

全国の都道府県、市区町村、認知症疾患医療センターを対象に悉皆調査を実施した結果、都道府県、市区町村、認知症疾患医療センターともに、「本人の意見と力を活かした取組の展開に関しては、取組み始めている自治体/センターがある一方、まだ動きの見られなかったり動き自体の方針がたっていない自治体/センターが少なくない状況がみられた。それを背景に、本人発信や地域の中で本人が生き生き暮らすことの実現にも、都道府県、市区町村、疾患センターともに、進みつつある自治体・センターとまだ動きがない自治体・センターとの開きが生じている実態がみられた。

自治体・センターともに、本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での多様な課題を抱えており、共通して、「他自治体の取組事例を知りたい」、「具体的な進め方や内容の資料がほしい」、「本人の声と力を活かした地域共生に関する研修や情報交換の場が欲しい」が要望が 9 割以上に上っていた。

こうした状況を打開していくために、今回 5 つの提案とそのための方策をまとめた。

今年度の全国調査結果及び事業成果物を今後、各自治体や関係機関が利活用することを促進しながら、「本人とともに」取組む施策担当者・関係者及びその実例を着実に増やしていくこと、②それらのネットワーク化を図り、取組みプロセスや成果等の共有を図る仕組みづくりを進めていくことであり、これらに関して今後も本人とともに継続的に取組み、全国的に「本人とともに」が進むことを加速化させていきたい。

# １　事業経過

## １）事業背景と当初（事業計画時）の事業目的

認知症施策推進大綱（令和元年６月）では、認知症の本人の視点を施策の企画・立案や評価に反映するよう努めることとされたが、当該取組みに未着手、あるいは単発事業の取組にとどまる自治体が多く、どのように進めていけばよいか課題や悩みを抱えている自治体が多い。全ての自治体で認知症施策全般について本人視点にたって充実させるための効果的・体系的な推進策を検討する必要がある。

そのため本研究事業では、全国の４ブロックにパイロット地域（1 都道府県＋管内の１～数市町村）を設定し、各パイロット地域で本人参画型で取組が未着手の市町村へのバックアップを行う試行プロジェクトを実施する。それらの一連の過程及び成果と課題に関する調査・検討結果をもとに、都道府県と市町村等が協働して本人参画の施策を展開しながら、地域共生社会づくりを効果的・体系的に推進していくための手引きや事例集を作成し、自治体等へ配布を行うことを目的とする。

## ２）事業経過

事業期間中、政府より発出された新型コロナウイルス感染症対策の基本方針や緊急事態宣言等の諸施策を踏まえ、本調査研究事業においても実施を見送った事項、および代替手段によって実施した事項がある。

全国調査は当初の計画どおり、都道府県・市町村・認知症疾患医療センターを対象に実施。

ブロックワークショップを含む試行プロジェクトについては、本人参画に先行して取り組んでいる自治体職員、認知症の本人、認知症疾患医療センター、領域有識者等によるワーキンググループを設け、リモート形式によるグループインタビュー、ミーティングによる形式で代替実施。インタビュー内容及び各地取組情報に基づいて「認知症の本人の意見と力を活かした共生社会づくりの手引き」を作成。手引き（事例集）については、冊子と映像（ネット上に掲載）を連携させた形式で作成。

報告会については、実施を見送り「手引き」に情報を収載。

# 2　全国調査【結果】

## 「認知症の本人の意見と力を活かした地域共生社会づくりに関する全国調査」

認知症本人の施策や事業への参画状況と、今後の取組に関する計画等を把握するべく、全国の都道府県・市町村・認知症疾患医療センターを対象にアンケート調査を実施した。

### １）調査概要

#### （１）調査対象

都道府県:47、 市区町村:1,741、 認知症疾患医療センター:447

#### （２）調査時期

令和3年3月

#### （３）調査方法

電子メールによる調査票送付・回収

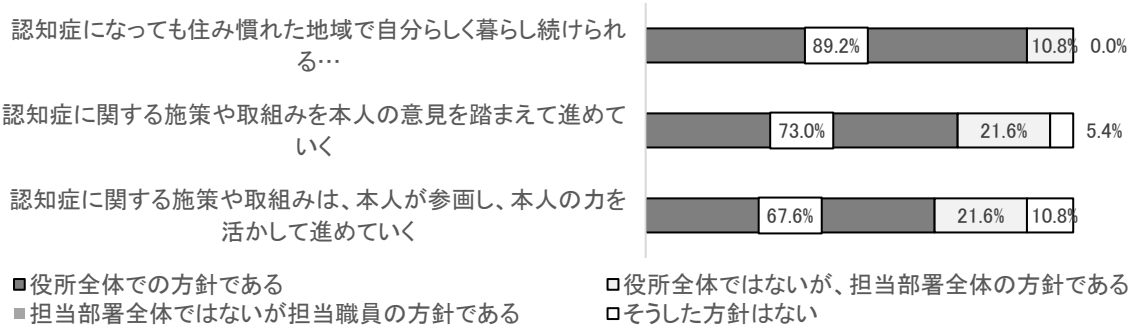
市区町村調査ならびに認知症疾患医療センター調査は、都道府県の協力を得て、調査票を各市区町村・各認知症疾患医療センターに送付後、研究調査事務局メールアドレスにて、回答ファイルを直接回収。

#### （４）回答数（回答率）

| 区分 | 回答数 | 回答率 |
|---|---|---|
| 都道府県<br>（47） | 37 | 78.7% |
| 市区町村<br>（1,741） | 794 | 45.6% |
| 認知症疾患医療センター<br>（477） | 199 | 41.7% |

## ２）都道府県調査結果

### 設問１　都道府県の認知症施策の方針について

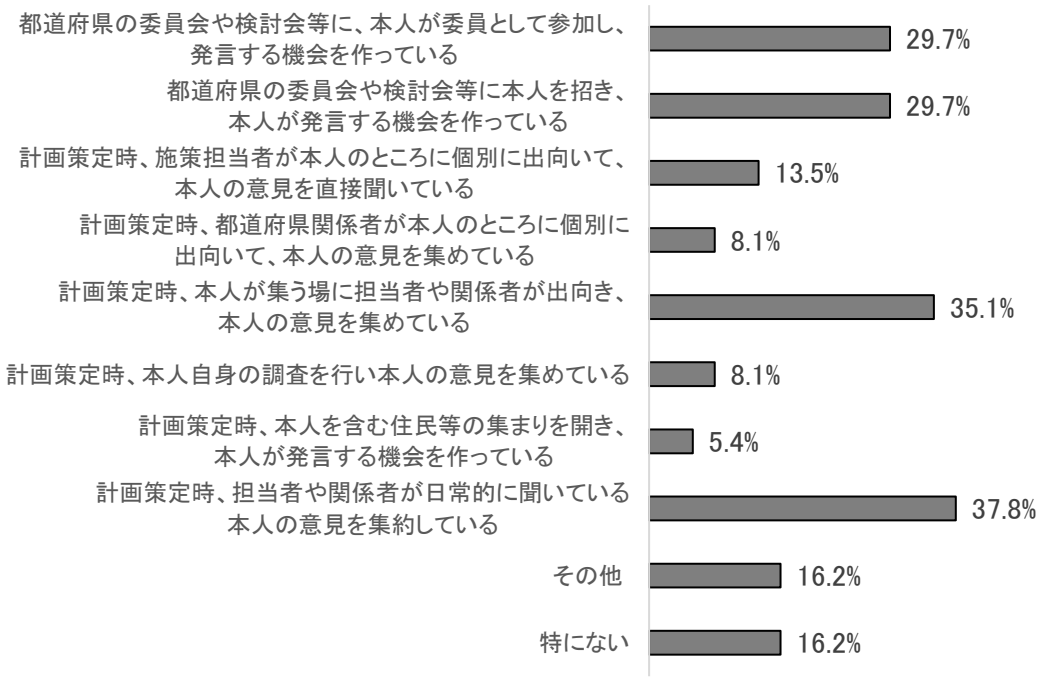



| N＝37 | | 役所全体での方針である | 役所全体ではないが、担当部署全体の方針である | 担当部署全体ではないが担当職員の方針である | そうした方針はない | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指す | 回答数 | 33 | 4 | 0 | 0 | 37 |
| | % | 89.2% | 10.8% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 認知症に関する施策や取組みを、本人の意見を踏まえて進めていく | 回答数 | 27 | 8 | 0 | 2 | 37 |
| | % | 73.0% | 21.6% | 0.0% | 5.4% | 100.0% |
| 認知症に関する施策や取組みは、本人が参画し、本人の力を活かして進めていく | 回答数 | 25 | 8 | 0 | 4 | 37 |
| | % | 67.6% | 21.6% | 0.0% | 10.8% | 100.0% |

### 設問２　認知症施策の計画策定の際に、本人が意見を出せる（意見を聞く）機会づくりについて

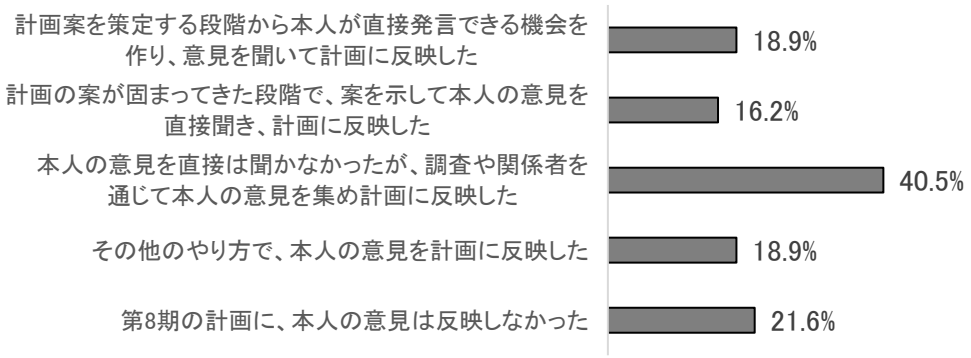
| N=37（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 都道府県の委員会や検討会等に、本人が委員として参加し、発言する機会を作っている | 11 | 29.7% |
| 都道府県の委員会や検討会等に本人を招き、本人が発言する機会を作っている | 11 | 29.7% |
| 計画策定時、施策担当者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を直接聞いている | 5 | 13.5% |
| 計画策定時、都道府県関係者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を集めている | 3 | 8.1% |
| 計画策定時、本人が集う場に担当者や関係者が出向き、本人の意見を集めている | 13 | 35.1% |
| 計画策定時、本人自身の調査を行い、本人の意見を集めている | 3 | 8.1% |

| | | |
|---|---|---|
| 計画策定時、本人を含む住民等の集まりを開き、本人が発言する機会を作っている | 2 | 5.4% |
| 計画策定時、担当者や関係者が日常的に聞いている本人の意見を集約している | 14 | 37.8% |
| その他 | 6 | 16.2% |
| 特にない | 6 | 16.2% |




## 設問３　都道府県の第 8 期介護保険事業支援計画への、認知症の本人の意見の反映について

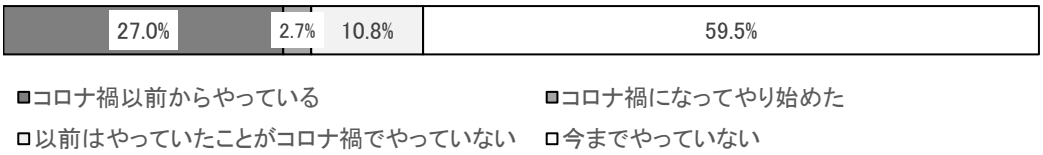
| N=37（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 計画案を策定する段階から本人が直接発言できる機会を作り、意見を聞いて計画に反映した | 7 | 18.9% |
| 計画の案が固まってきた段階で、案を示して本人の意見を直接聞き、計画に反映した | 6 | 16.2% |
| 本人の意見を直接は聞かなかったが、調査や関係者を通じて本人の意見を集め計画に反映した | 15 | 40.5% |
| その他のやり方で、本人の意見を計画に反映した | 7 | 18.9% |
| 第 8 期の計画に、本人の意見は反映しなかった | 8 | 21.6% |



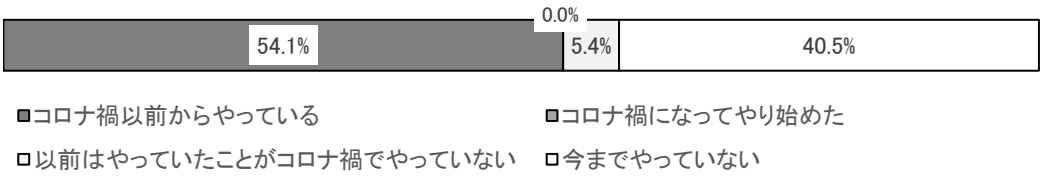

## 設問４　日常の中で、本人が意見を表しやすい環境づくりについて

| | N=37 | コロナ禍以前からやっている | コロナ禍になってやり始めた | 以前はやっていたことがコロナ禍でやっていない | 今までやっていない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 施策担当者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っている | 回答数 | 10 | 1 | 4 | 22 | 0 | 37 |
| | % | 27.0% | 2.7% | 10.8% | 59.5% | 0.0% | 100.0% |
| 地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことを施策担当者として推進している | 回答数 | 20 | 0 | 2 | 15 | 0 | 37 |
| | % | 54.1% | 0.0% | 5.4% | 40.5% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県として本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合い意見を表せるようにしている | 回答数 | 17 | 0 | 4 | 16 | 0 | 37 |
| | % | 45.9% | 0.0% | 10.8% | 43.2% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 16 | 0 | 4 | 17 | 0 | 37 |
| | % | 43.2% | 0.0% | 10.8% | 45.9% | 0.0% | 100.0% |
| 専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 16 | 0 | 4 | 17 | 0 | 37 |
| | % | 43.2% | 0.0% | 10.8% | 45.9% | 0.0% | 100.0% |
| 認知症疾患医療センターと協力して、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 11 | 0 | 3 | 23 | 0 | 37 |
| | % | 29.7% | 0.0% | 8.1% | 62.2% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県としてオンラインを使って、本人が意見を語ったり、話し合える機会を作っている | 回答数 | 4 | 5 | 1 | 27 | 0 | 37 |
| | % | 10.8% | 13.5% | 2.7% | 73.0% | 0.0% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 1 | 1 | 0 | 29 | 6 | 37 |
| | % | 2.7% | 2.7% | 0.0% | 78.4% | 16.2% | 100.0% |

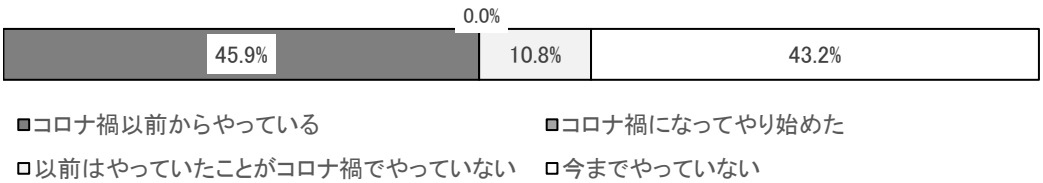
①施策担当者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っている



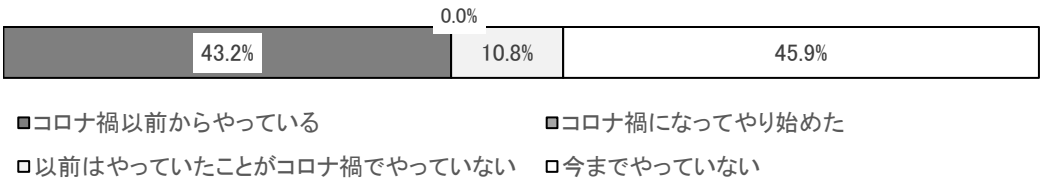

②地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことを施策担当者として推進している



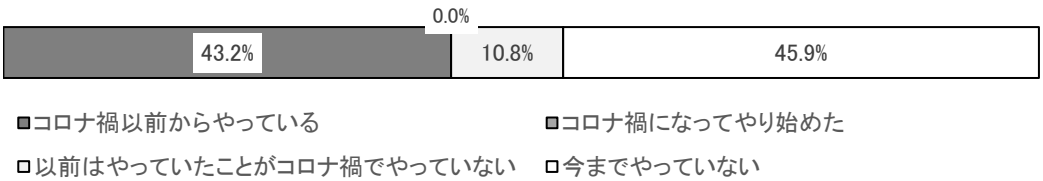

③都道府県として本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合い意見を表せるようにしている



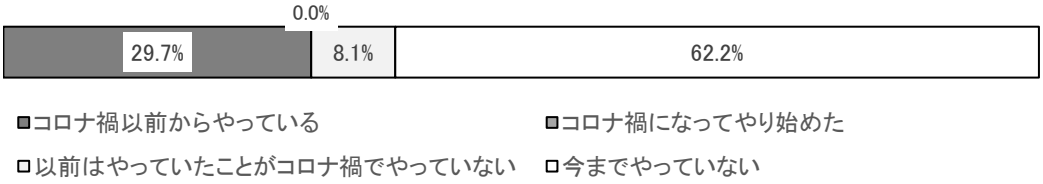

④都道府県等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている



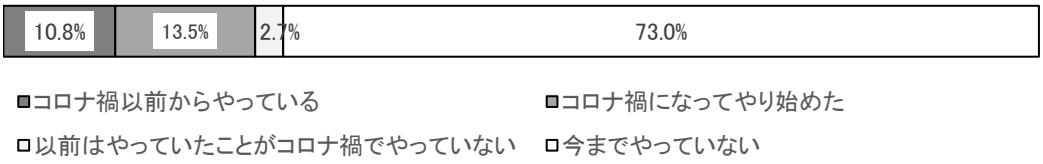

⑤専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている



⑥認知症疾患医療センターと協力して、本人が意見等を語れる機会をつくっている




⑦都道府県としてオンラインを使って、本人が意見を語ったり、話し合える機会を作っている



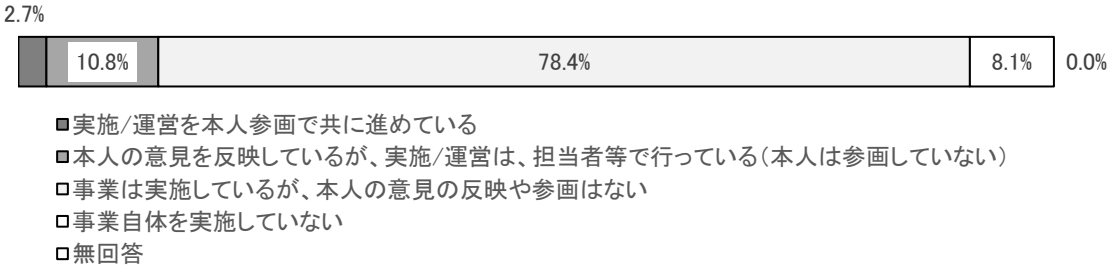

**設問５　都道府県としての事業や取組を実際に進める上での、本人の意見の反映・参画について**

| | N＝37 | 実施/運営を本人参画で共に進めている | 本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない） | 事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない | 事業自体を実施していない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 都道府県の認知症関連のチラシや冊子等の作成・改善 | 回答数 | 6 | 6 | 22 | 3 | 0 | 37 |
| | % | 16.2% | 16.2% | 59.5% | 8.1% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県の認知症関連のホームページの作成・改善 | 回答数 | 1 | 4 | 29 | 3 | 0 | 37 |
| | % | 2.7% | 10.8% | 78.4% | 8.1% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県の本人ミーティングの開設や運営 | 回答数 | 9 | 6 | 3 | 19 | 0 | 37 |
| | % | 24.3% | 16.2% | 8.1% | 51.4% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県として、ピアサポート（本人による本人の相談等）の開設や運営 | 回答数 | 6 | 3 | 3 | 25 | 0 | 37 |
| | % | 16.2% | 8.1% | 8.1% | 67.6% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県として、認知症バリアの点検・改善 | 回答数 | 1 | 2 | 4 | 29 | 1 | 37 |
| | % | 2.7% | 5.4% | 10.8% | 78.4% | 2.7% | 100.0% |
| 都道府県として、本人が望む社会参加活動の場や機会づくり | 回答数 | 7 | 5 | 2 | 23 | 0 | 37 |
| | % | 18.9% | 13.5% | 5.4% | 62.2% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県として、市区町村のチームオレンジの促進 | 回答数 | 2 | 5 | 24 | 6 | 0 | 37 |
| | % | 5.4% | 13.5% | 64.9% | 16.2% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県として、見守り・SOS 体制作り | 回答数 | 0 | 2 | 28 | 7 | 0 | 37 |
| | % | 0.0% | 5.4% | 75.7% | 18.9% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県として、医療・介護サービスの質の向上 | 回答数 | 0 | 7 | 28 | 2 | 0 | 37 |
| | % | 0.0% | 18.9% | 75.7% | 5.4% | 0.0% | 100.0% |

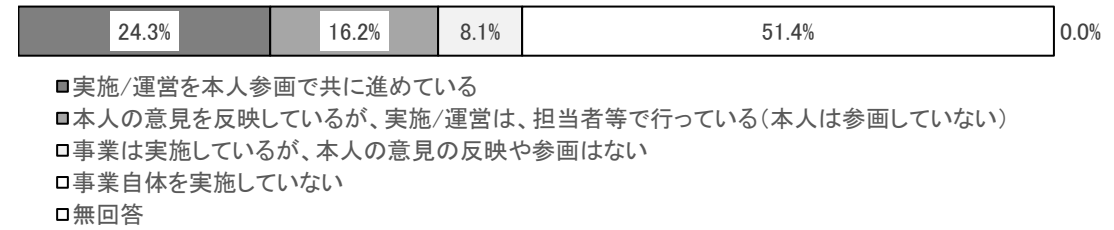
| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 都道府県版の希望大使の任命・活動 | 回答数 | 3 | 1 | 0 | 33 | 0 | 37 |
| | % | 8.1% | 2.7% | 0.0% | 89.2% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県の認知症に関する条例づくり | 回答数 | 2 | 0 | 0 | 35 | 0 | 37 |
| | % | 5.4% | 0.0% | 0.0% | 94.6% | 0.0% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 1 | 1 | 1 | 27 | 7 | 37 |
| | % | 2.7% | 2.7% | 2.7% | 73.0% | 18.9% | 100.0% |

①都道府県の認知症関連のチラシや冊子等の作成・改善

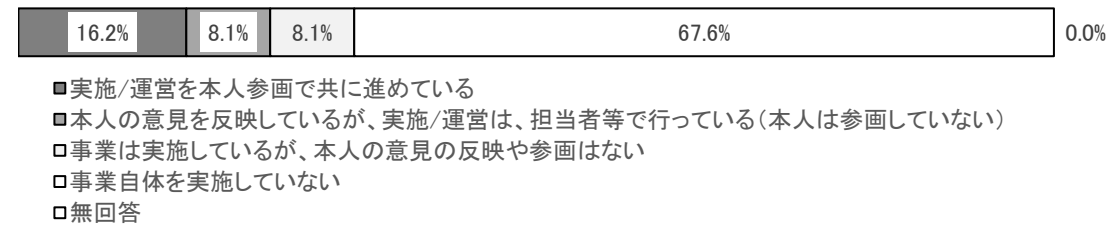
②都道府県の認知症関連のホームページの作成・改善



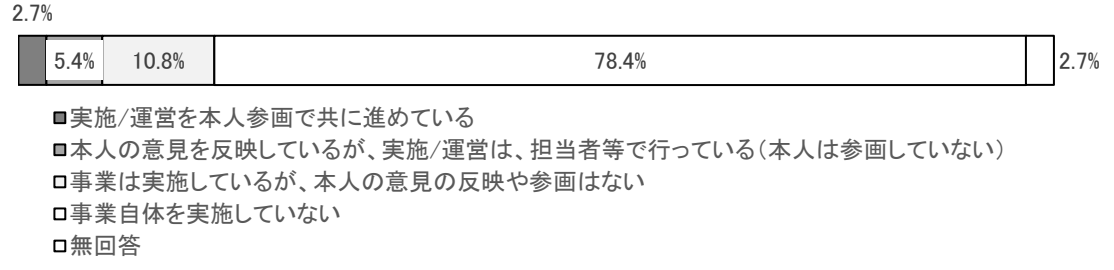

③都道府県の本人ミーティングの開設や運営



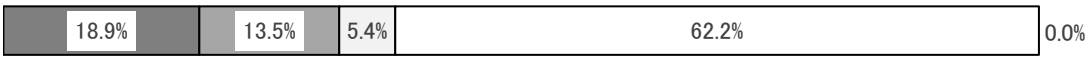

④都道府県として、ピアサポート（本人による本人の相談等）の開設や運営




⑤都道府県として、認知症バリアの点検・改善

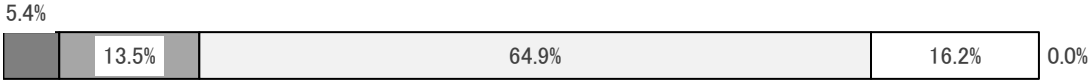



⑥都道府県として、本人が望む社会参加活動の場や機会づくり



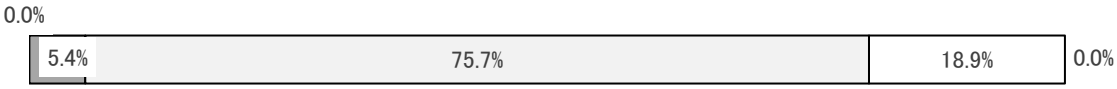

■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない
□事業自体を実施していない
□無回答

⑦都道府県として、市区町村のチームオレンジの促進



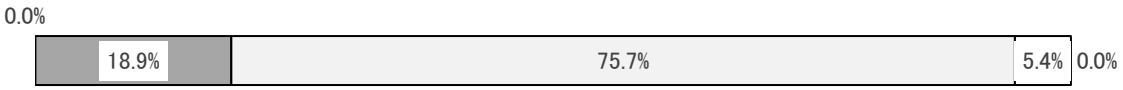

■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない
□事業自体を実施していない
□無回答

⑧都道府県として、見守り・SOS 体制作り



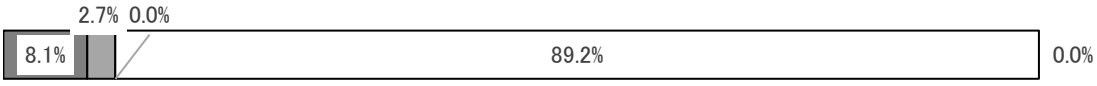

■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない
□事業自体を実施していない
□無回答

⑨都道府県として、医療・介護サービスの質の向上



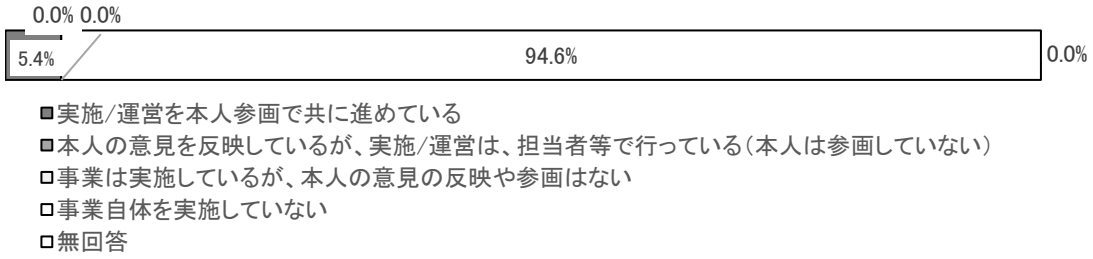

■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない
□事業自体を実施していない
□無回答

⑩都道府県版の希望大使の任命・活動




■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない
□事業自体を実施していない
□無回答

⑪都道府県の認知症に関する条例づくり

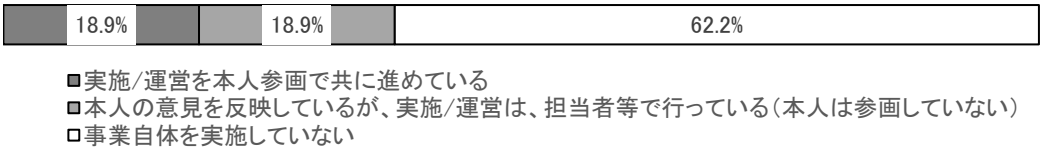



**設問６　管内の市区町村が「本人の意見と力を活かした地域共生」を進めていくために、都道府県が市区町村に行っている支援について**

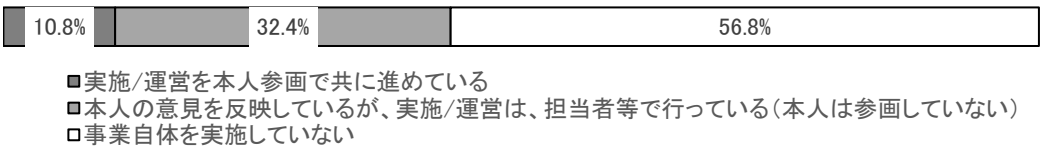
| | N=37 | 行っている | 取組みをしているが「本人の意見や力を活かした地域共生」に関してはあまり行っていない | 取組み自体をしていない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 管内市区町村に出向いて、事業全般の情報の収集と話合いをする取組みをしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」についても話し合いをしている | 回答数 | 7 | 7 | 23 | 0 | 37 |
| | % | 18.9% | 18.9% | 62.2% | 0.0% | 100.0% |
| 管内市区町村に調査シート等を送付し、事業全般の情報を収集する取組をしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」に関する情報を収集し、集約結果を市区町村に共有している | 回答数 | 4 | 12 | 21 | 0 | 37 |
| | % | 10.8% | 32.4% | 56.8% | 0.0% | 100.0% |
| 全国の参考情報を集める取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても情報収集し、管内市区町村に情報提供している | 回答数 | 6 | 2 | 29 | 0 | 37 |
| | % | 16.2% | 5.4% | 78.4% | 0.0% | 100.0% |
| 市区町村の担当者が会場に集まり、情報交換や話しあいをする取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても話合しあう時間を設けている　*オンラインの活用は、下記の⑤で | 回答数 | 10 | 11 | 16 | 0 | 37 |
| | % | 27.0% | 29.7% | 43.2% | 0.0% | 100.0% |
| 市区町村の担当者がオンライン参加で情報交換等をする取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても時間を設けている | 回答数 | 2 | 8 | 27 | 0 | 37 |
| | % | 5.4% | 21.6% | 73.0% | 0.0% | 100.0% |
| 市区町村の担当者に本人の話しを聞いてもらう取組をしており、その中で本人が地域で活動をしている話もしてもらっている　（集合型あるいはオンラインで） | 回答数 | 8 | 7 | 22 | 0 | 37 |
| | % | 21.6% | 18.9% | 59.5% | 0.0% | 100.0% |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 市区町村の担当者等が視聴できる動画等を作って配信する取組をしており、本人が地域で活躍している話しや様子を収録した動画等を作成し、市区町村に提供している | 回答数 | 2 | 3 | 32 | 0 | 37 |
| | % | 5.4% | 8.1% | 86.5% | 0.0% | 100.0% |
| 市区町村担当者から講師等の紹介依頼に応えるようにしており、地域で活躍している本人を紹介したり、つないでいる | 回答数 | 6 | 5 | 26 | 0 | 37 |
| | % | 16.2% | 13.5% | 70.3% | 0.0% | 100.0% |
| 都道府県として、管内で重点（モデル）市区町村を設定して認知症施策を推進する取組みをしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」に関するテーマとして、成果等を管内全体に広げている | 回答数 | 2 | 2 | 33 | 0 | 37 |
| | % | 5.4% | 5.4% | 89.2% | 0.0% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 1 | 0 | 26 | 10 | 37 |
| | % | 2.7% | 0.0% | 70.3% | 27.0% | 100.0% |
| 特に行っていない | 回答数 | 0 | 4 | 23 | 10 | 37 |
| | % | 0.0% | 10.8% | 62.2% | 27.0% | 100.0% |

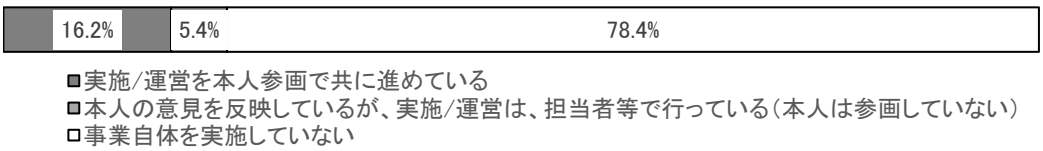
①管内市区町村に出向いて、事業全般の情報の収集と話合いをする取組みをしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」についても話し合いをしている




②管内市区町村に調査シート等を送付し、事業全般の情報を収集する取組をしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」に関する情報を収集し、集約結果を市区町村に共有している



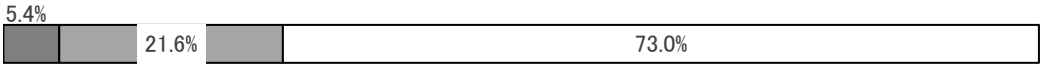

③全国の参考情報を集める取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても情報収集し、管内市区町村に情報提供している




④市区町村の担当者が会場に集まり、情報交換や話しあいをする取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても話合しあう時間を設けている　*オンラインの活用は、下記の⑤で

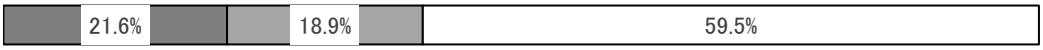
■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業自体を実施していない

⑤市区町村の担当者がオンライン参加で情報交換等をする取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても時間を設けている



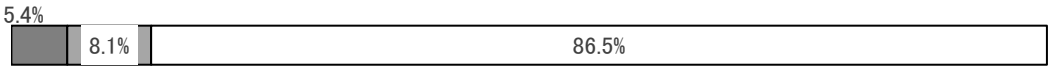

■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業自体を実施していない

⑥市区町村の担当者に本人の話しを聞いてもらう取組をしており、その中で本人が地域で活動をしている話もしてもらっている　（集合型あるいはオンラインで）



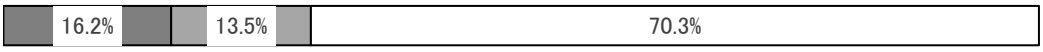

■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業自体を実施していない

⑦市区町村の担当者等が視聴できる動画等を作って配信する取組をしており、本人が地域で活躍している話しや様子を収録した動画等を作成し、市区町村に提供している



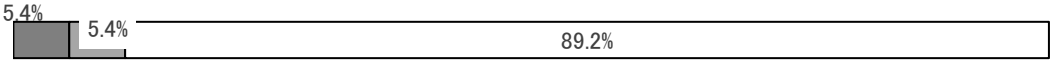

■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業自体を実施していない

⑧市区町村担当者から講師等の紹介依頼に応えるようにしており、地域で活躍している本人を紹介したり、つないでいる




■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業自体を実施していない

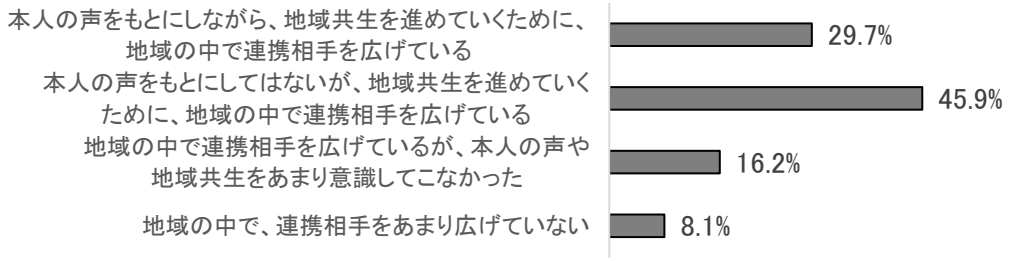
⑨都道府県として、管内で重点（モデル）市区町村を設定して認知症施策を推進する取組みをしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」に関するテーマとして、成果等を管内全体に広げている




■実施/運営を本人参画で共に進めている
■本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）
□事業自体を実施していない

## 設問７－１　地域共生を進めていくための、認知症施策担当者と地域との連携について

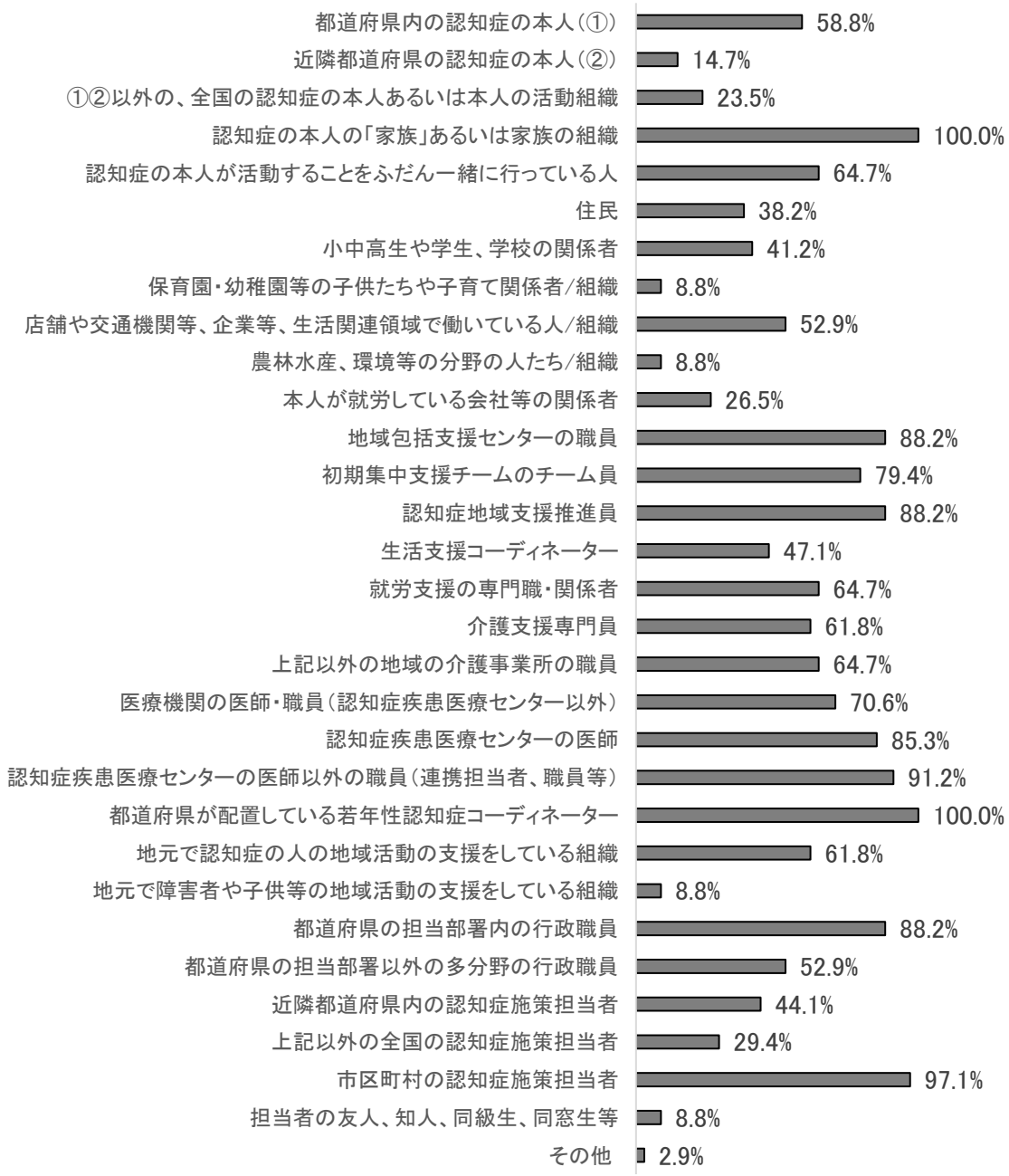
| N=37 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 本人の声をもとにしながら、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている | 11 | 29.7% |
| 本人の声をもとにしてはないが、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている | 17 | 45.9% |
| 地域の中で連携相手を広げているが、本人の声や地域共生をあまり意識してこなかった | 6 | 16.2% |
| 地域の中で、連携相手をあまり広げていない | 3 | 8.1% |
| 合計 | 37 | 100.0% |




## 設問７－２　連携相手を広げている都道府県の、連携相手について

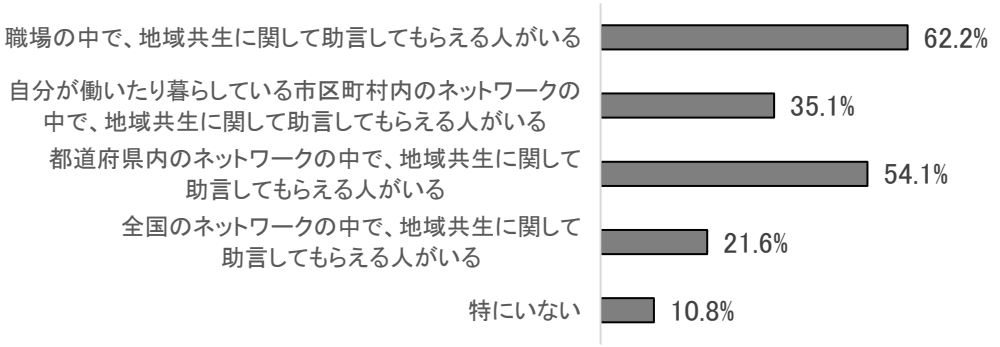
| N=34（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 都道府県内の認知症の本人（①） | 20 | 58.8% |
| 近隣都道府県の認知症の本人（②） | 5 | 14.7% |
| ①②以外の、全国の認知症の本人あるいは本人の活動組織 | 8 | 23.5% |
| 認知症の本人の「家族」あるいは家族の組織 | 34 | 100.0% |
| 認知症の本人が活動することをふだん一緒に行っている人（パートナー等） | 22 | 64.7% |
| 住民 | 13 | 38.2% |
| 小中高生や学生、学校の関係者 | 14 | 41.2% |
| 保育園・幼稚園等の子供たちや子育て関係者/組織 | 3 | 8.8% |
| 店舗や交通機関等、企業等、生活関連領域で働いている人/組織 | 18 | 52.9% |
| 農林水産、環境等の分野の人たち/組織 | 3 | 8.8% |
| 本人が就労している会社等の関係者 | 9 | 26.5% |
| 地域包括支援センターの職員 | 30 | 88.2% |
| 初期集中支援チームのチーム員 | 27 | 79.4% |
| 認知症地域支援推進員 | 30 | 88.2% |
| 生活支援コーディネーター | 16 | 47.1% |
| 就労支援の専門職・関係者 | 22 | 64.7% |
| 介護支援専門員 | 21 | 61.8% |

| | | |
|---|---|---|
| 上記以外の地域の介護事業所の職員 | 22 | 64.7% |
| 医療機関の医師・職員（認知症疾患医療センター以外） | 24 | 70.6% |
| 認知症疾患医療センターの医師 | 29 | 85.3% |
| 認知症疾患医療センターの医師以外の職員（連携担当者、職員等） | 31 | 91.2% |
| 都道府県が配置している若年性認知症コーディネーター | 34 | 100.0% |
| 地元で認知症の人の地域活動の支援をしている組織 | 21 | 61.8% |
| 地元で障害者や子供等の地域活動の支援をしている組織 | 3 | 8.8% |
| 都道府県の担当部署内の行政職員 | 30 | 88.2% |
| 都道府県の担当部署以外の多分野の行政職員 | 18 | 52.9% |
| 近隣都道府県内の認知症施策担当者 | 15 | 44.1% |
| 上記以外の全国の認知症施策担当者 | 10 | 29.4% |
| 市区町村の認知症施策担当者 | 33 | 97.1% |
| 担当者の友人、知人、同級生、同窓生等 | 3 | 8.8% |
| その他 | 1 | 2.9% |


都道府県内の認知症の本人（①） 58.8%
近隣都道府県の認知症の本人（②） 14.7%
①②以外の、全国の認知症の本人あるいは本人の活動組織 23.5%
認知症の本人の「家族」あるいは家族の組織 100.0%
認知症の本人が活動することをふだん一緒に行っている人 64.7%
住民 38.2%
小中高生や学生、学校の関係者 41.2%
保育園・幼稚園等の子供たちや子育て関係者/組織 8.8%
店舗や交通機関等、企業等、生活関連領域で働いている人/組織 52.9%
農林水産、環境等の分野の人たち/組織 8.8%
本人が就労している会社等の関係者 26.5%
地域包括支援センターの職員 88.2%
初期集中支援チームのチーム員 79.4%
認知症地域支援推進員 88.2%
生活支援コーディネーター 47.1%
就労支援の専門職・関係者 64.7%
介護支援専門員 61.8%
上記以外の地域の介護事業所の職員 64.7%
医療機関の医師・職員（認知症疾患医療センター以外） 70.6%
認知症疾患医療センターの医師 85.3%
認知症疾患医療センターの医師以外の職員（連携担当者、職員等） 91.2%
都道府県が配置している若年性認知症コーディネーター 100.0%
地元で認知症の人の地域活動の支援をしている組織 61.8%
地元で障害者や子供等の地域活動の支援をしている組織 8.8%
都道府県の担当部署内の行政職員 88.2%
都道府県の担当部署以外の多分野の行政職員 52.9%
近隣都道府県内の認知症施策担当者 44.1%
上記以外の全国の認知症施策担当者 29.4%
市区町村の認知症施策担当者 97.1%
担当者の友人、知人、同級生、同窓生等 8.8%
その他 2.9%

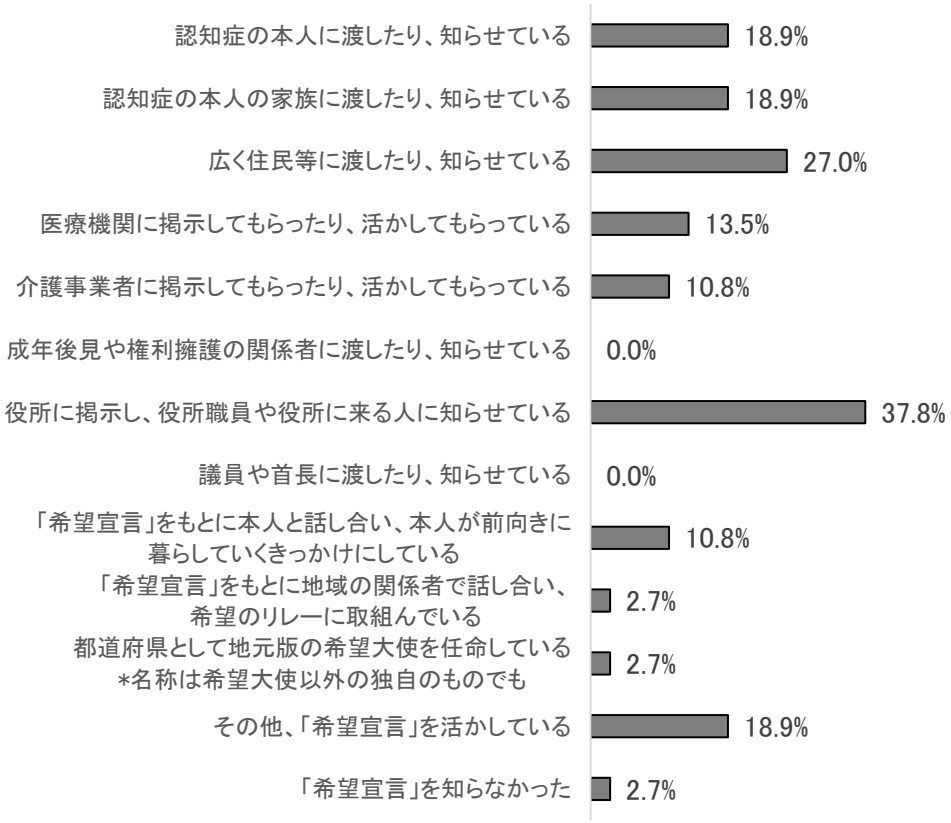
## 設問８　施策担当者として地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してくれる人について

| N=37（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 職場の中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 23 | 62.2% |
| 自分が働いたり暮らしている市区町村内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 13 | 35.1% |
| 都道府県内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 20 | 54.1% |
| 全国のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 8 | 21.6% |
| 特にいない | 4 | 10.8% |



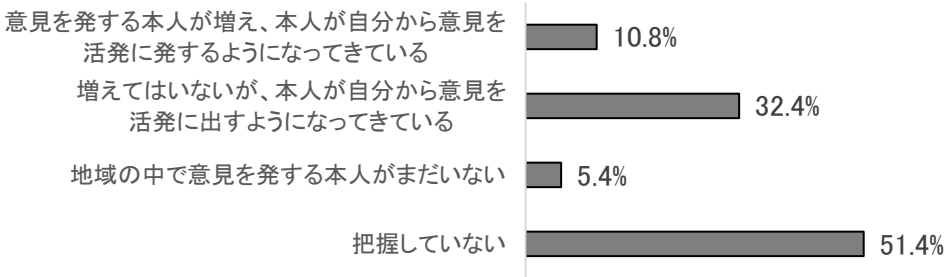

## 設問９　都道府県での「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方について

| N=37（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 認知症の本人に渡したり、知らせている | 7 | 18.9% |
| 認知症の本人の家族に渡したり、知らせている | 7 | 18.9% |
| 広く住民等に渡したり、知らせている | 10 | 27.0% |
| 医療機関に掲示してもらったり、活かしてもらっている | 5 | 13.5% |
| 介護事業者に掲示してもらったり、活かしてもらっている | 4 | 10.8% |
| 成年後見や権利擁護の関係者に渡したり、知らせている | 0 | 0.0% |
| 役所に掲示し、役所職員や役所に来る人に知らせている | 14 | 37.8% |
| 議員や首長に渡したり、知らせている | 0 | 0.0% |
| 「希望宣言」をもとに本人と話し合い、本人が前向きに暮らしていくきっかけにしている | 4 | 10.8% |
| 「希望宣言」をもとに地域の関係者で話し合い、希望のリレーに取組んでいる | 1 | 2.7% |
| 都道府県として地元版の希望大使を任命している<br>*名称は希望大使以外の独自のものでも | 1 | 2.7% |
| その他、「希望宣言」を活かしている | 7 | 18.9% |
| 「希望宣言」を知らなかった | 1 | 2.7% |



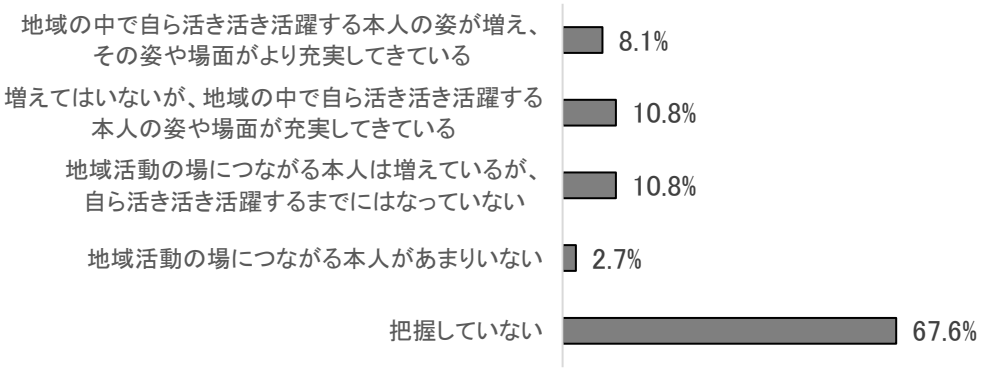

## 設問１０　都道府県で、地域の中で意見を発する地元の認知症の本人が増えていますか

| N=37 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 意見を発する本人が増え、本人が自分から意見を活発に発するようになってきている | 4 | 10.8% |
| 増えてはいないが、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている | 12 | 32.4% |
| 地域の中で意見を発する本人がまだいない | 2 | 5.4% |
| 把握していない | 19 | 51.4% |
| 合計 | 37 | 100.0% |



## 設問１１　都道府県で、地域の中で活き活きと暮らしている本人が増えていますか

| N=37 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿が増え、その姿や場面がより充実してきている | 3 | 8.1% |
| 増えてはいないが、地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿や場面が充実してきている | 4 | 10.8% |
| 地域活動の場につながる本人は増えているが、自ら活き活き活躍するまでにはなっていない | 4 | 10.8% |
| 地域活動の場につながる本人があまりいない | 1 | 2.7% |
| 把握していない | 25 | 67.6% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

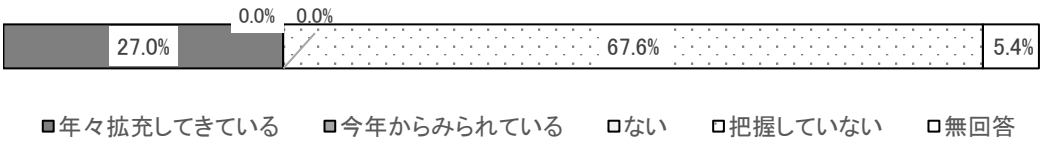



## 設問１２　都道府県での変化について

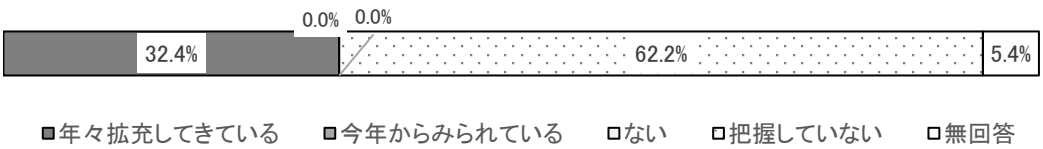
| | N＝37 | 年々拡充してきている | 今年からみられている | ない | 把握していない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前向きに暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている | 回答数 | 10 | 0 | 0 | 25 | 2 | 37 |
| | % | 27.0% | 0.0% | 0.0% | 67.6% | 5.4% | 100.0% |
| 本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている | 回答数 | 12 | 0 | 0 | 23 | 2 | 37 |
| | % | 32.4% | 0.0% | 0.0% | 62.2% | 5.4% | 100.0% |
| 地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている | 回答数 | 7 | 0 | 1 | 27 | 2 | 37 |
| | % | 18.9% | 0.0% | 2.7% | 73.0% | 5.4% | 100.0% |
| 地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている | 回答数 | 2 | 0 | 1 | 32 | 2 | 37 |
| | % | 5.4% | 0.0% | 2.7% | 86.5% | 5.4% | 100.0% |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている | 回答数 | 7 | 0 | 1 | 27 | 2 | 37 |
| | % | 18.9% | 0.0% | 2.7% | 73.0% | 5.4% | 100.0% |
| 地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 8 | 0 | 1 | 26 | 2 | 37 |
| | % | 21.6% | 0.0% | 2.7% | 70.3% | 5.4% | 100.0% |
| 地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 4 | 0 | 1 | 30 | 2 | 37 |
| | % | 10.8% | 0.0% | 2.7% | 81.1% | 5.4% | 100.0% |
| 地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 4 | 0 | 2 | 29 | 2 | 37 |
| | % | 10.8% | 0.0% | 5.4% | 78.4% | 5.4% | 100.0% |
| 認知症疾患医療センターの医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 13 | 1 | 1 | 20 | 2 | 37 |
| | % | 35.1% | 2.7% | 2.7% | 54.1% | 5.4% | 100.0% |
| 行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 13 | 4 | 2 | 16 | 2 | 37 |
| | % | 35.1% | 10.8% | 5.4% | 43.2% | 5.4% | 100.0% |
| 本人の意見や力を活かして行政の他部署ともつながり、施策や取組をより総合的に進められるようになってきている | 回答数 | 4 | 0 | 6 | 25 | 2 | 37 |
| | % | 10.8% | 0.0% | 16.2% | 67.6% | 5.4% | 100.0% |
| 認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている | 回答数 | 6 | 0 | 0 | 29 | 2 | 37 |
| | % | 16.2% | 0.0% | 0.0% | 78.4% | 5.4% | 100.0% |
| 認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている | 回答数 | 4 | 0 | 1 | 30 | 2 | 37 |
| | % | 10.8% | 0.0% | 2.7% | 81.1% | 5.4% | 100.0% |
| 立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている | 回答数 | 6 | 0 | 1 | 28 | 2 | 37 |
| | % | 16.2% | 0.0% | 2.7% | 75.7% | 5.4% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 1 | 0 | 0 | 27 | 9 | 37 |
| | % | 2.7% | 0.0% | 0.0% | 73.0% | 24.3% | 100.0% |
| 特になし | 回答数 | 0 | 1 | 4 | 24 | 8 | 37 |
| | % | 0.0% | 2.7% | 10.8% | 64.9% | 21.6% | 100.0% |

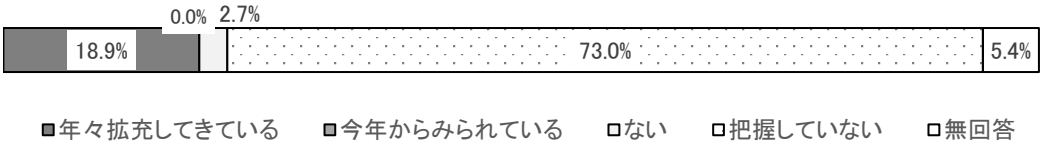
①前向きに暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている



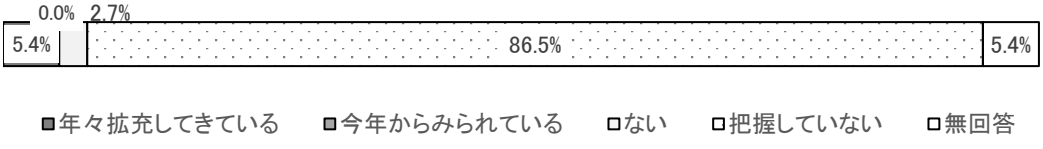

②本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている



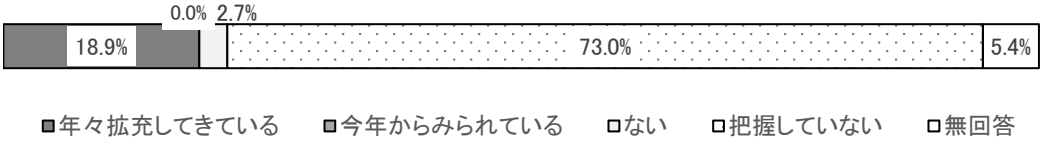
③地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている



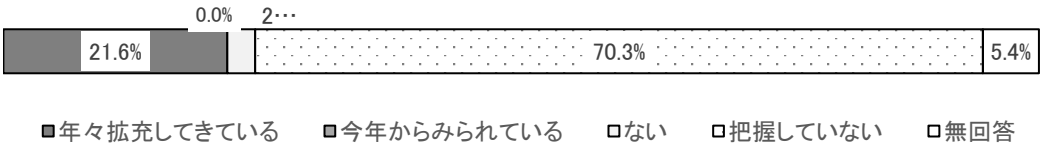

④地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている



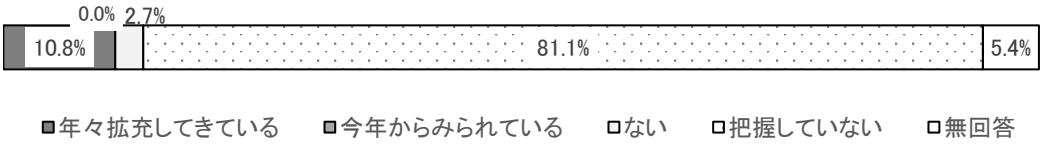

⑤地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている



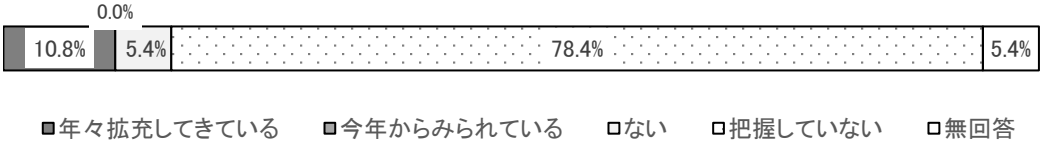

⑥地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている



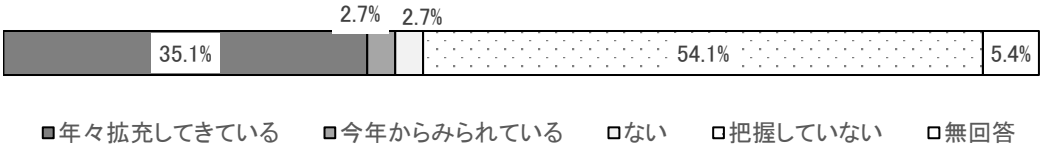

⑦地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている



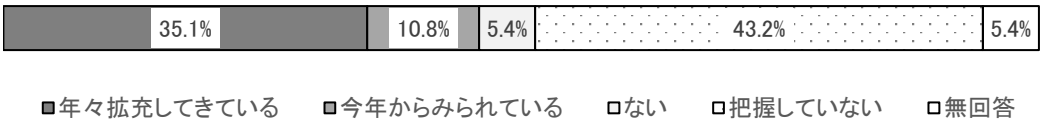

⑧地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている



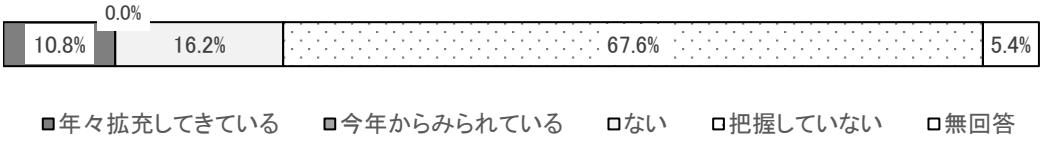

⑨認知症疾患医療センターの医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている



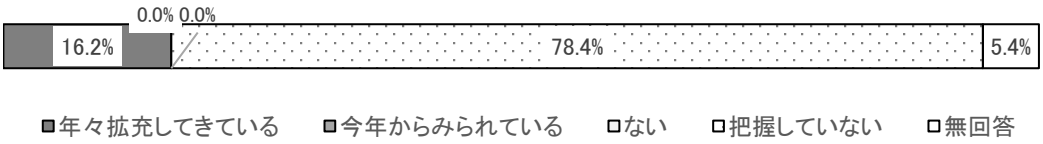

⑩行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている



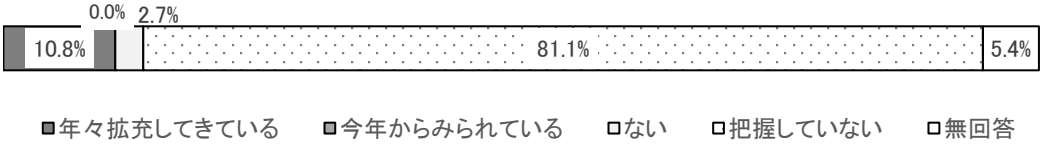

⑪本人の意見や力を活かして行政の他部署ともつながり、施策や取組をより総合的に進められるようになってきている



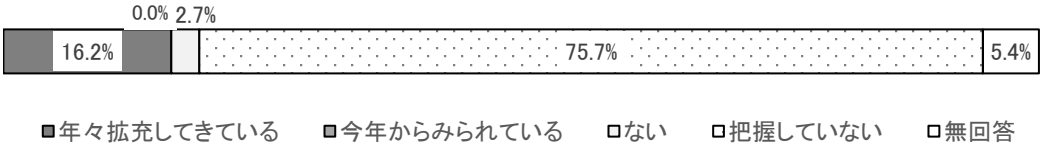

⑫認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている




⑬認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている



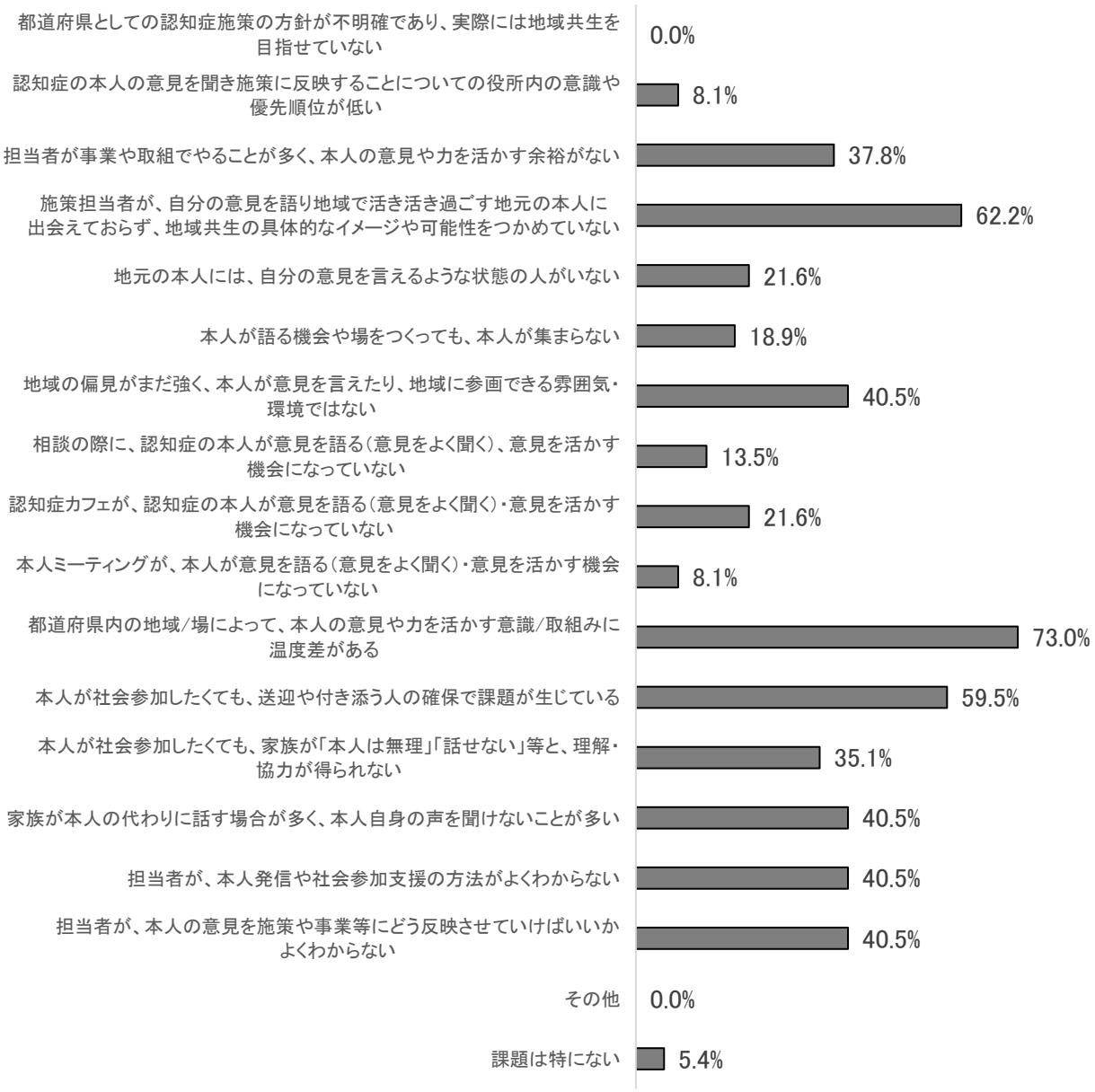

⑭立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている




**設問１３　都道府県が、認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題について**

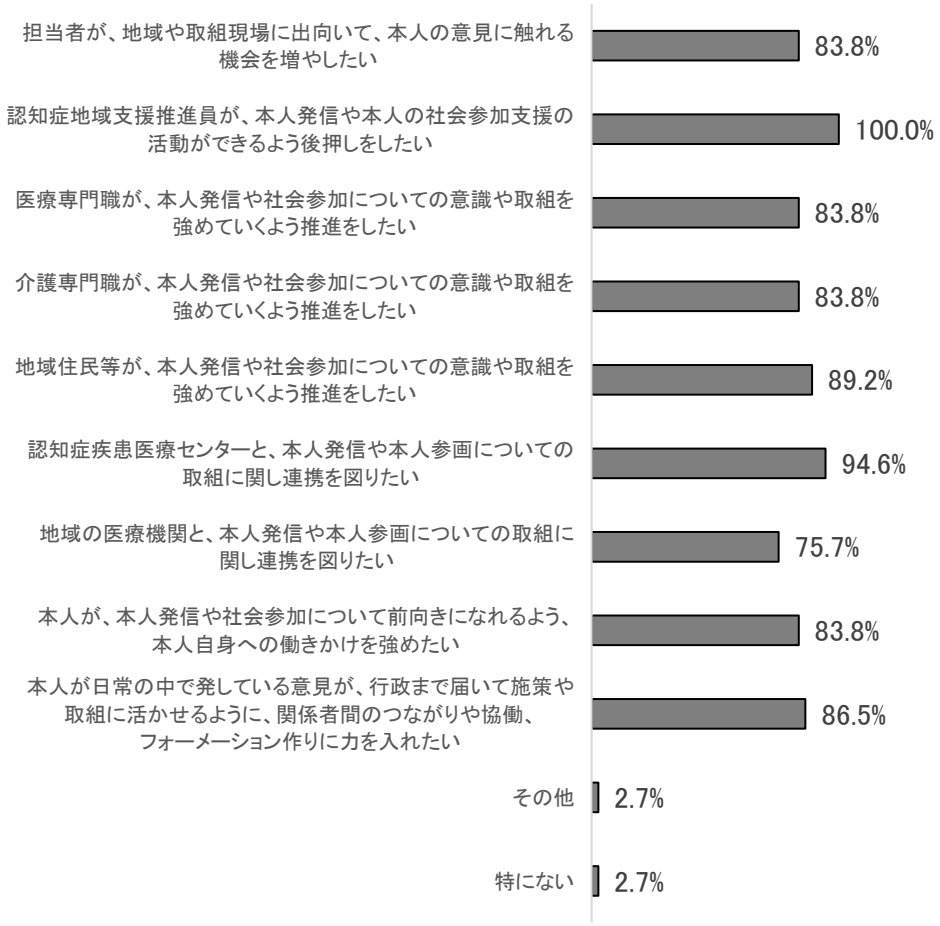
| N=37（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 都道府県としての認知症施策の方針が不明確であり、実際には地域共生を目指せていない | 0 | 0.0% |

| | | |
|---|---|---|
| 認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての役所内の意識や優先順位が低い | 3 | 8.1% |
| 担当者が事業や取組でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない | 14 | 37.8% |
| 施策担当者が、自分の意見を語り地域で活き活き過ごす地元の本人に出会えておらず、地域共生の具体的なイメージや可能性をつかめていない | 23 | 62.2% |
| 地元の本人には、自分の意見を言えるような状態の人がいない | 8 | 21.6% |
| 本人が語る機会や場をつくっても、本人が集まらない | 7 | 18.9% |
| 地域の偏見がまだ強く、本人が意見を言えたり、地域に参画できる雰囲気・環境ではない | 15 | 40.5% |
| 相談の際に、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）、意見を活かす機会になっていない | 5 | 13.5% |
| 認知症カフェが、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない | 8 | 21.6% |
| 本人ミーティングが、本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない | 3 | 8.1% |
| 都道府県内の地域/場によって、本人の意見や力を活かす意識/取組みに温度差がある | 27 | 73.0% |
| 本人が社会参加したくても、送迎や付き添う人の確保で課題が生じている | 22 | 59.5% |
| 本人が社会参加したくても、家族が「本人は無理」「話せない」等と、理解・協力が得られない | 13 | 35.1% |
| 家族が本人の代わりに話す場合が多く、本人自身の声を聞けないことが多い | 15 | 40.5% |
| 担当者が、本人発信や社会参加支援の方法がよくわからない | 15 | 40.5% |
| 担当者が、本人の意見を施策や事業等にどう反映させていけばいいかよくわからない | 15 | 40.5% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| 課題は特にない | 2 | 5.4% |


都道府県としての認知症施策の方針が不明確であり、実際には地域共生を目指せていない
0.0%
認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての役所内の意識や優先順位が低い
8.1%
担当者が事業や取組でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない
37.8%
施策担当者が、自分の意見を語り地域で活き活き過ごす地元の本人に出会えておらず、地域共生の具体的なイメージや可能性をつかめていない
62.2%
地元の本人には、自分の意見を言えるような状態の人がいない
21.6%
本人が語る機会や場をつくっても、本人が集まらない
18.9%
地域の偏見がまだ強く、本人が意見を言えたり、地域に参画できる雰囲気・環境ではない
40.5%
相談の際に、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）、意見を活かす機会になっていない
13.5%
認知症カフェが、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない
21.6%
本人ミーティングが、本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない
8.1%
都道府県内の地域/場によって、本人の意見や力を活かす意識/取組みに温度差がある
73.0%
本人が社会参加したくても、送迎や付き添う人の確保で課題が生じている
59.5%
本人が社会参加したくても、家族が「本人は無理」「話せない」等と、理解・協力が得られない
35.1%
家族が本人の代わりに話す場合が多く、本人自身の声を聞けないことが多い
40.5%
担当者が、本人発信や社会参加支援の方法がよくわからない
40.5%
担当者が、本人の意見を施策や事業等にどう反映させていけばいいかよくわからない
40.5%
その他
0.0%
課題は特にない
5.4%

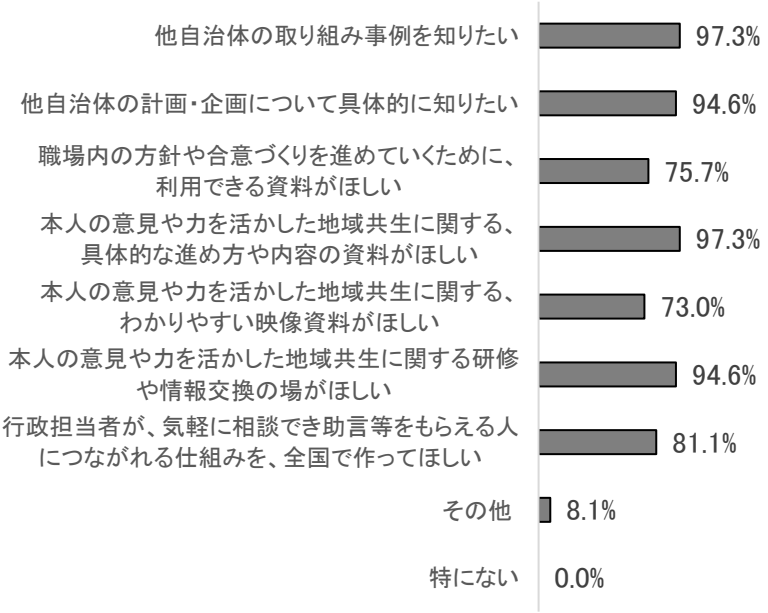
**設問１４　都道府県で地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいことについて**

| N=37（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 担当者が、地域や取組現場に出向いて、本人の意見に触れる機会を増やしたい | 31 | 83.8% |
| 認知症地域支援推進員が、本人発信や本人の社会参加支援の活動ができるよう後押しをしたい | 37 | 100.0% |
| 医療専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい | 31 | 83.8% |
| 介護専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい | 31 | 83.8% |
| 地域住民等が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい | 33 | 89.2% |
| 認知症疾患医療センターと、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい | 35 | 94.6% |
| 地域の医療機関と、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい | 28 | 75.7% |
| 本人が、本人発信や社会参加について前向きになれるよう、本人自身への働きかけを強めたい | 31 | 83.8% |
| 本人が日常の中で発している意見が、行政まで届いて施策や取組に活かせるように、関係者間のつながりや協働、フォーメーション作りに力を入れたい | 32 | 86.5% |
| その他 | 1 | 2.7% |
| 特にない | 1 | 2.7% |



**設問１５　都道府県として、認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望について**

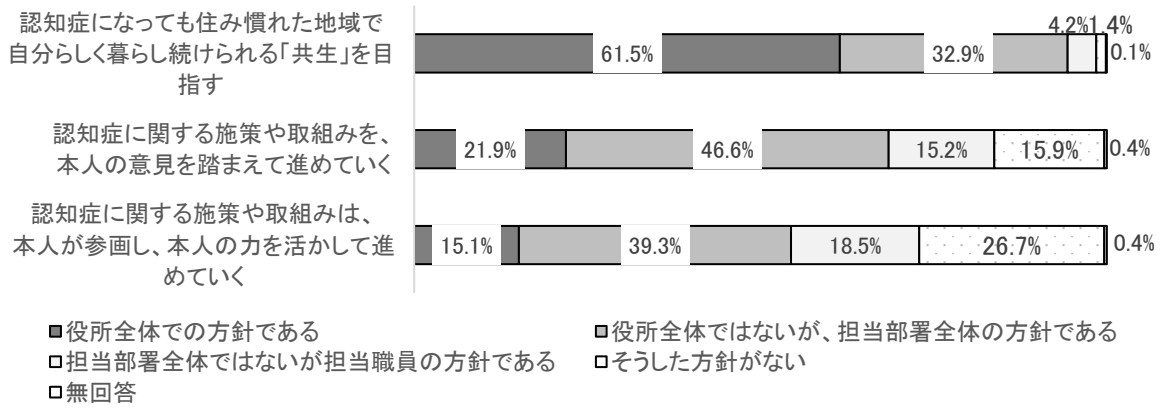
| N=37（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 他自治体の取り組み事例を知りたい | 36 | 97.3% |
| 他自治体の計画・企画について具体的に知りたい | 35 | 94.6% |
| 職場内の方針や合意づくりを進めていくために、利用できる資料がほしい | 28 | 75.7% |
| 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、具体的な進め方や内容の資料がほしい | 36 | 97.3% |
| 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、わかりやすい映像資料がほしい | 27 | 73.0% |
| 本人の意見や力を活かした地域共生に関する研修や情報交換の場がほしい | 35 | 94.6% |
| 行政担当者が、気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、全国で作ってほしい | 30 | 81.1% |
| その他 | 3 | 8.1% |
| 特にない | 0 | 0.0% |



## ３）市区町村調査結果

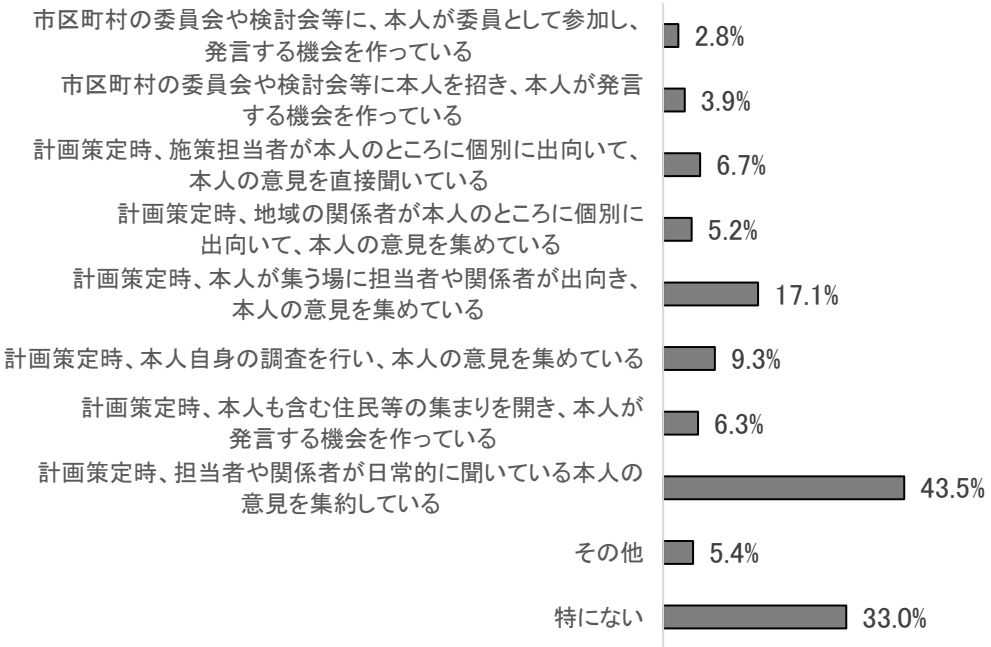
### 設問１　市区町村の認知症施策の方針について

| | N=794 | 役所全体での方針である | 役所全体ではないが、担当部署全体の方針である | 担当部署全体ではないが担当職員の方針である | そうした方針がない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指す | 回答数 | 488 | 261 | 33 | 11 | 1 | 794 |
| | % | 61.5% | 32.9% | 4.2% | 1.4% | 0.1% | 100.0% |
| 認知症に関する施策や取組みを、本人の意見を踏まえて進めていく | 回答数 | 174 | 370 | 121 | 126 | 3 | 794 |
| | % | 21.9% | 46.6% | 15.2% | 15.9% | 0.4% | 100.0% |
| 認知症に関する施策や取組みは、本人が参画し、本人の力を活かして進めていく | 回答数 | 120 | 312 | 147 | 212 | 3 | 794 |
| | % | 15.1% | 39.3% | 18.5% | 26.7% | 0.4% | 100.0% |



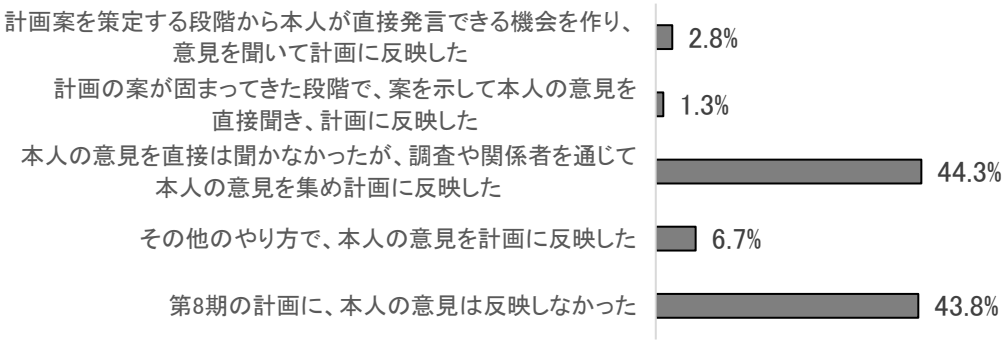
## 設問２　認知症施策の計画策定の際に、本人が意見を出せる機会づくりについて

| N=794（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 市区町村の委員会や検討会等に、本人が委員として参加し、発言する機会を作っている | 22 | 2.8% |
| 市区町村の委員会や検討会等に本人を招き、本人が発言する機会を作っている | 31 | 3.9% |
| 計画策定時、施策担当者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を直接聞いている | 53 | 6.7% |
| 計画策定時、地域の関係者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を集めている | 41 | 5.2% |
| 計画策定時、本人が集う場に担当者や関係者が出向き、本人の意見を集めている | 136 | 17.1% |
| 計画策定時、本人自身の調査を行い、本人の意見を集めている | 74 | 9.3% |
| 計画策定時、本人も含む住民等の集まりを開き、本人が発言する機会を作っている | 50 | 6.3% |
| 計画策定時、担当者や関係者が日常的に聞いている本人の意見を集約している | 345 | 43.5% |
| その他 | 43 | 5.4% |
| 特にない | 262 | 33.0% |



## 設問３　市区町村の第 8 期介護保険事業計画への、認知症の本人の意見の反映について

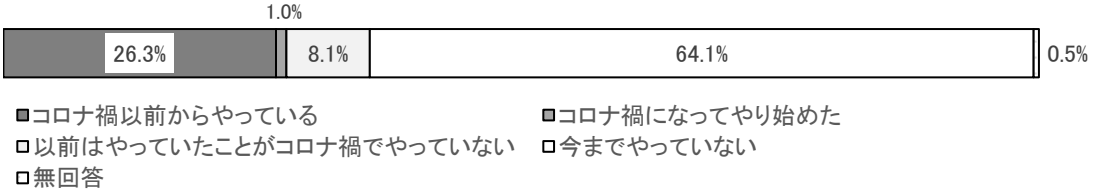
| N=794（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 計画案を策定する段階から本人が直接発言できる機会を作り、意見を聞いて計画に反映した | 22 | 2.8% |
| 計画の案が固まってきた段階で、案を示して本人の意見を直接聞き、計画に反映した | 10 | 1.3% |
| 本人の意見を直接は聞かなかったが、調査や関係者を通じて本人の意見を集め計画に反映した | 352 | 44.3% |
| その他のやり方で、本人の意見を計画に反映した | 53 | 6.7% |
| 第 8 期の計画に、本人の意見は反映しなかった | 348 | 43.8% |



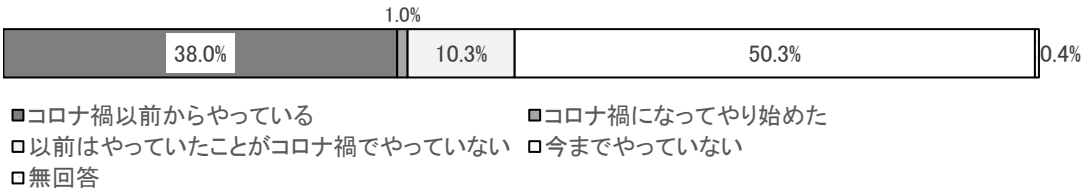
**設問４　日常の中で、本人が意見を表しやすい環境づくりについて**

| | N=794 | コロナ禍以前からやっている | コロナ禍になってやり始めた | 以前はやっていたことがコロナ禍でやっていない | 今までやっていない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 施策担当者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係をつくっている | 回答数 | 209 | 8 | 64 | 509 | 4 | 794 |
| | % | 26.3% | 1.0% | 8.1% | 64.1% | 0.5% | 100.0% |
| 地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことを施策担当者として推進している | 回答数 | 302 | 8 | 82 | 399 | 3 | 794 |
| | % | 38.0% | 1.0% | 10.3% | 50.3% | 0.4% | 100.0% |
| 相談の際に、本人自身が意見を言える（本人意見を聞く）ことに力をいれている | 回答数 | 511 | 6 | 44 | 229 | 4 | 794 |
| | % | 64.4% | 0.8% | 5.5% | 28.8% | 0.5% | 100.0% |
| 地域ケア会議や事例検討会等に、本人が参加し、本人が意見を言えるようにしている | 回答数 | 83 | 1 | 22 | 685 | 3 | 794 |
| | % | 10.5% | 0.1% | 2.8% | 86.3% | 0.4% | 100.0% |
| 本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合いながら、意見を表せるようにしている | 回答数 | 65 | 14 | 41 | 670 | 4 | 794 |
| | % | 8.2% | 1.8% | 5.2% | 84.4% | 0.5% | 100.0% |
| 住民等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 95 | 7 | 65 | 623 | 4 | 794 |
| | % | 12.0% | 0.9% | 8.2% | 78.5% | 0.5% | 100.0% |
| 専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 35 | 5 | 21 | 729 | 4 | 794 |
| | % | 4.4% | 0.6% | 2.6% | 91.8% | 0.5% | 100.0% |
| 認知症疾患医療センターと協力して、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 36 | 6 | 17 | 730 | 5 | 794 |
| | % | 4.5% | 0.8% | 2.1% | 91.9% | 0.6% | 100.0% |
| オンラインを使って、本人が意見を出したり、話し合える機会をつくっている | 回答数 | 4 | 21 | 4 | 761 | 4 | 794 |
| | % | 0.5% | 2.6% | 0.5% | 95.8% | 0.5% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 6 | 5 | 6 | 468 | 309 | 794 |
| | % | 0.8% | 0.6% | 0.8% | 58.9% | 38.9% | 100.0% |
| 特にない | 回答数 | 8 | 0 | 63 | 366 | 357 | 794 |
| | % | 1.0% | 0.0% | 7.9% | 46.1% | 45.0% | 100.0% |

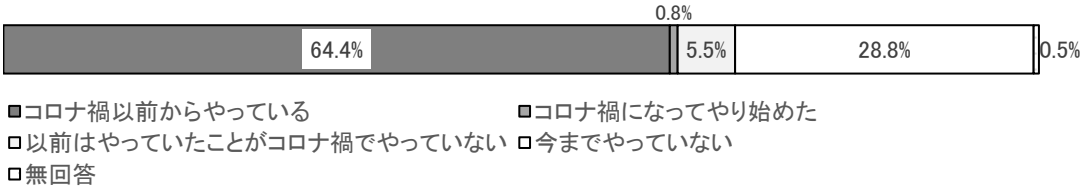
①施策担当者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係をつくっている



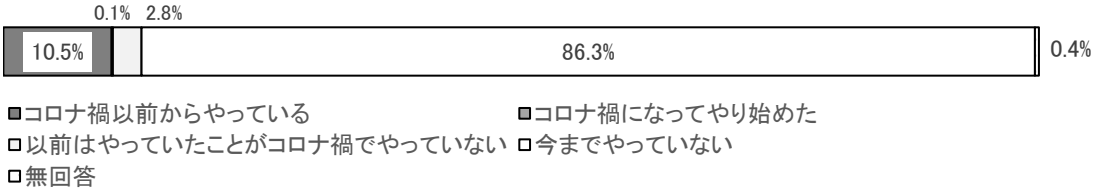

②地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことを施策担当者として推進している



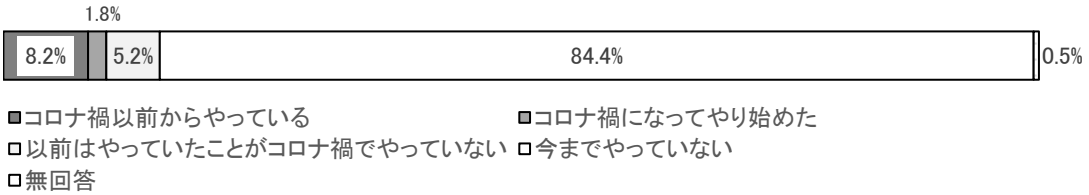

③相談の際に、本人自身が意見を言える（本人意見を聞く）ことに力をいれている



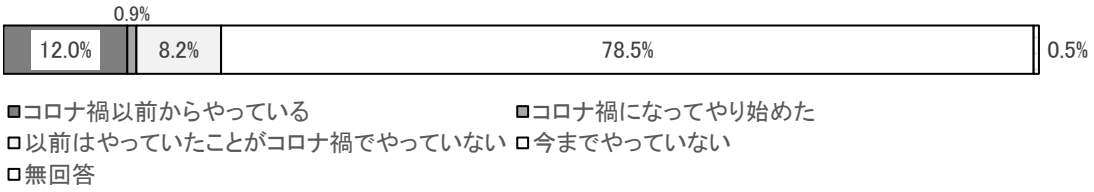

④地域ケア会議や事例検討会等に、本人が参加し、本人が意見を言えるようにしている



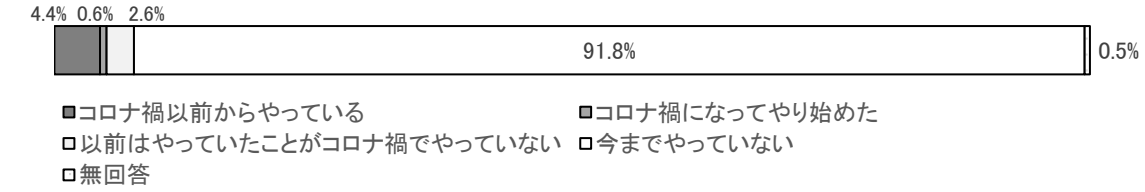

⑤本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合いながら、意見を表せるようにしている



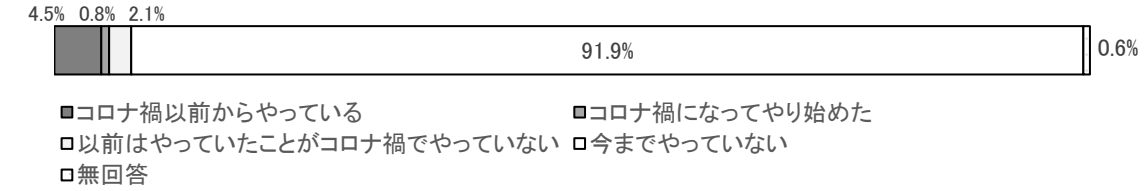

⑥住民等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている



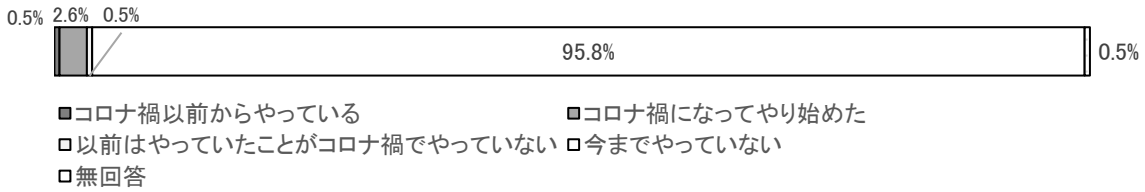
⑦専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている




⑧認知症疾患医療センターと協力して、本人が意見等を語れる機会をつくっている




⑨オンラインを使って、本人が意見を出したり、話し合える機会をつくっている

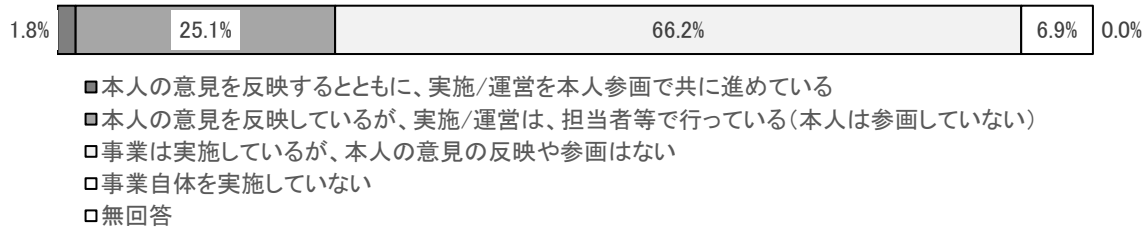


**設問５　市区町村としての事業や取組を実際に進める上での、本人の意見の反映・参画について**

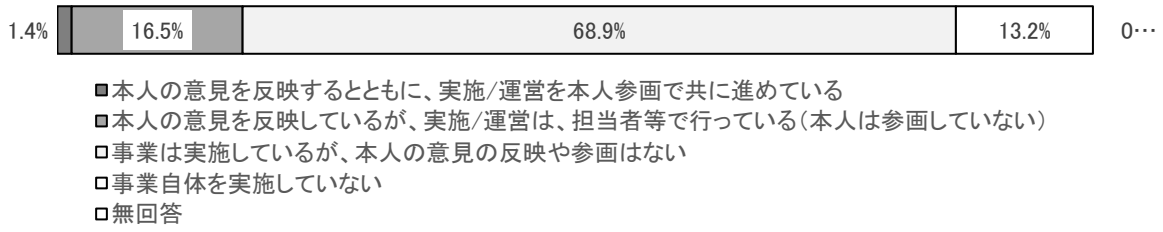
| | N=794 | 本人の意見を反映するとともに、実施/運営を本人参画で共に進めている | 本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない） | 事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない | 事業自体を実施していない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「認知症ケアパス」の作成・改良 | 回答数 | 14 | 199 | 526 | 55 | 0 | 794 |
| | % | 1.8% | 25.1% | 66.2% | 6.9% | 0.0% | 100.0% |
| 認知症関連の普及・啓発用のチラシや冊子等の作成・改良 | 回答数 | 11 | 131 | 547 | 105 | 0 | 794 |
| | % | 1.4% | 16.5% | 68.9% | 13.2% | 0.0% | 100.0% |
| 認知症関連のホームページの作成・改良 | 回答数 | 2 | 61 | 496 | 235 | 0 | 794 |
| | % | 0.3% | 7.7% | 62.5% | 29.6% | 0.0% | 100.0% |
| 相談支援体制づくり | 回答数 | 12 | 161 | 589 | 32 | 0 | 794 |
| | % | 1.5% | 20.3% | 74.2% | 4.0% | 0.0% | 100.0% |
| 認知症カフェの開設や運営 | 回答数 | 84 | 272 | 339 | 99 | 0 | 794 |
| | % | 10.6% | 34.3% | 42.7% | 12.5% | 0.0% | 100.0% |
| 本人ミーティングの開設や運営 | 回答数 | 41 | 51 | 31 | 670 | 1 | 794 |
| | % | 5.2% | 6.4% | 3.9% | 84.4% | 0.1% | 100.0% |
| ピアサポート（本人による本人の相談・支えあい等）の開設や運営 | 回答数 | 18 | 22 | 21 | 733 | 0 | 794 |
| | % | 2.3% | 2.8% | 2.6% | 92.3% | 0.0% | 100.0% |
| 自地域内の認知症バリアの点検・改善（認知症バリアフリー) | 回答数 | 3 | 24 | 51 | 715 | 1 | 794 |
| | % | 0.4% | 3.0% | 6.4% | 90.1% | 0.1% | 100.0% |
| 本人が望む社会参加活動の場や機会づくり | 回答数 | 40 | 68 | 79 | 607 | 0 | 794 |
| | % | 5.0% | 8.6% | 9.9% | 76.4% | 0.0% | 100.0% |
| チームオレンジの企画・運営 | 回答数 | 15 | 46 | 97 | 636 | 0 | 794 |
| | % | 1.9% | 5.8% | 12.2% | 80.1% | 0.0% | 100.0% |
| 見守り・SOS 体制作り | 回答数 | 12 | 112 | 584 | 86 | 0 | 794 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | 1.5% | 14.1% | 73.6% | 10.8% | 0.0% | 100.0% |
| 医療・介護サービスの質の向上 | 回答数 | 6 | 118 | 447 | 223 | 0 | 794 |
| | % | 0.8% | 14.9% | 56.3% | 28.1% | 0.0% | 100.0% |
| 市区町村版の希望大使の任命 | 回答数 | 2 | 2 | 6 | 784 | 0 | 794 |
| | % | 0.3% | 0.3% | 0.8% | 98.7% | 0.0% | 100.0% |
| 認知症に関する条例づくり | 回答数 | 3 | 15 | 46 | 730 | 0 | 794 |
| | % | 0.4% | 1.9% | 5.8% | 91.9% | 0.0% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 2 | 2 | 2 | 473 | 315 | 794 |
| | % | 0.3% | 0.3% | 0.3% | 59.6% | 39.7% | 100.0% |

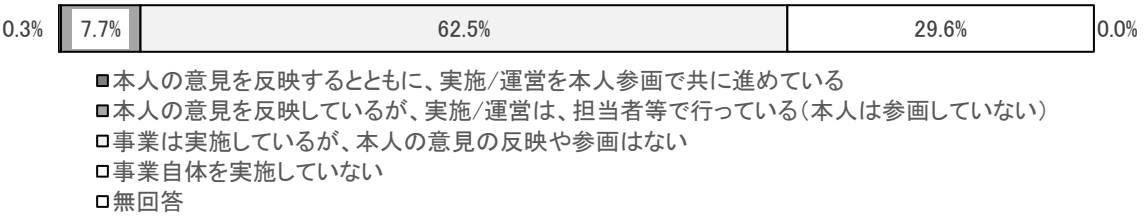
①「認知症ケアパス」の作成・改良



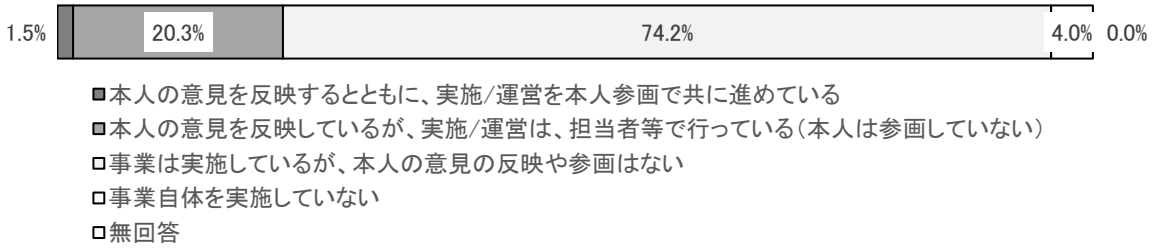

②認知症関連の普及・啓発用のチラシや冊子等の作成・改良



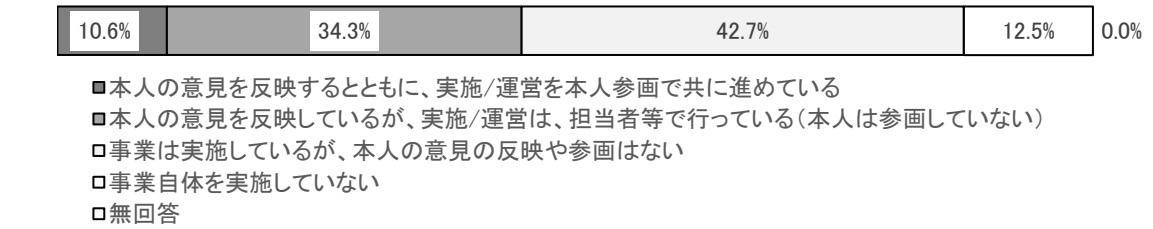

③認知症関連のホームページの作成・改良



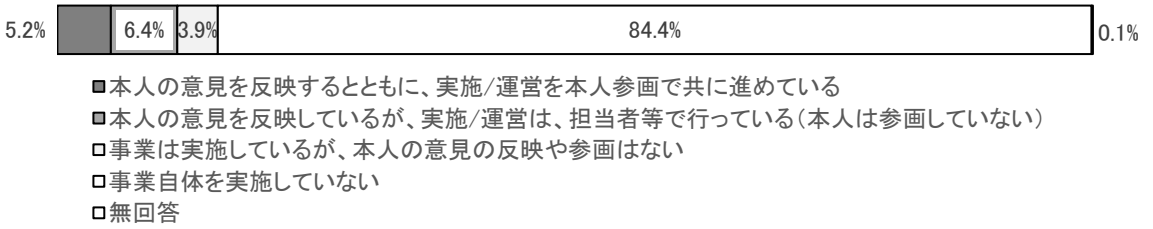

④相談支援体制づくり



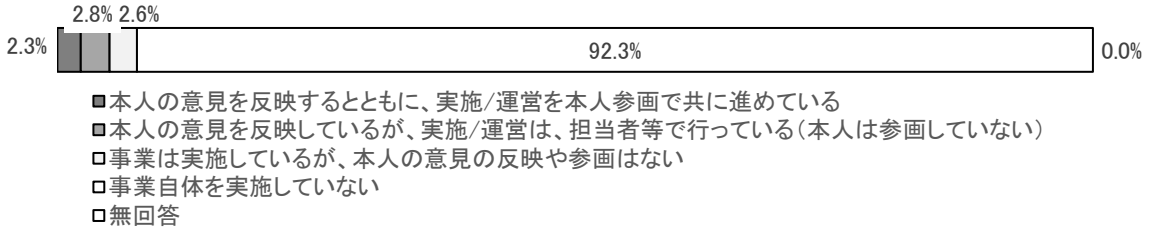

⑤認知症カフェの開設や運営



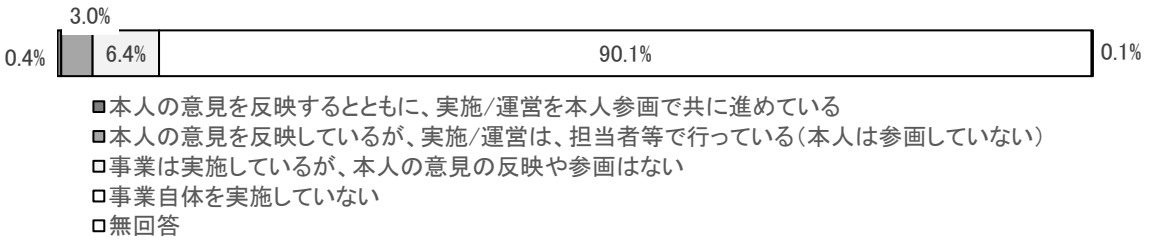

⑥本人ミーティングの開設や運営



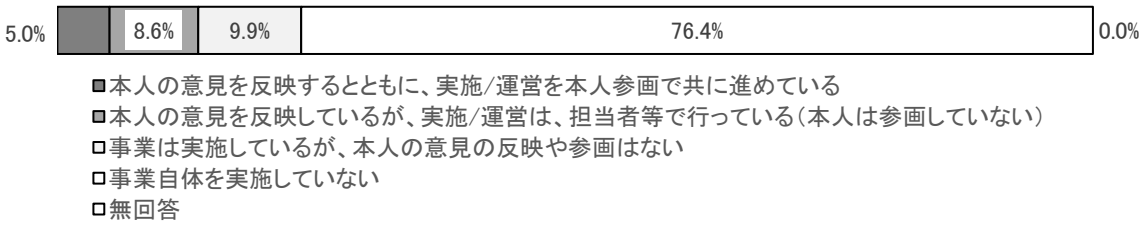

⑦ピアサポート（本人による本人の相談・支えあい等）の開設や運営




⑧自地域内の認知症バリアの点検・改善（認知症バリアフリー）

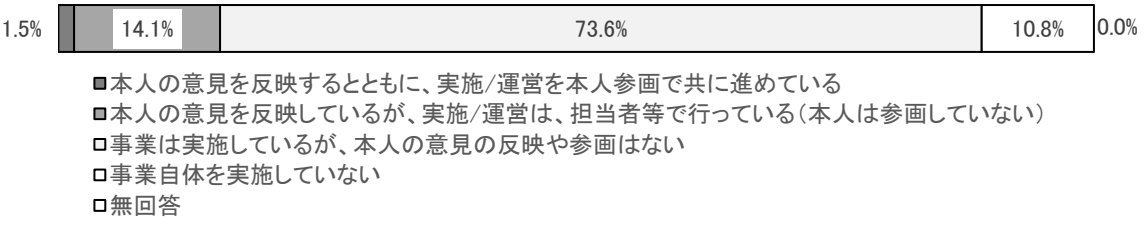



⑨本人が望む社会参加活動の場や機会づくり

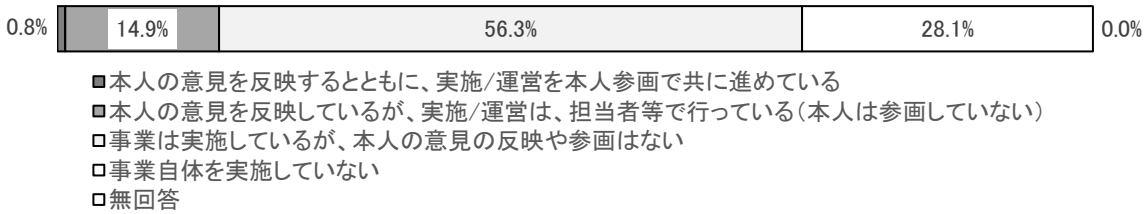



⑩チームオレンジの企画・運営

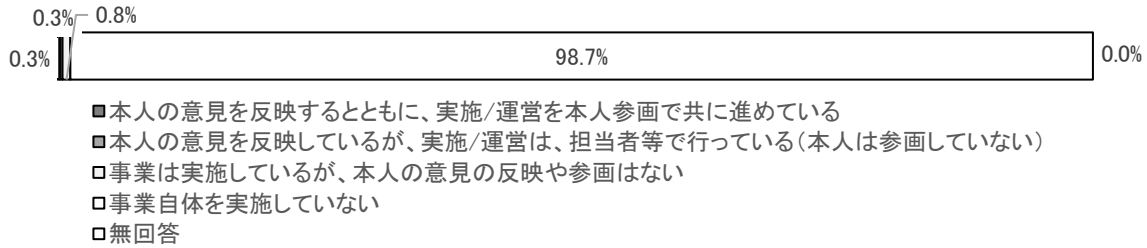
⑪見守り・SOS 体制作り



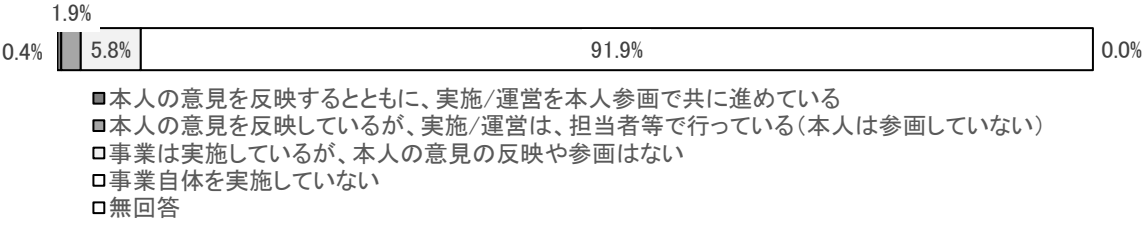

⑫医療・介護サービスの質の向上




⑬市区町村版の希望大使の任命

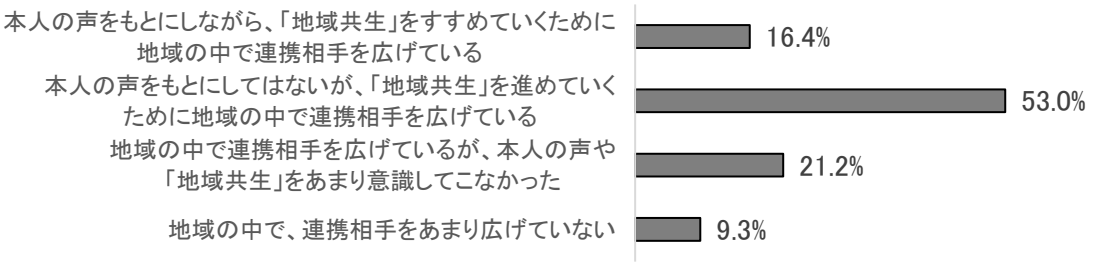



⑭認知症に関する条例づくり



## 設問６－１　地域共生を進めていくための、認知症施策担当者と地域との連携について

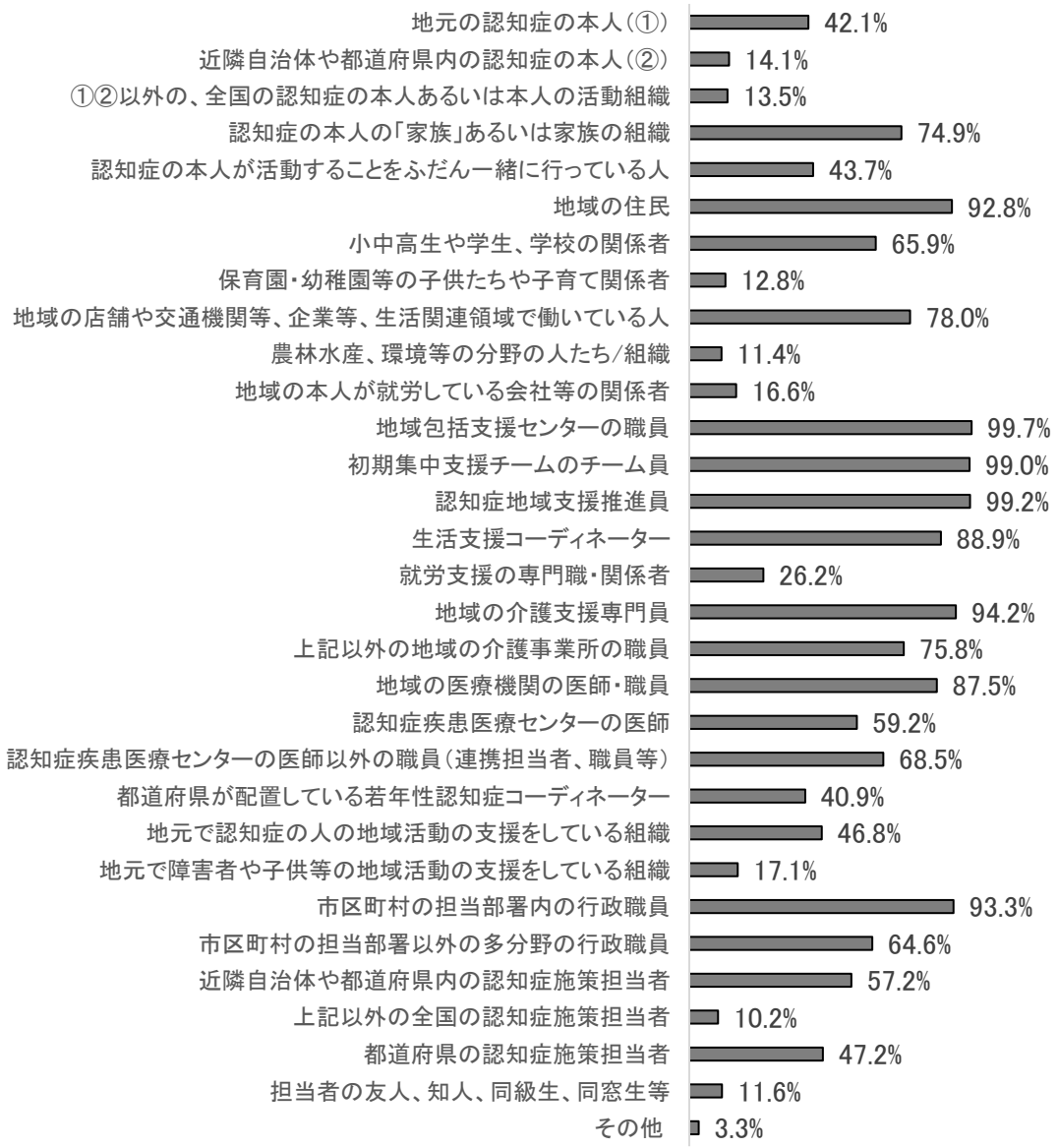
| N=792 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 本人の声をもとにしながら、「地域共生」をすすめていくために地域の中で連携相手を広げている | 130 | 16.4% |
| 本人の声をもとにしてはないが、「地域共生」を進めていくために地域の中で連携相手を広げている | 420 | 53.0% |
| 地域の中で連携相手を広げているが、本人の声や「地域共生」をあまり意識してこなかった | 168 | 21.2% |
| 地域の中で、連携相手をあまり広げていない | 74 | 9.3% |
| 合計 | 792 | 100.0% |




## 設問６－２　連携相手を広げている市区町村の、連携相手について

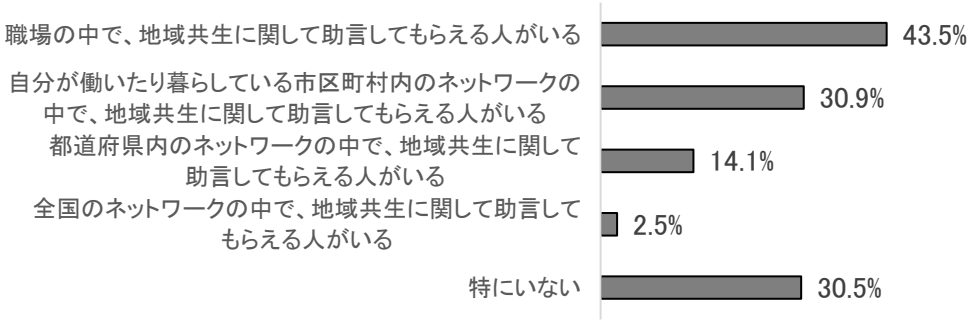
| N=718（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 地元の認知症の本人（①） | 302 | 42.1% |
| 近隣自治体や都道府県内の認知症の本人（②） | 101 | 14.1% |
| ①②以外の、全国の認知症の本人あるいは本人の活動組織 | 97 | 13.5% |
| 認知症の本人の「家族」あるいは家族の組織 | 538 | 74.9% |
| 認知症の本人が活動することをふだん一緒に行っている人（パートナー等） | 314 | 43.7% |
| 地域の住民 | 666 | 92.8% |
| 小中高生や学生、学校の関係者 | 473 | 65.9% |
| 保育園・幼稚園等の子供たちや子育て関係者 | 92 | 12.8% |
| 地域の店舗や交通機関等、企業等、生活関連領域で働いている人 | 560 | 78.0% |
| 農林水産、環境等の分野の人たち/組織 | 82 | 11.4% |
| 地域の本人が就労している会社等の関係者 | 119 | 16.6% |
| 地域包括支援センターの職員 | 716 | 99.7% |
| 初期集中支援チームのチーム員 | 711 | 99.0% |
| 認知症地域支援推進員 | 712 | 99.2% |
| 生活支援コーディネーター | 638 | 88.9% |
| 就労支援の専門職・関係者 | 188 | 26.2% |
| 地域の介護支援専門員 | 676 | 94.2% |
| 上記以外の地域の介護事業所の職員 | 544 | 75.8% |
| 地域の医療機関の医師・職員 | 628 | 87.5% |
| 認知症疾患医療センターの医師 | 425 | 59.2% |
| 認知症疾患医療センターの医師以外の職員（連携担当者、職員等） | 492 | 68.5% |
| 都道府県が配置している若年性認知症コーディネーター | 294 | 40.9% |

| | | |
|---|---|---|
| 地元で認知症の人の地域活動の支援をしている組織 | 336 | 46.8% |
| 地元で障害者や子供等の地域活動の支援をしている組織 | 123 | 17.1% |
| 市区町村の担当部署内の行政職員 | 670 | 93.3% |
| 市区町村の担当部署以外の多分野の行政職員 | 464 | 64.6% |
| 近隣自治体や都道府県内の認知症施策担当者 | 411 | 57.2% |
| 上記以外の全国の認知症施策担当者 | 73 | 10.2% |
| 都道府県の認知症施策担当者 | 339 | 47.2% |
| 担当者の友人、知人、同級生、同窓生等 | 83 | 11.6% |
| その他 | 24 | 3.3% |



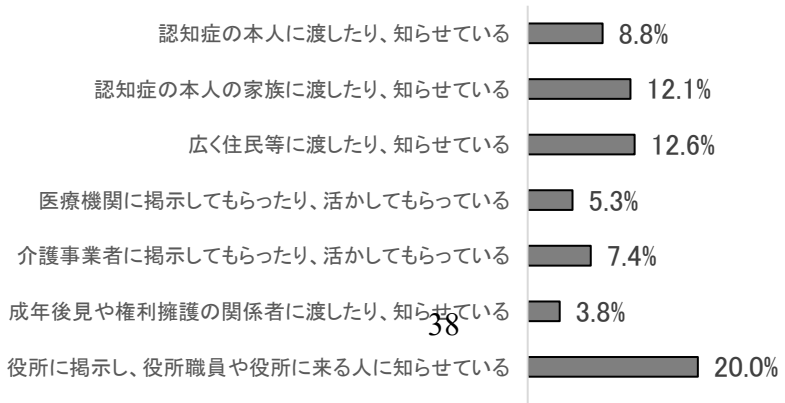
## 設問７　施策担当者として地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言もらえる人について

| N=794（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 職場の中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 345 | 43.5% |
| 自分が働いたり暮らしている市区町村内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 245 | 30.9% |
| 都道府県内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 112 | 14.1% |
| 全国のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 20 | 2.5% |
| 特にいない | 242 | 30.5% |



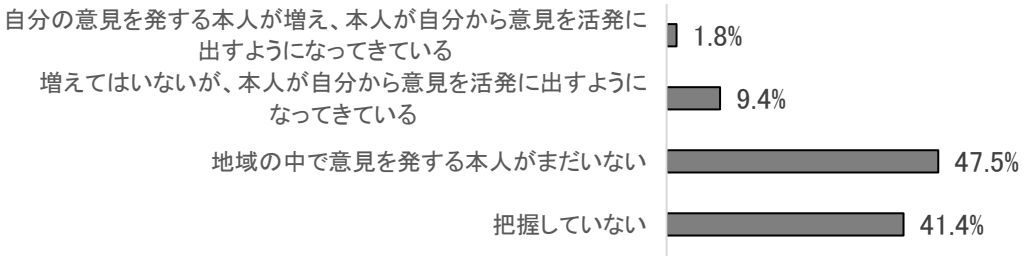

## 設問８　市区町村での「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方について

| N=794（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 認知症の本人に渡したり、知らせている | 70 | 8.8% |
| 認知症の本人の家族に渡したり、知らせている | 96 | 12.1% |
| 広く住民等に渡したり、知らせている | 100 | 12.6% |
| 医療機関に掲示してもらったり、活かしてもらっている | 42 | 5.3% |
| 介護事業者に掲示してもらったり、活かしてもらっている | 59 | 7.4% |
| 成年後見や権利擁護の関係者に渡したり、知らせている | 30 | 3.8% |
| 役所に掲示し、役所職員や役所に来る人に知らせている | 159 | 20.0% |
| 議員や首長に渡したり、知らせている | 9 | 1.1% |
| 「希望宣言」をもとに本人と話し合い、本人が前向きに暮らしていくきっかけにしている | 20 | 2.5% |
| 「希望宣言」をもとに地域の関係者で話し合い、希望のリレーに取組んでいる | 19 | 2.4% |
| 市区町村として地元版の希望大使を任命している　*名称は希望大使以外の独自のものでも | 1 | 0.1% |
| その他 、希望宣言を活かしている | 45 | 5.7% |
| 「希望宣言」を知らなかった | 238 | 30.0% |



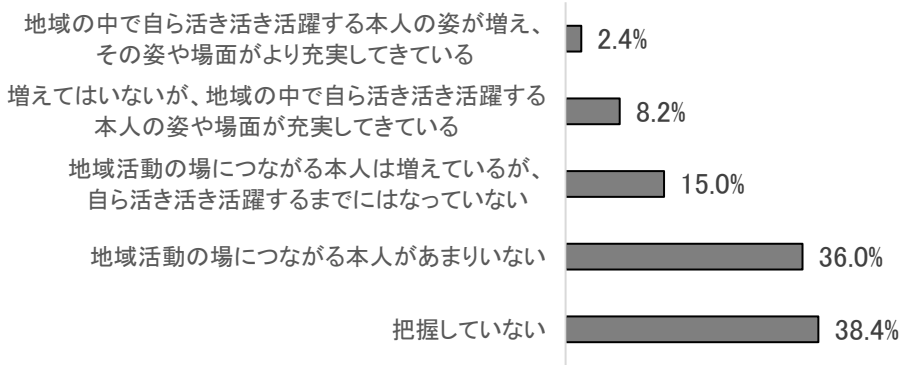
## 設問９　市区町村で、地域の中で意見を発する地元の認知症の本人が増えていますか

| N=790 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 自分の意見を発する本人が増え、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている | 14 | 1.8% |
| 増えてはいないが、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている | 74 | 9.4% |
| 地域の中で意見を発する本人がまだいない | 375 | 47.5% |
| 把握していない | 327 | 41.4% |
| 合計 | 790 | 100.0% |




## 設問１０　市区町村で、地域の中で自ら活き活き活躍する本人が増えていますか

| N=789 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿が増え、その姿や場面がより充実してきている | 19 | 2.4% |
| 増えてはいないが、地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿や場面が充実してきている | 65 | 8.2% |
| 地域活動の場につながる本人は増えているが、自ら活き活き活躍するまでにはなっていない | 118 | 15.0% |
| 地域活動の場につながる本人があまりいない | 284 | 36.0% |
| 把握していない | 303 | 38.4% |
| 合計 | 789 | 100.0% |

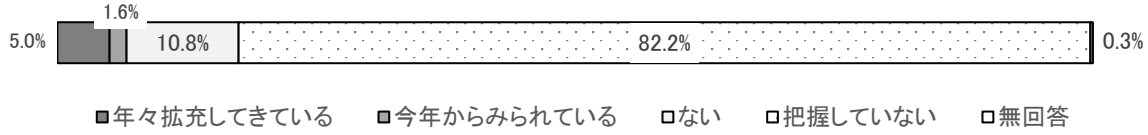


## 設問１１　市区町村での変化について

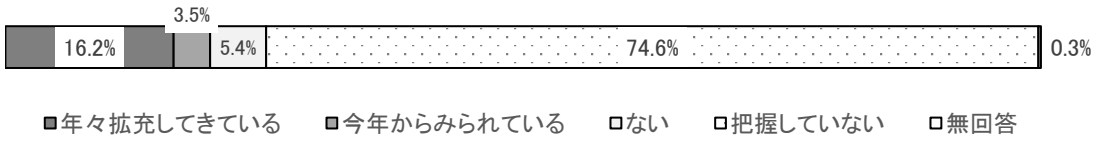
| | N=794 | 年々拡充してきている | 今年からみられている | ない | 把握していない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前向きに暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている | 回答数 | 40 | 13 | 86 | 653 | 2 | 794 |
| | % | 5.0% | 1.6% | 10.8% | 82.2% | 0.3% | 100.0% |
| 本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている | 回答数 | 129 | 28 | 43 | 592 | 2 | 794 |
| | % | 16.2% | 3.5% | 5.4% | 74.6% | 0.3% | 100.0% |
| 地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている | 回答数 | 225 | 27 | 46 | 493 | 3 | 794 |
| | % | 28.3% | 3.4% | 5.8% | 62.1% | 0.4% | 100.0% |
| 地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている | 回答数 | 146 | 7 | 65 | 575 | 1 | 794 |
| | % | 18.4% | 0.9% | 8.2% | 72.4% | 0.1% | 100.0% |
| 地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている | 回答数 | 174 | 14 | 53 | 552 | 1 | 794 |
| | % | 21.9% | 1.8% | 6.7% | 69.5% | 0.1% | 100.0% |
| 地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 280 | 11 | 49 | 453 | 1 | 794 |
| | % | 35.3% | 1.4% | 6.2% | 57.1% | 0.1% | 100.0% |
| 地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 186 | 5 | 55 | 547 | 1 | 794 |
| | % | 23.4% | 0.6% | 6.9% | 68.9% | 0.1% | 100.0% |
| 地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 179 | 10 | 45 | 559 | 1 | 794 |
| | % | 22.5% | 1.3% | 5.7% | 70.4% | 0.1% | 100.0% |
| 認知症疾患医療センターの医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 175 | 11 | 66 | 541 | 1 | 794 |
| | % | 22.0% | 1.4% | 8.3% | 68.1% | 0.1% | 100.0% |
| 行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 312 | 67 | 157 | 256 | 2 | 794 |
| | % | 39.3% | 8.4% | 19.8% | 32.2% | 0.3% | 100.0% |
| 本人の意見や力を活かして行政の他部署ともつながり、施策や取組をより総合的に進められるようになってきている | 回答数 | 130 | 27 | 298 | 338 | 1 | 794 |
| | % | 16.4% | 3.4% | 37.5% | 42.6% | 0.1% | 100.0% |
| 認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている | 回答数 | 235 | 19 | 120 | 419 | 1 | 794 |
| | % | 29.6% | 2.4% | 15.1% | 52.8% | 0.1% | 100.0% |
| 認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている | 回答数 | 32 | 8 | 194 | 559 | 1 | 794 |
| | % | 4.0% | 1.0% | 24.4% | 70.4% | 0.1% | 100.0% |
| 立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている | 回答数 | 177 | 21 | 98 | 496 | 2 | 794 |
| | % | 22.3% | 2.6% | 12.3% | 62.5% | 0.3% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 3 | 0 | 80 | 418 | 293 | 794 |
| | % | 0.4% | 0.0% | 10.1% | 52.6% | 36.9% | 100.0% |
| 特にない | 回答数 | 2 | 1 | 135 | 332 | 324 | 794 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | 0.3% | 0.1% | 17.0% | 41.8% | 40.8% | 100.0% |

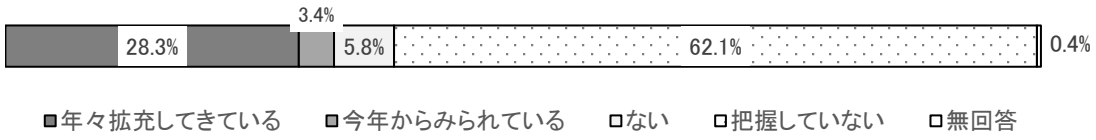
①前向きに暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている




②本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている

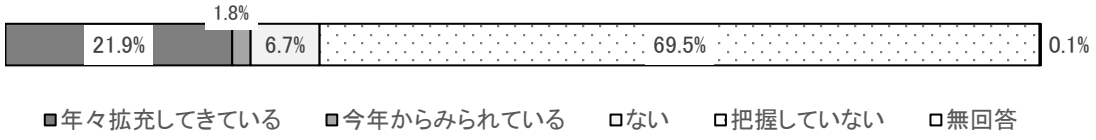



③地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている

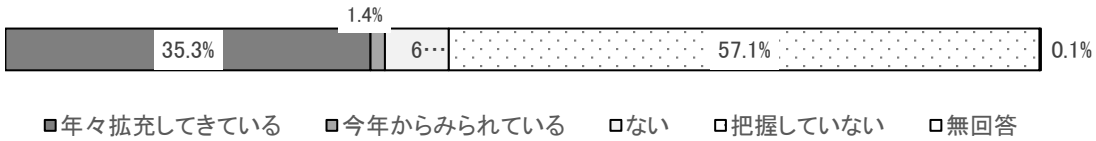



④地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている

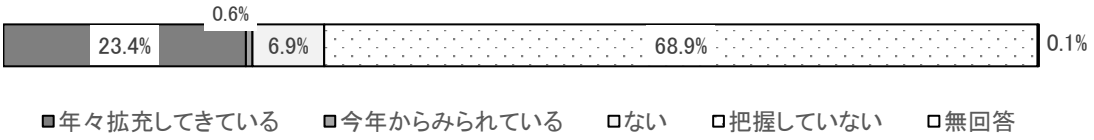
⑤地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている




⑥地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている



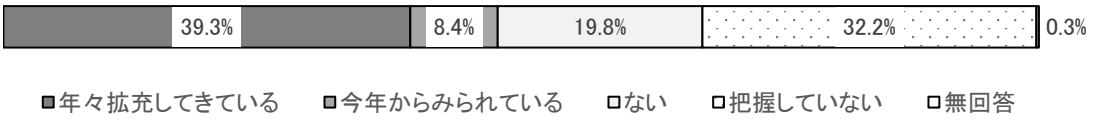
⑦地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている




⑧地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている

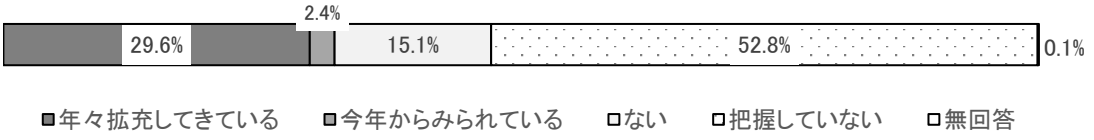
⑨認知症疾患医療センターの医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている

⑩行政担当者が、本人の意見や力を活活かしながら、地域共生に取組むようになってきている

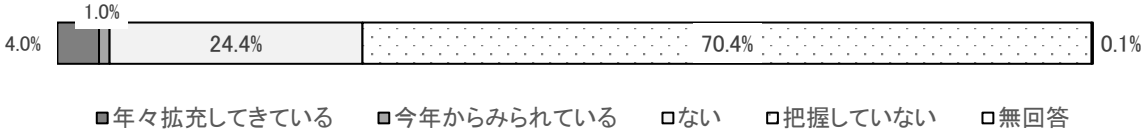



⑪本人の意見や力を活かして行政の他部署ともつながり、施策や取組をより総合的に進められるようになってきている

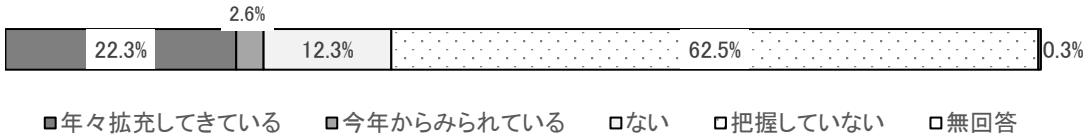
⑫認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている




⑬認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている



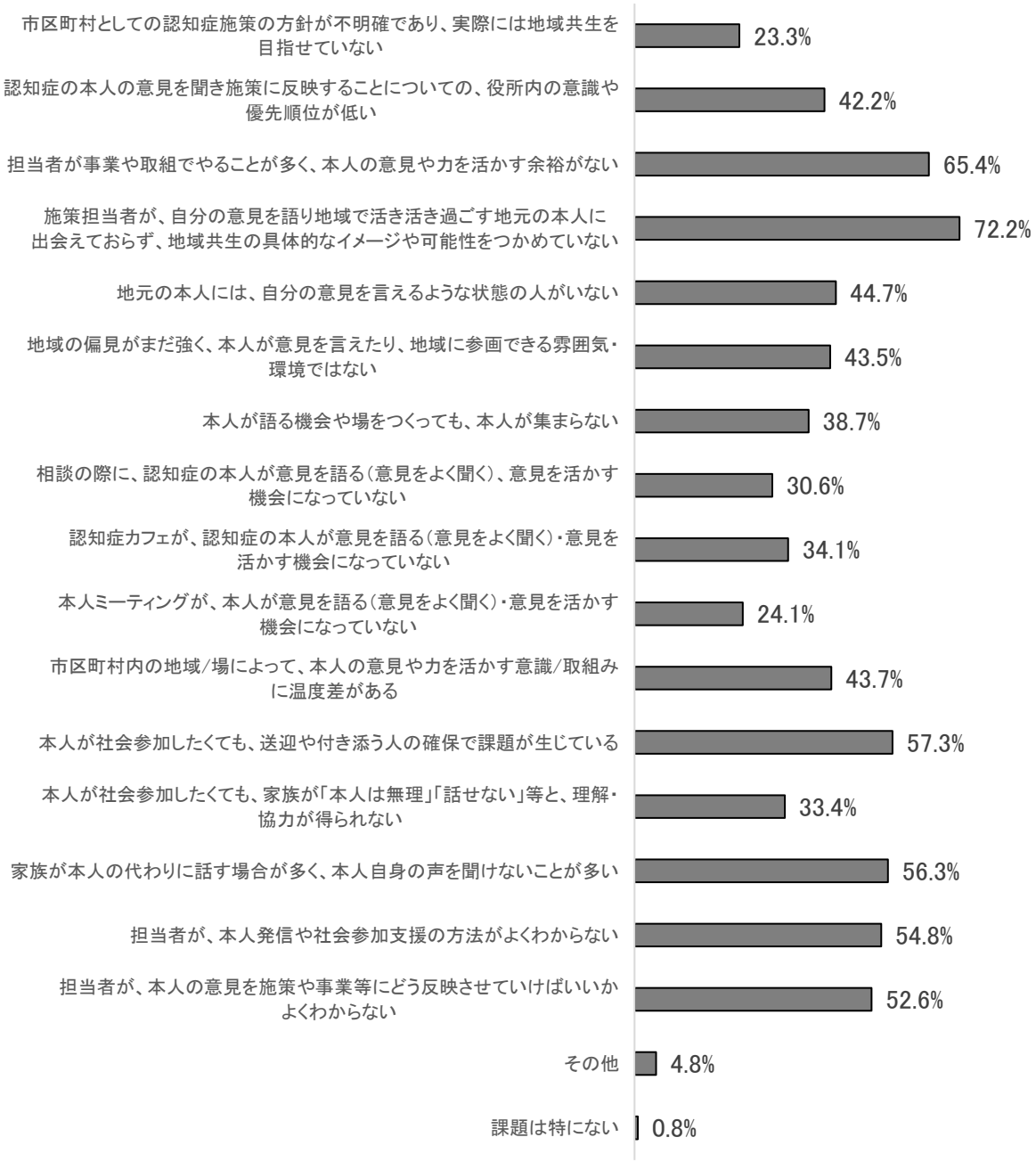

⑭立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている




**設問１２　市区町村として、認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題について**

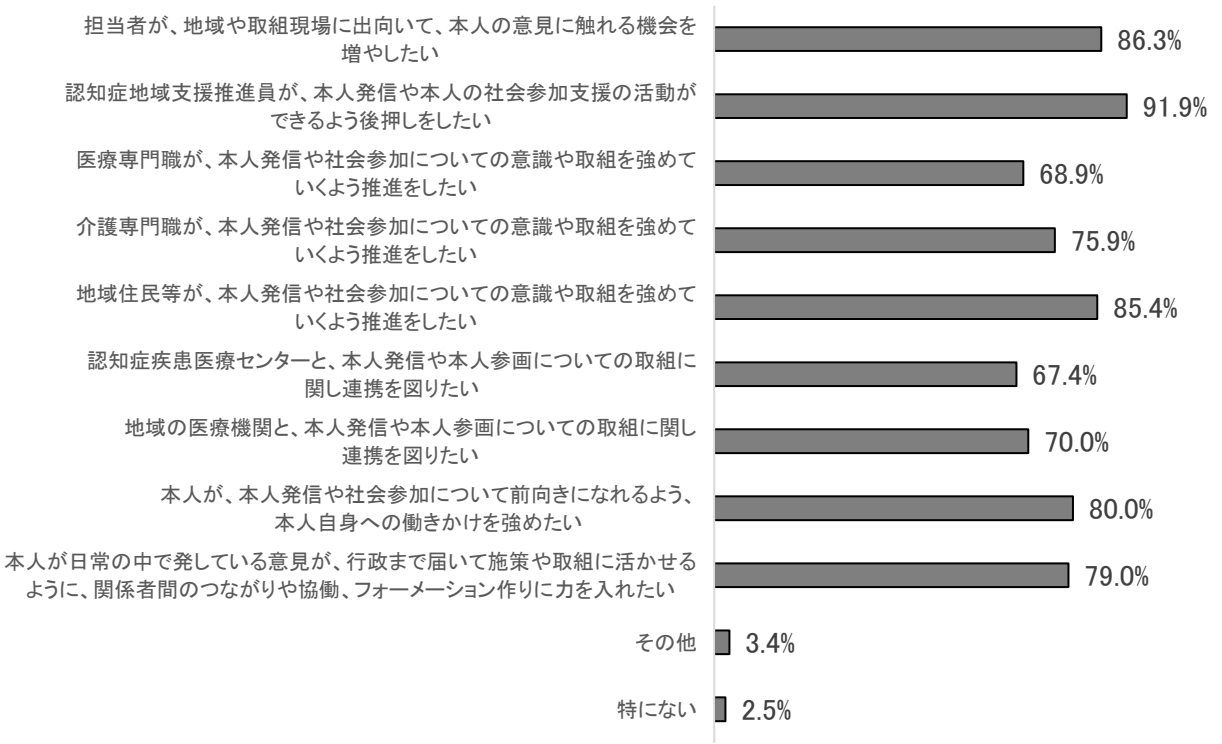
| N=794（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 市区町村としての認知症施策の方針が不明確であり、実際には地域共生を目指せていない | 185 | 23.3% |
| 認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての、役所内の意識や優先順位が低い | 335 | 42.2% |
| 担当者が事業や取組でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない | 519 | 65.4% |
| 施策担当者が、自分の意見を語り地域で活き活き過ごす地元の本人に出会えておらず、地域共生の具体的なイメージや可能性をつかめていない | 573 | 72.2% |
| 地元の本人には、自分の意見を言えるような状態の人がいない | 355 | 44.7% |
| 地域の偏見がまだ強く、本人が意見を言えたり、地域に参画できる雰囲気・環境ではない | 345 | 43.5% |
| 本人が語る機会や場をつくっても、本人が集まらない | 307 | 38.7% |
| 相談の際に、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）、意見を活かす機会になっていない | 243 | 30.6% |
| 認知症カフェが、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない | 271 | 34.1% |
| 本人ミーティングが、本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない | 191 | 24.1% |
| 市区町村内の地域/場によって、本人の意見や力を活かす意識/取組みに温度差がある | 347 | 43.7% |
| 本人が社会参加したくても、送迎や付き添う人の確保で課題が生じている | 455 | 57.3% |
| 本人が社会参加したくても、家族が「本人は無理」「話せない」等と、理解・協力が得られない | 265 | 33.4% |
| 家族が本人の代わりに話す場合が多く、本人自身の声を聞けないことが多い | 447 | 56.3% |

| | | |
|---|---|---|
| 担当者が、本人発信や社会参加支援の方法がよくわからない | 435 | 54.8% |
| 担当者が、本人の意見を施策や事業等にどう反映させていけばいいかよくわからない | 418 | 52.6% |
| その他 | 38 | 4.8% |
| 課題は特にない | 6 | 0.8% |



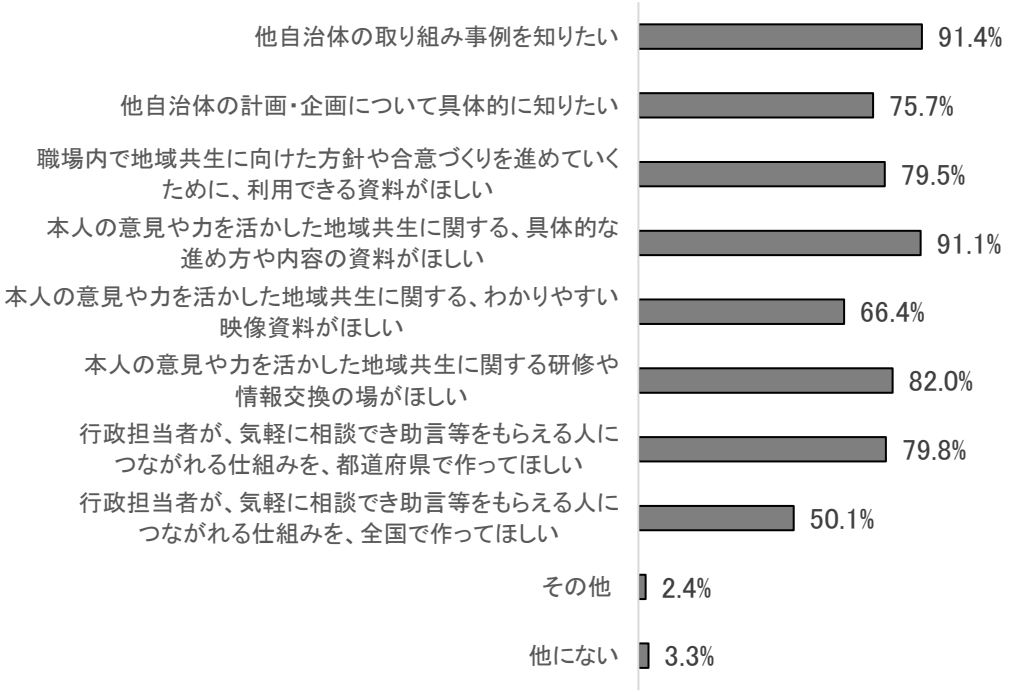
## 設問１３　市区町村で地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいことについて

| N=794（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 担当者が、地域や取組現場に出向いて、本人の意見に触れる機会を増やしたい | 685 | 86.3% |
| 認知症地域支援推進員が、本人発信や本人の社会参加支援の活動ができるよう後押しをしたい | 730 | 91.9% |
| 医療専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい | 547 | 68.9% |
| 介護専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい | 603 | 75.9% |
| 地域住民等が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい | 678 | 85.4% |
| 認知症疾患医療センターと、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい | 535 | 67.4% |
| 地域の医療機関と、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい | 556 | 70.0% |
| 本人が、本人発信や社会参加について前向きになれるよう、本人自身への働きかけを強めたい | 635 | 80.0% |
| 本人が日常の中で発している意見が、行政まで届いて施策や取組に活かせるように、関係者間のつながりや協働、フォーメーション作りに力を入れたい | 627 | 79.0% |
| その他 | 27 | 3.4% |
| 特にない | 20 | 2.5% |



**設問１４　市区町村として、認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望について**

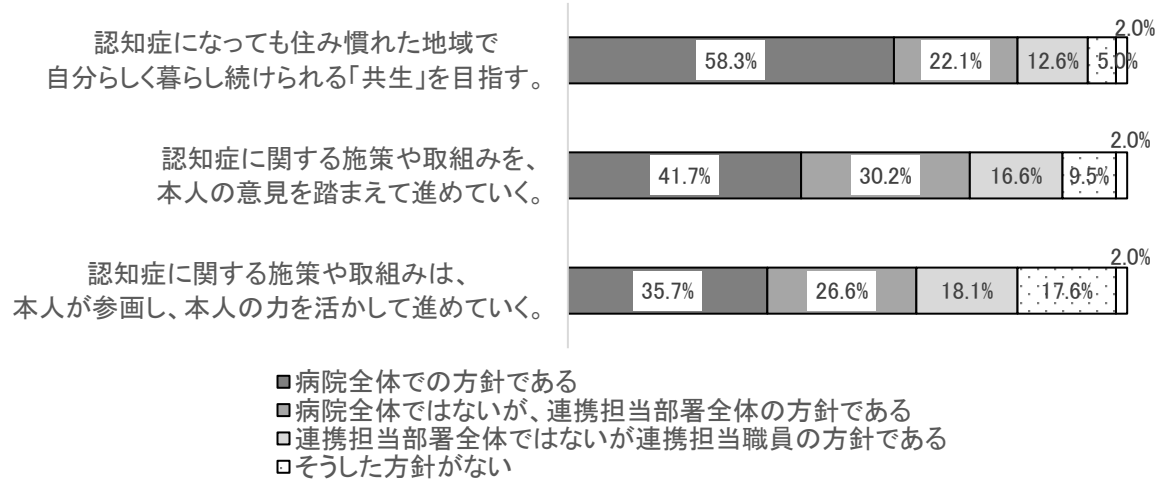
| N=794（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 他自治体の取り組み事例を知りたい | 726 | 91.4% |
| 他自治体の計画・企画について具体的に知りたい | 601 | 75.7% |
| 職場内で地域共生に向けた方針や合意づくりを進めていくために、利用できる資料がほしい | 631 | 79.5% |
| 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、具体的な進め方や内容の資料がほしい | 723 | 91.1% |
| 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、わかりやすい映像資料がほしい | 527 | 66.4% |
| 本人の意見や力を活かした地域共生に関する研修や情報交換の場がほしい | 651 | 82.0% |
| 行政担当者が、気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、都道府県で作ってほしい | 634 | 79.8% |
| 行政担当者が、気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、全国で作ってほしい | 398 | 50.1% |
| その他 | 19 | 2.4% |
| 他にない | 26 | 3.3% |



## ４）認知症疾患医療センター調査結果

設問１　センターの方針について

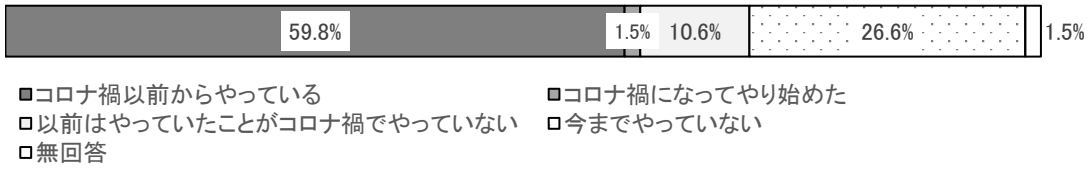
| N＝199 | | 病院全体での方針である | 病院全体ではないが、連携担当部署全体の方針である | 連携担当部署全体ではないが連携担当職員の方針である | そうした方針がない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指す | 回答数 | 116 | 44 | 25 | 10 | 4 | 199 |
| | % | 58.3% | 22.1% | 12.6% | 5.0% | 2.0% | 100.0% |
| 認知症に関する施策や取組みを、本人の意見を踏まえて進めていく | 回答数 | 83 | 60 | 33 | 19 | 4 | 199 |
| | % | 41.7% | 30.2% | 16.6% | 9.5% | 2.0% | 100.0% |
| 認知症に関する施策や取組みは、本人が参画し、本人の力を活かして進めていく | 回答数 | 71 | 53 | 36 | 35 | 4 | 199 |
| | % | 35.7% | 26.6% | 18.1% | 17.6% | 2.0% | 100.0% |



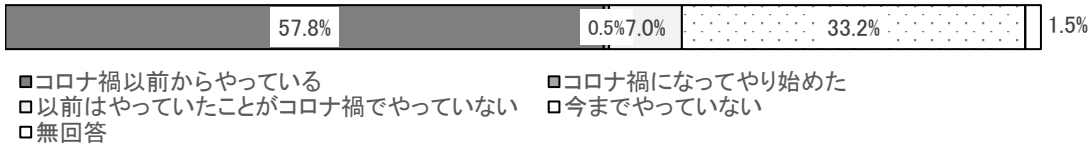
## 設問２　認知症の本人が意見を表しやすい環境づくりについて

| N＝199 | | コロナ禍以前からやっている | コロナ禍になってやり始めた | 以前はやっていたことがコロナ禍でやっていない | 今までやっていない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| センター職員が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係をつくっている | 回答数 | 119 | 3 | 21 | 53 | 3 | 199 |
| | % | 59.8% | 1.5% | 10.6% | 26.6% | 1.5% | 100.0% |
| 地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことをセンターとして推進している | 回答数 | 115 | 1 | 14 | 66 | 3 | 199 |
| | % | 57.8% | 0.5% | 7.0% | 33.2% | 1.5% | 100.0% |
| 面談等の際に、本人自身が意見を言えることに力をいれている | 回答数 | 169 | 0 | 6 | 21 | 3 | 199 |
| | % | 84.9% | 0.0% | 3.0% | 10.6% | 1.5% | 100.0% |
| ケア会議や事例検討会等に、本人が参加し、本人が意見を表せるようにしている | 回答数 | 69 | 0 | 15 | 112 | 3 | 199 |
| | % | 34.7% | 0.0% | 7.5% | 56.3% | 1.5% | 100.0% |
| 本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合いながら、意見を表せるようにしている | 回答数 | 27 | 3 | 15 | 151 | 3 | 199 |
| | % | 13.6% | 1.5% | 7.5% | 75.9% | 1.5% | 100.0% |
| 住民等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 37 | 0 | 34 | 125 | 3 | 199 |
| | % | 18.6% | 0.0% | 17.1% | 62.8% | 1.5% | 100.0% |
| 専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 26 | 3 | 24 | 143 | 3 | 199 |
| | % | 13.1% | 1.5% | 12.1% | 71.9% | 1.5% | 100.0% |
| 市区町村と協力して、本人が意見を伝える発機会をつくっている | 回答数 | 40 | 0 | 24 | 132 | 3 | 199 |
| | % | 20.1% | 0.0% | 12.1% | 66.3% | 1.5% | 100.0% |
| オンラインを使って、本人が意見を表したり、話し合える機会をつくっている | 回答数 | 5 | 13 | 1 | 177 | 3 | 199 |
| | % | 2.5% | 6.5% | 0.5% | 88.9% | 1.5% | 100.0% |
| 病院内の認知症バリアの点検・改善（認知症バリアフリー）のために、本人が意見等を語れる機会をつくっている | 回答数 | 21 | 0 | 2 | 173 | 3 | 199 |
| | % | 10.6% | 0.0% | 1.0% | 86.9% | 1.5% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 3 | 1 | 3 | 69 | 123 | 199 |
| | % | 1.5% | 0.5% | 1.5% | 34.7% | 61.8% | 100.0% |
| 特にない | 回答数 | 2 | 0 | 1 | 71 | 125 | 199 |
| | % | 1.0% | 0.0% | 0.5% | 35.7% | 62.8% | 100.0% |

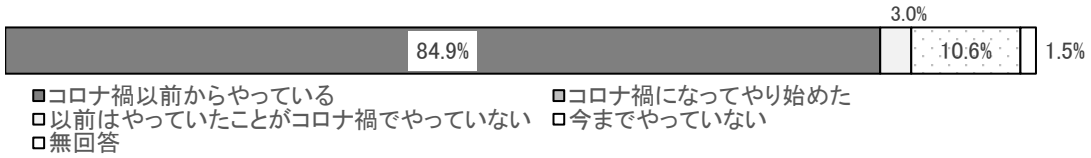
①センター職員が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係をつくっている



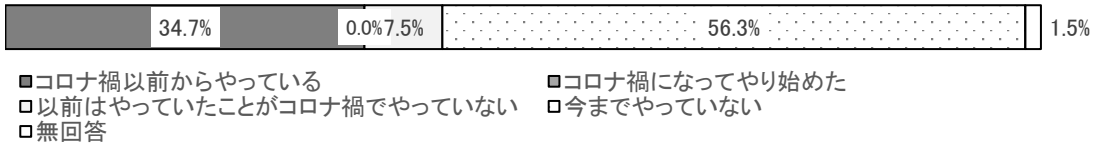

②地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことをセンターとして推進している



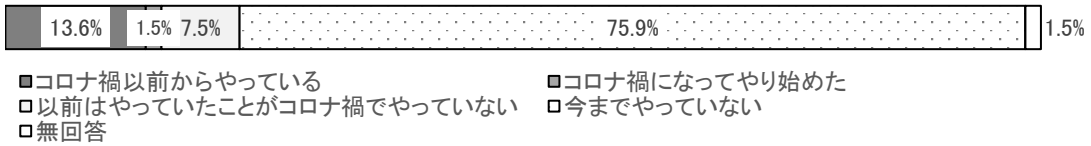

③面談等の際に、本人自身が意見を言えることに力をいれている



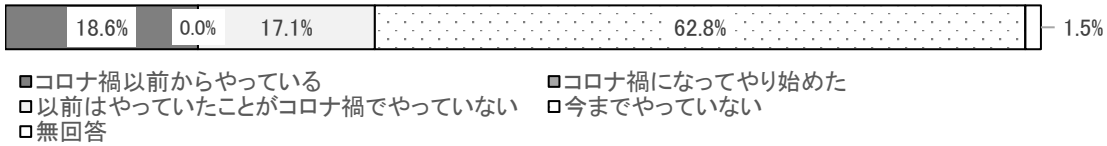

④ケア会議や事例検討会等に、本人が参加し、本人が意見を表せるようにしている



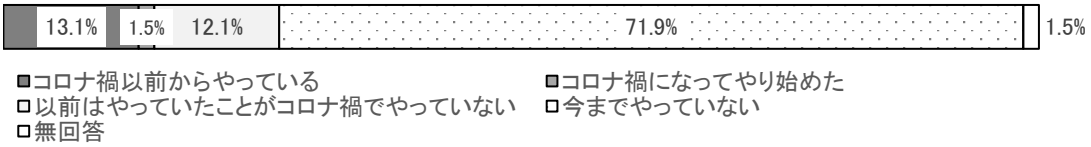

⑤本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合いながら、意見を表せるようにしている



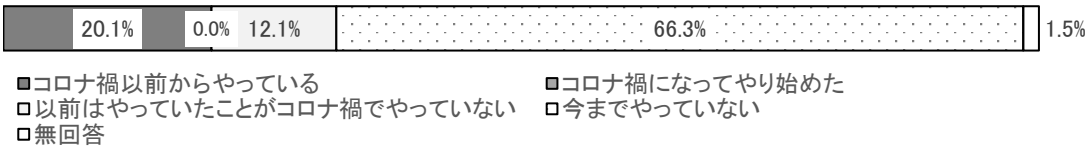

⑥住民等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている



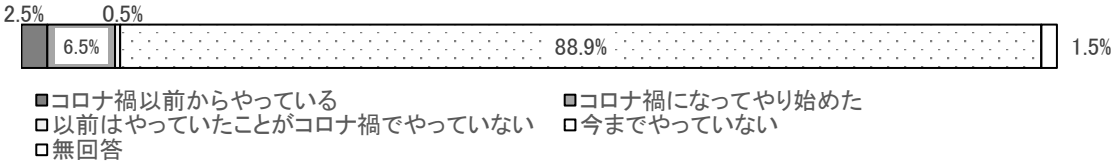

⑦専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている



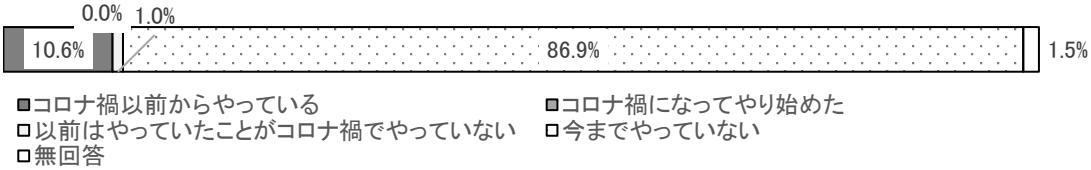

⑧市区町村と協力して、本人が意見を伝える発機会をつくっている




⑨オンラインを使って、本人が意見を表したり、話し合える機会をつくっている

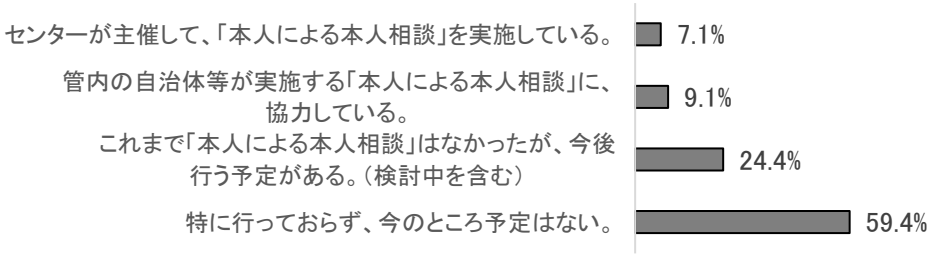



⑩病院内の認知症バリアの点検・改善（認知症バリアフリー）のために、本人が意見等を語れる機会をつくっている



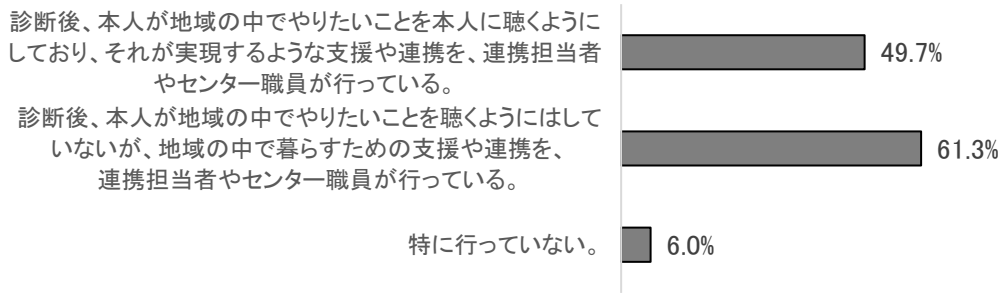

**設問３　認知症の本人が、他の本人の相談や支えを行う「本人相談（ピアサポート)」について**

| N=197 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| センターが主催して、「本人による本人相談」を実施している | 14 | 7.1% |
| 管内の自治体等が実施する「本人による本人相談」に、協力している | 18 | 9.1% |
| これまで「本人による本人相談」はなかったが、今後行う予定がある（検討中を含む) | 48 | 24.4% |
| 特に行っておらず、今のところ予定はない | 117 | 59.4% |
| 合計 | 197 | 100.0% |



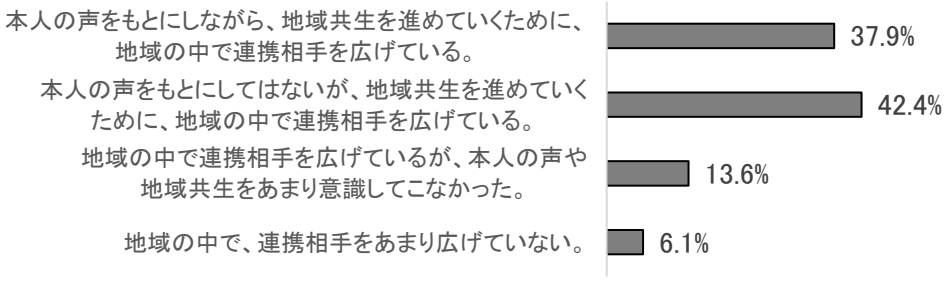
## 設問４　認知症の診断後の本人の地域支援や連携について

| N=199（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 診断後、本人が地域の中でやりたいことを本人に聴くようにしており、それが実現するような支援や連携を、連携担当者やセンター職員が行っている | 99 | 49.7% |
| 診断後、本人が地域の中でやりたいことを聴くようにはしていないが、地域の中で暮らすための支援や連携を、連携担当者やセンター職員が行っている | 122 | 61.3% |
| 特に行っていない | 12 | 6.0% |



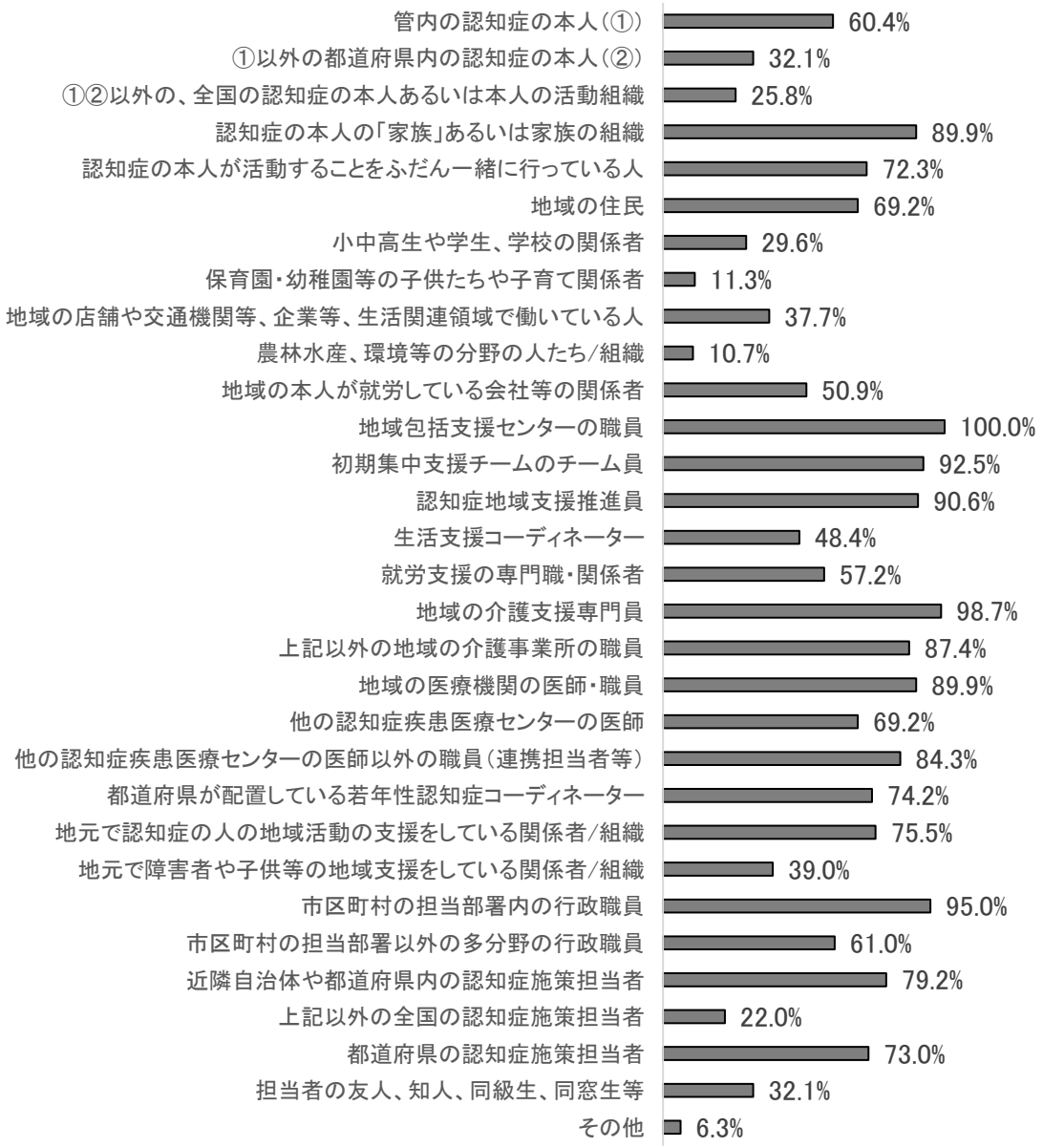

## 設問５－１　地域共生を進めていくための、連携担当者と地域との連携について

| N=198 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 本人の声をもとにしながら、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている | 75 | 37.9% |
| 本人の声をもとにしてはないが、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている | 84 | 42.4% |
| 地域の中で連携相手を広げているが、本人の声や地域共生をあまり意識してこなかった | 27 | 13.6% |
| 地域の中で、連携相手をあまり広げていない | 12 | 6.1% |
| 合計 | 198 | 100.0% |



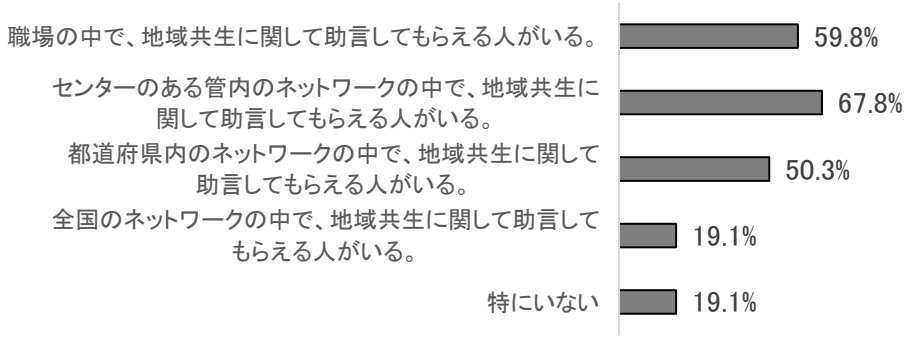
## 設問５－２　連携相手を広げているセンターでの、連携相手について

| N=159（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 管内の認知症の本人（①） | 96 | 60.4% |
| ①以外の都道府県内の認知症の本人（②） | 51 | 32.1% |
| ①②以外の、全国の認知症の本人あるいは本人の活動組織 | 41 | 25.8% |
| 認知症の本人の「家族」あるいは家族の組織 | 143 | 89.9% |
| 認知症の本人が活動することをふだん一緒に行っている人（パートナー等） | 115 | 72.3% |
| 地域の住民 | 110 | 69.2% |
| 小中高生や学生、学校の関係者 | 47 | 29.6% |
| 保育園・幼稚園等の子供たちや子育て関係者 | 18 | 11.3% |
| 地域の店舗や交通機関等、企業等、生活関連領域で働いている人 | 60 | 37.7% |
| 農林水産、環境等の分野の人たち/組織 | 17 | 10.7% |
| 地域の本人が就労している会社等の関係者 | 81 | 50.9% |
| 地域包括支援センターの職員 | 159 | 100.0% |
| 初期集中支援チームのチーム員 | 147 | 92.5% |
| 認知症地域支援推進員 | 144 | 90.6% |
| 生活支援コーディネーター | 77 | 48.4% |
| 就労支援の専門職・関係者 | 91 | 57.2% |
| 地域の介護支援専門員 | 157 | 98.7% |
| 上記以外の地域の介護事業所の職員 | 139 | 87.4% |
| 地域の医療機関の医師・職員 | 143 | 89.9% |
| 他の認知症疾患医療センターの医師 | 110 | 69.2% |
| 他の認知症疾患医療センターの医師以外の職員（連携担当者等） | 134 | 84.3% |
| 都道府県が配置している若年性認知症コーディネーター | 118 | 74.2% |
| 地元で認知症の人の地域活動の支援をしている関係者/組織 | 120 | 75.5% |
| 地元で障害者や子供等の地域支援をしている関係者/組織 | 62 | 39.0% |
| 市区町村の担当部署内の行政職員 | 151 | 95.0% |
| 市区町村の担当部署以外の多分野の行政職員 | 97 | 61.0% |
| 近隣自治体や都道府県内の認知症施策担当者 | 126 | 79.2% |
| 上記以外の全国の認知症施策担当者 | 35 | 22.0% |
| 都道府県の認知症施策担当者 | 116 | 73.0% |
| 担当者の友人、知人、同級生、同窓生等 | 51 | 32.1% |
| その他 | 10 | 6.3% |



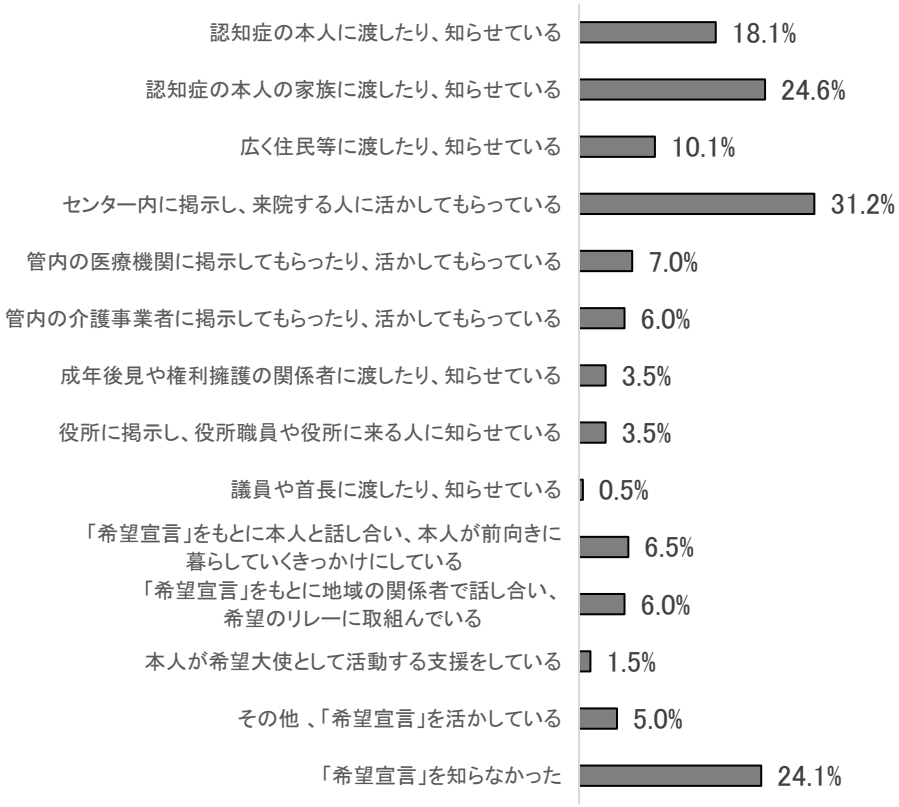

**設問６　認知症の本人の地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してもらえる人について**

| N=199（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 職場の中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 119 | 59.8% |
| センターのある管内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 135 | 67.8% |
| 都道府県内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 100 | 50.3% |
| 全国のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる | 38 | 19.1% |
| 特にいない | 38 | 19.1% |



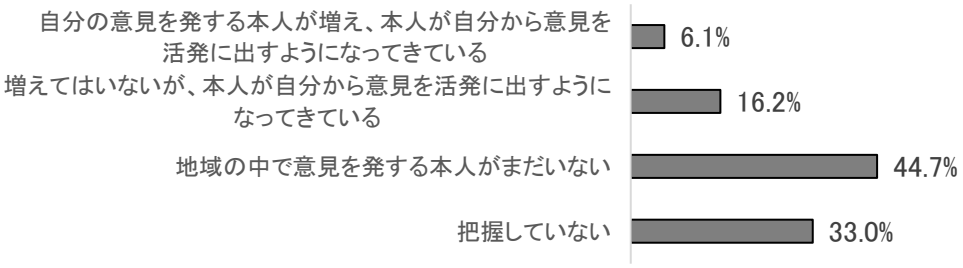

**設問７　センターでの、「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方について**

| N=199（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 認知症の本人に渡したり、知らせている | 36 | 18.1% |
| 認知症の本人の家族に渡したり、知らせている | 49 | 24.6% |
| 広く住民等に渡したり、知らせている | 20 | 10.1% |
| センター内に掲示し、来院する人に活かしてもらっている | 62 | 31.2% |
| 管内の医療機関に掲示してもらったり、活かしてもらっている | 14 | 7.0% |
| 管内の介護事業者に掲示してもらったり、活かしてもらっている | 12 | 6.0% |
| 成年後見や権利擁護の関係者に渡したり、知らせている | 7 | 3.5% |
| 役所に掲示し、役所職員や役所に来る人に知らせている | 7 | 3.5% |
| 議員や首長に渡したり、知らせている | 1 | 0.5% |
| 「希望宣言」をもとに本人と話し合い、本人が前向きに暮らしていくきっかけにしている | 13 | 6.5% |
| 「希望宣言」をもとに地域の関係者で話し合い、希望のリレーに取組んでいる | 12 | 6.0% |
| 本人が希望大使として活動する支援をしている | 3 | 1.5% |
| その他 、「希望宣言」を活かしている | 10 | 5.0% |
| 「希望宣言」を知らなかった | 48 | 24.1% |



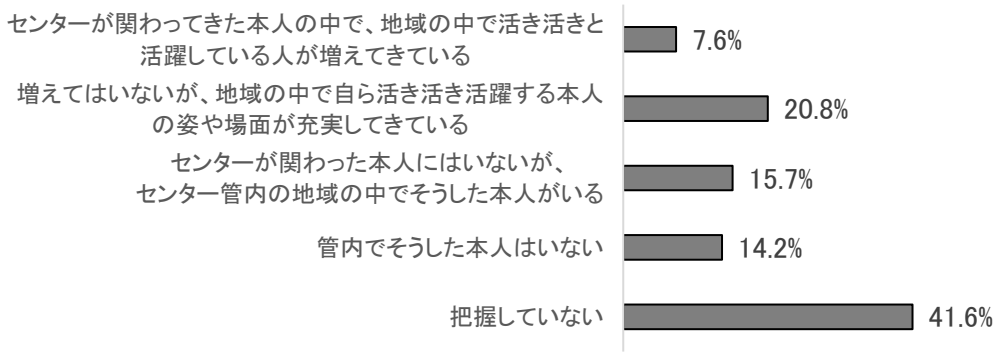

**設問８　センターが関わった認知症の本人の中で、地域の中で意見を発する人が増えていますか**

| N=197 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 自分の意見を発する本人が増え、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている | 12 | 6.1% |
| 増えてはいないが、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている | 32 | 16.2% |
| 地域の中で意見を発する本人がまだいない | 88 | 44.7% |
| 把握していない | 65 | 33.0% |
| 合計 | 197 | 100.0% |



## 設問９　地域の中で活き活きと活躍している本人について

| N=197 | 回答数 | % |
|---|---|---|
| センターが関わってきた本人の中で、地域の中で活き活きと活躍している人が増えてきている | 15 | 7.6% |
| 増えてはいないが、地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿や場面が充実してきている | 41 | 20.8% |
| センターが関わった本人にはいないが、センター管内の地域の中でそうした本人がいる | 31 | 15.7% |
| 管内でそうした本人はいない | 28 | 14.2% |
| 把握していない | 82 | 41.6% |
| 合計 | 197 | 100.0% |

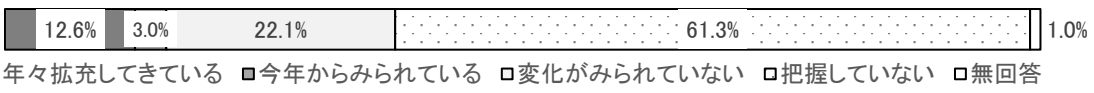



## 設問１０　センターの取組や支援を通じた変化について

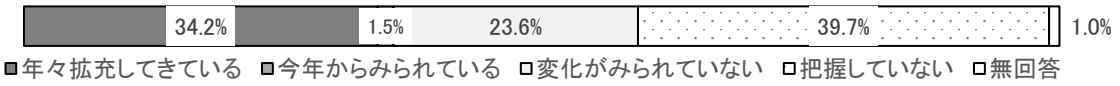
| | N=199 | 年々拡充してきている | 今年からみられている | 変化がみられていない | 把握していない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活き活き暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている | 回答数 | 25 | 6 | 44 | 122 | 2 | 199 |
| | % | 12.6% | 3.0% | 22.1% | 61.3% | 1.0% | 100.0% |
| 本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている | 回答数 | 68 | 3 | 47 | 79 | 2 | 199 |
| | % | 34.2% | 1.5% | 23.6% | 39.7% | 1.0% | 100.0% |
| 地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている | 回答数 | 64 | 2 | 42 | 89 | 2 | 199 |
| | % | 32.2% | 1.0% | 21.1% | 44.7% | 1.0% | 100.0% |
| 地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている | 回答数 | 32 | 2 | 26 | 137 | 2 | 199 |
| | % | 16.1% | 1.0% | 13.1% | 68.8% | 1.0% | 100.0% |
| | 回答数 | 39 | 5 | 23 | 130 | 2 | 199 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている | % | 19.6% | 2.5% | 11.6% | 65.3% | 1.0% | 100.0% |
| 地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 82 | 3 | 31 | 81 | 2 | 199 |
| | % | 41.2% | 1.5% | 15.6% | 40.7% | 1.0% | 100.0% |
| 地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 70 | 3 | 35 | 89 | 2 | 199 |
| | % | 35.2% | 1.5% | 17.6% | 44.7% | 1.0% | 100.0% |
| 地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 80 | 0 | 32 | 85 | 2 | 199 |
| | % | 40.2% | 0.0% | 16.1% | 42.7% | 1.0% | 100.0% |
| 認知症疾患医療センター内の医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 112 | 5 | 48 | 32 | 2 | 199 |
| | % | 56.3% | 2.5% | 24.1% | 16.1% | 1.0% | 100.0% |
| 行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている | 回答数 | 93 | 5 | 41 | 58 | 2 | 199 |
| | % | 46.7% | 2.5% | 20.6% | 29.1% | 1.0% | 100.0% |
| 本人の意見や力を活かして、病院や法人の部署間がつながり地域共生に共に取り組むようになってきている | 回答数 | 56 | 2 | 72 | 67 | 2 | 199 |
| | % | 28.1% | 1.0% | 36.2% | 33.7% | 1.0% | 100.0% |
| 認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている | 回答数 | 98 | 4 | 47 | 48 | 2 | 199 |
| | % | 49.2% | 2.0% | 23.6% | 24.1% | 1.0% | 100.0% |
| 認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている | 回答数 | 14 | 5 | 43 | 135 | 2 | 199 |
| | % | 7.0% | 2.5% | 21.6% | 67.8% | 1.0% | 100.0% |
| 立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている | 回答数 | 59 | 4 | 45 | 89 | 2 | 199 |
| | % | 29.6% | 2.0% | 22.6% | 44.7% | 1.0% | 100.0% |
| その他 | 回答数 | 1 | 2 | 3 | 84 | 109 | 199 |
| | % | 0.5% | 1.0% | 1.5% | 42.2% | 54.8% | 100.0% |
| 特になし | 回答数 | 1 | 0 | 5 | 89 | 104 | 199 |
| | % | 0.5% | 0.0% | 2.5% | 44.7% | 52.3% | 100.0% |

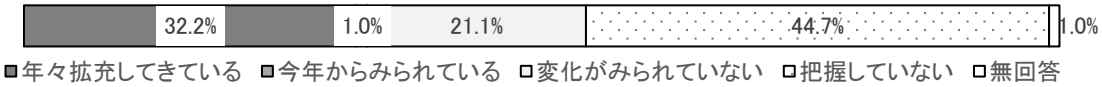
①活き活き暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている



②本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている



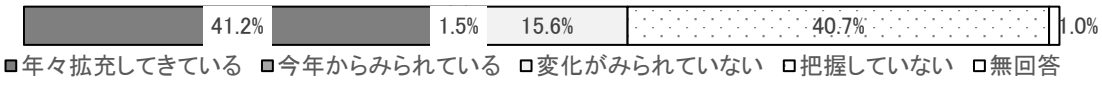

③地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている



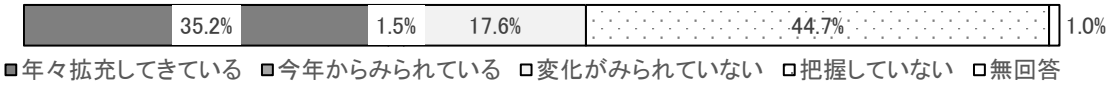

④地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている

⑤地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている

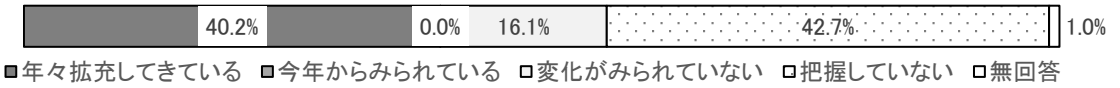
⑥地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている



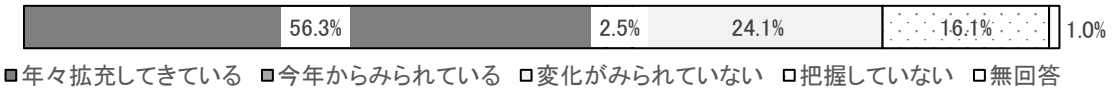

⑦地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている



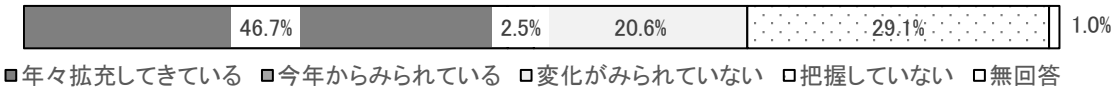

⑧地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている



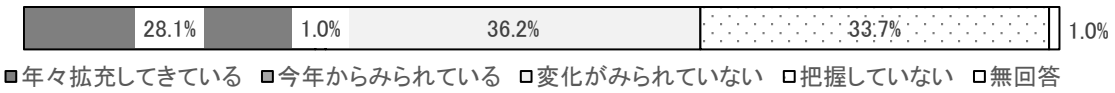
⑨認知症疾患医療センター内の医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている



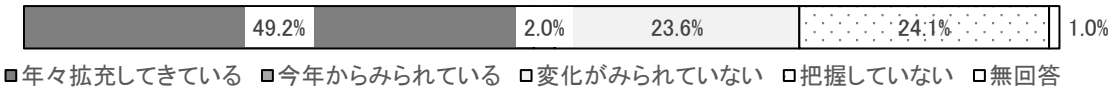

⑩行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている




⑪本人の意見や力を活かして、病院や法人の部署間がつながり地域共生に共に取り組むようになってきている

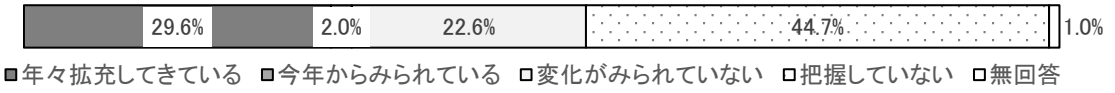



⑫認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている



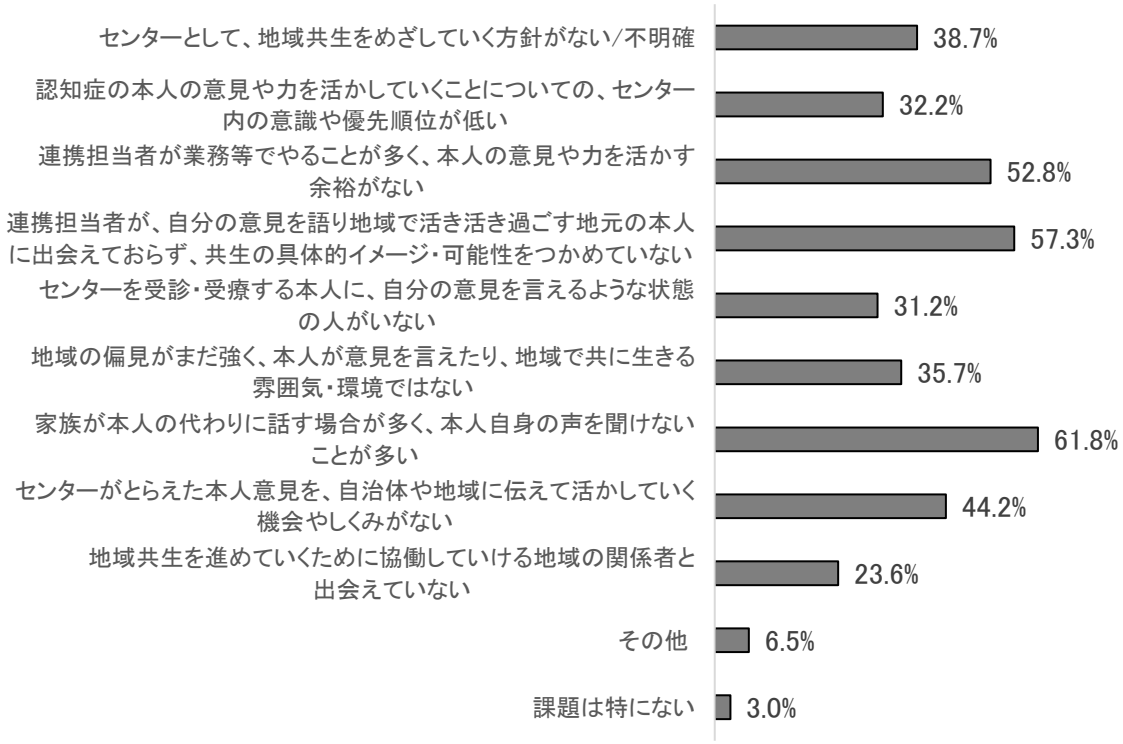

⑬認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている

⑭立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている



**設問１１　センターが、認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題について**

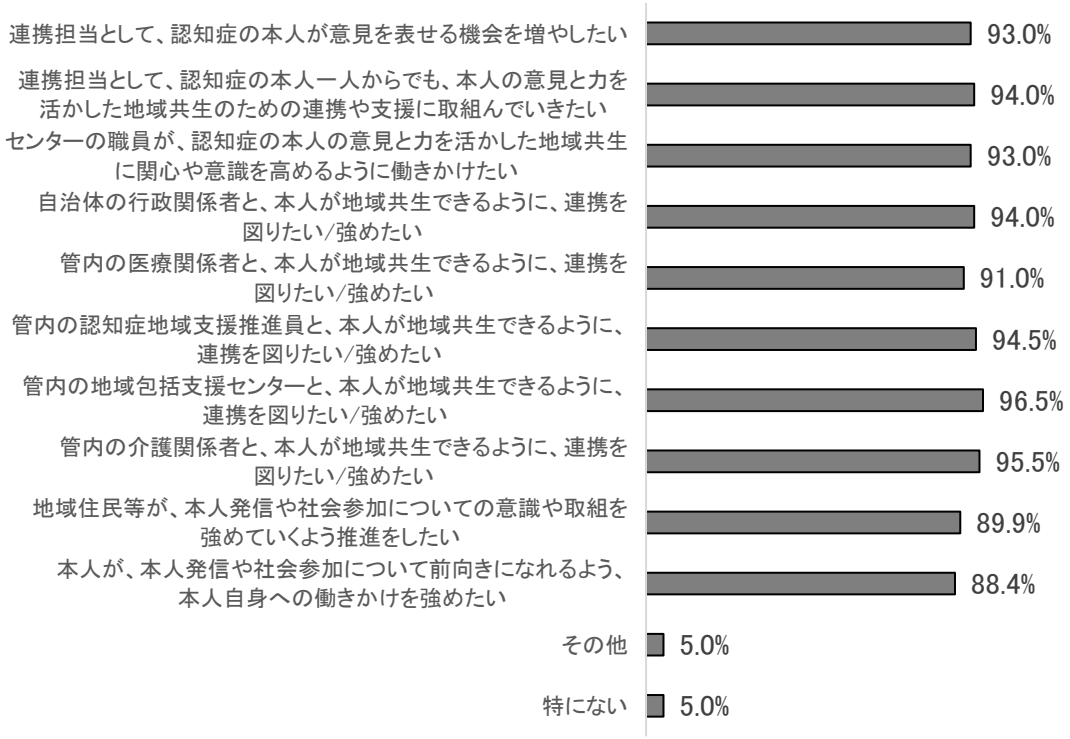
| N=199（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| センターとして、地域共生をめざしていく方針がない/不明確 | 77 | 38.7 % |
| 認知症の本人の意見や力を活かしていくことについての、センター内の意識や優先順位が低い | 64 | 32.2 % |
| 連携担当者が業務等でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない | 105 | 52.8 % |
| 連携担当者が、自分の意見を語り地域で活き活き過ごす地元の本人に出会えておらず、共生の具体的なイメージや可能性をつかめていない | 114 | 57.3 % |
| センターを受診・受療する本人に、自分の意見を言えるような状態の人がいない | 62 | 31.2 % |
| 地域の偏見がまだ強く、本人が意見を言えたり、地域で共に生きる雰囲気・環境ではない | 71 | 35.7 % |
| 家族が本人の代わりに話す場合が多く、本人自身の声を聞けないことが多い | 123 | 61.8 % |
| センターがとらえた本人意見を自治体や地域に伝えて活かしていく機会やしくみがない | 88 | 44.2 % |
| 地域共生を進めていくために協働していける地域の関係者と出会えていない | 47 | 23.6 % |
| その他 | 13 | 6.5% |
| 課題は特にない | 6 | 3.0% |




**設問１２　センターの地域連携の担当者として、今後力を入れたいことについて**

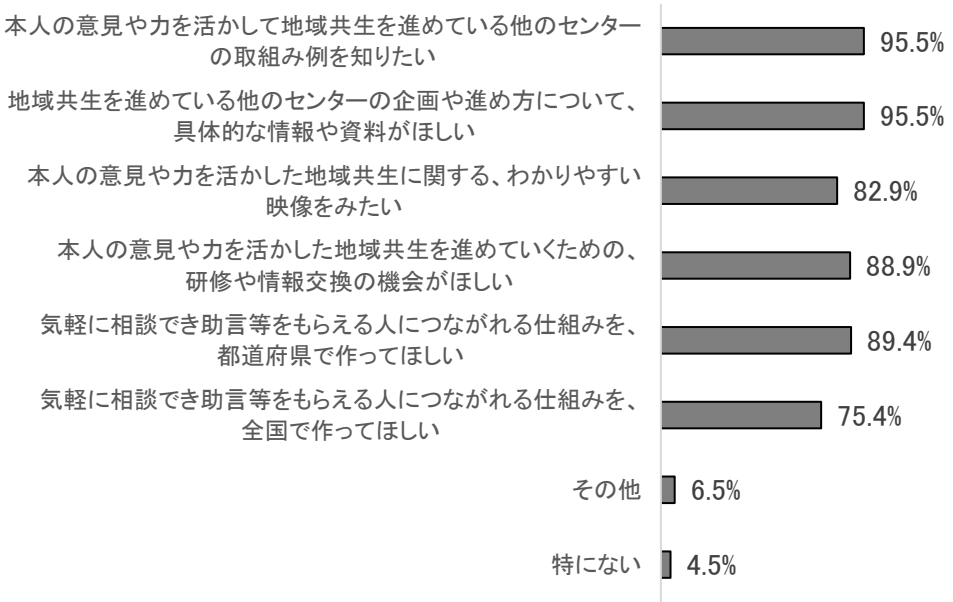
| N=199（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 連携担当として、認知症の本人が意見を表せる機会を増やしたい | 185 | 93.0% |
| 連携担当として、認知症の本人一人からでも、本人の意見と力を活かした地域共生のための連携や支援に取組んでいきたい | 187 | 94.0% |
| センターの職員が、認知症の本人の意見と力を活かした地域共生に関心や意識を高めるように働きかけたい | 185 | 93.0% |
| 自治体の行政関係者と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい | 187 | 94.0% |
| 管内の医療関係者と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい | 181 | 91.0% |
| 管内の認知症地域支援推進員と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい | 188 | 94.5% |
| 管内の地域包括支援センターと、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい | 192 | 96.5% |
| 管内の介護関係者と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい | 190 | 95.5% |
| 地域住民等が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい | 179 | 89.9% |

| | | |
|---|---|---|
| 本人が、本人発信や社会参加について前向きになれるよう、本人自身への働きかけを強めたい | 176 | 88.4% |
| その他 | 10 | 5.0% |
| 特にない | 10 | 5.0% |



## 設問１３　センターとして、認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望について

| N=199（複数回答） | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 本人の意見や力を活かして地域共生を進めている他のセンターの取組み例を知りたい | 190 | 95.5 % |
| 地域共生を進めている他のセンターの企画や進め方について、具体的な情報や資料がほしい | 190 | 95.5 % |
| 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、わかりやすい映像をみたい | 165 | 82.9 % |
| 本人の意見や力を活かした地域共生を進めていくための、研修や情報交換の機会がほしい | 177 | 88.9 % |
| 気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、都道府県で作ってほしい | 178 | 89.4 % |
| 気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、全国で作ってほしい | 150 | 75.4 % |
| その他 | 13 | 6.5% |
| 特にない | 9 | 4.5% |



## ５）主な項目の記述回答

＜都道府県＞

**設問2　認知症施策の計画策定の際に、本人が意見を出せる（意見を聞く）機会づくり：（その他）**

| No. | 本人が意見を出せる（意見を聞く）機会づくり |
|---|---|
| 1 | 認知症本人を含め県民に対するパブリックコメントを実施 |
| 2 | パブリックコメントを実施 |
| 3 | 若年性認知症自立支援ネットワーク会議に御本人がオブザーバーとして出席している。 |
| 4 | 本人ミーティング等に担当職員が参加し、本人の考え等を把握している。 |
| 5 | 認知症施策に係る検討会議において、家族会からも検討委員として参加いただいている。 |
| 6 | 本人に意見を聞きたいが、現状として委員等を引き受けてくれる本人がいない。 |

**設問3　第8期介護保険事業計画への、認知症本人の意見の反映：（その他のやり方）**

| No. | 第８期介護保険事業計画への、認知症本人の意見の反映 |
|---|---|
| 1 | 本人座談会を開催 |
| 2 | 認知症の人を含む一般県民に対し意見を公募した。 |
| 3 | パブリックコメントを実施 |
| 4 | 家族の会など本人の介護に携わっている人から本人の意見等を聞いた |
| 5 | 計画策定に係る検討会議において、家族会にも検討委員として参加いただいている。 |
| 6 | 認知症の人と家族の会の方に計画策定に参加してもらい、家族を通じて意見を反映した。 |

**設問8　施策担当者として地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してくれる人：（3名くらいまで）**

| No. | 知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してくれる人 |
|---|---|
| 1 | 同じ課の別の係員、同じ部の他の課の職員 |
| 2 | 同課内職員 |
| 3 | 都道府県の担当部署内の行政職員 |
| 4 | 室内の上司、認知症の人と家族の会、認知症介護指導者等 |
| 5 | 上司、協議会委員等 |
| 6 | 職場の上司、市町で認知症施策担当が長いベテランの職員、認知症介護研究・研修センター職員 |
| 7 | 企画監、課長補佐、係長 |
| 8 | 近隣都道府県の認知症施策担当者 |
| 9 | 介護事業所の施設長、認知症疾患医療センター連携担当者、認知症の人と家族の会会員 |
| 10 | 専門職、市町村職員、当事者団体等 |

| | |
|---|---|
| 11 | 都道府県の認知症施策について協議・検討を行う会議体の委員、若年性認知症支援コーディネーター、研究機関の研究員 |
| 12 | 県若年性認知症支援コーディネーター |
| 13 | 認知症の人と家族の会県支部、県若年性認知症総合支援センター |
| 14 | 認知症の人と家族の会県支部、認知症地域支援推進員、若年認知症サポートセンター |
| 15 | 認知症介護研究・研修センター、認知症介護指導者、職場の上司 |
| 16 | 家族会、認知症専門医 |
| 17 | 県医師会常任理事（認知症サポート医）、認知症介護指導者 |
| 18 | 認知症疾患医療センター職員 |
| 19 | 大学の先生等 |

**設問9 「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方：（その他）**

| No. | 「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方 |
|---|---|
| 1 | 本人の希望宣言を集めたポスター作成、普及 |
| 2 | 地元新聞社の認知症普及啓発プロジェクト事業の一環として作成したチラシに掲載 |
| 3 | 関係機関向けの研修等で、希望宣言を紹介している。 |
| 4 | 専門職の研修の機会等に周知している。 |
| 5 | 認知症サポーター養成講座での紹介 |
| 6 | 第 8 期高齢者福祉計画・介護保険事業支援計画に反映している（本人発信） |

**設問12 都道府県での変化：（その他）**

| No. | 都道府県での変化 |
|---|---|
| 1 | 本人ミーティングの立ち上げや講演会で話をするなどの活動をする本人が増えてきている。 |

**設問14 地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいこと：（その他）**

| No. | 地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいこと |
|---|---|
| 1 | 若年性認知症支援コーディネーターと本人発信・参画に関する取組についての連携を強化したい。 |

**設問15 認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望：（その他）**

| No. | 認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望 |
|---|---|
| 1 | ピアサポーターの養成のノウハウについて学ぶ機会があればよい。先進事例について共有を図ってほしい。 |
| 2 | 施策推進にあたって、スーパーバイズをしてもらえる仕組みがあると助かります。 |

＜市区町村＞

**設問2　認知症施策の計画策定の際に、本人が意見を出せる（意見を聞く）機会づくり：（その他）**

| No. | 認知症施策の計画策定の際に、本人が意見を出せる（意見を聞く）機会づくり |
|---|---|
| 1 | 8 期計画策定時には本人が集う場、本人の発する機会を作れなかったが、最近、本人ミーティングが立ち上がったところである。 |
| 2 | R2.10 月　本人ミーティング開催し、当事者の意見を伺う機会を設けた |
| 3 | オンラインで本人ミーティングを開催しているので、Zoom で本人や家族、関係機関から意見を聴いています。 |
| 4 | 定期的に本人ミーティングを開催している。 |
| 5 | 本人の意見を出せる機会として、今年度末頃から本人ミーティング事業を開始予定。 |
| 6 | アンケートを実施して、本人または家族、ケアマネジャー等に確認し、計画に反映した。 |
| 7 | 計画策定に直接反映するに至ってはいないが、個別対応時本人の意見を聞いている。 |
| 8 | 計画策定時、担当者や関係者が必要時、本人の意見聞いている。 |
| 9 | 計画策定時期に関わらず通年においてサロンや認知症カフェ等、本人を含む集まりに出向き、その場で意見を訊いている。 |
| 10 | 個別面談時に本人の意見を集める。 |
| 11 | 本人や福祉関係者等とともに策定したステートメントに沿って進めていく。 |
| 12 | ご本人の話を聴く機会を設定していく予定（計画段階） |
| 13 | 日常的に本人に関わる関係機関が意見・ニーズを聞いており、それらが計画策定時に集約されている。 |
| 14 | 日ごろの活動で、本人、家族、認知症の方も参加する通いの場などに出向き意見を聞いている。 |
| 15 | 推進員が本人の意見を聞き事業企画実施に生かしている |
| 16 | 認知症カフェや家族の会に参加した職員から間接的に情報を収集している。 |
| 17 | 認知症ケアパス策定時に本人の意見を聞いた |
| 18 | パブリックコメントの実施 |
| 19 | パブリックコメントを募集している。 |
| 20 | 本人、家族だけではなく地域からの情報も得られる取り組みを実施し、それを住民に対する認知症の理解へとつなげたい。 |
| 21 | 基礎調査や計画案に対する意見募集等により、本人や本人の関係者から意見を集めている。 |
| 22 | 介護保険被保険者の参加した運営委員会を行っている |
| 23 | 区民に「保健福祉基礎調査」でアンケート調査を行うとともに計画策定時に意見を募集している。 |
| 24 | 認知症を含む要介護認定者についてアンケート調査を実施し、認知症の家族及び本人から意見を集める機会を作った。 |
| 25 | 要介護者を対象としたアンケート調査を実施している |
| 26 | 認知症の方を含む要介護者を無作為抽出してニーズ調査を行い、その結果内容を計画策定の |

| | |
|---|---|
| | 参考にした。 |
| 27 | 本人に限らず、高齢者に対してニーズ調査を行い、意見を集めている。 |
| 28 | 市内在住の 65 歳以上のかたを対象に介護保険や高齢者福祉に関する意向調査を実施 |
| 29 | 市の高齢者保健福祉計画策定懇話会の委員を、在宅介護家族の会やグループホーム連絡協議会の代表者に依頼をしているため、間接的にご本人の意見を反映している。 |
| 30 | 専門・多職種なメンバーにより構成された認知症対策検討会にて認知症施策の効果的な実施、計画について検討。 |
| 31 | 第8期介護保険事業計画において推進していく予定 |
| 32 | 介護をしている家族の意見を日常的に聞いて集約している。 |
| 33 | 当事者団体（家族の会）の代表に委員として参加してもらい、意見を聞いている。 |
| 34 | 認知症の人と家族の会から委員を推薦（認知症の人の家族）してもらい、委員会に参加。 |
| 35 | 条例策定時に、委員である認知症の人と家族の会支部代表の方から、意見等をいただいている。 |
| 36 | 本人・家族会の立ち上げを支援し、その都度本人の意見を聴取している。 |
| 37 | 認知症大綱、国や都の調査結果や連絡会や研修内容を参考にした。 |
| 38 | 本人自身への調査を行ったが、策定には反映が間に合わなかった。 |
| 39 | 認知症を公にしたくないという意向が多いことと、相談で出会ったときは、認知機能の低下が進んでいる方が多く、うまく意向を聞き取れない。 |
| 40 | 認知症施策の計画を策定していない |
| 41 | 市町村としての計画立案には至ってない。 |
| 42 | 計画を策定していない。 |
| 43 | 単年度の事業計画であれば上記のようになりますが，市全体の認知症に特化した計画は策定していません。 |
| 44 | ①～⑧に該当するところはないが、高齢者実態調査等による調査結果を参考にしている。 |

**設問3　第8期介護保険事業計画への、認知症本人の意見の反映：（その他のやり方）**

| No. | 第８期介護保険事業計画への、認知症本人の意見の反映 |
|---|---|
| 1 | 計画に反映させる目的ではないが、普段から聞いている本人たちの声を業務で参考にしているため、結果として反映しているともいえる。 |
| 2 | 日ごろから本人の意見を聞いており、計画に反映させた。 |
| 3 | 普段の業務の関わり中での意見を反映 |
| 4 | 担当者等が日常的に聞いている本人の意見等を計画に反映している。 |
| 5 | 認知症の方と家族から相談があった際に、その関りを通して、希望や御意見をもらい、反映した。 |
| 6 | 計画策定時、本人が集う場に担当者が出向き、本人の意見を集め、計画に反映した。 |
| 7 | 家族会やオレンジカフェに参加し、その場で本人や家族から意見を聞き、計画に反映させた。 |
| 8 | 様々な事業の中で直接聞いた意見や要望などを、計画に反映できるよう努めた。 |

| | |
|---|---|
| 9 | 事業や相談の中で確認した意見を反映させるようにした。 |
| 10 | 計画策定のために聞き取ったわけではなく相談業務の中で聞き取ったこと、担当が感じたことを反映させた。 |
| 11 | 認知症ケアパスの改訂にあたりアンケートを実施。本人と家族の視点について明記した。 |
| 12 | 認知症ケアパス作成時に行った認知症の人の声の聞き取り。 |
| 13 | ケアマネジャーの声を参考にした。 |
| 14 | オンラインで本人ミーティングを開催しているので、Zoom で本人や家族、関係機関から意見を聴いています。 |
| 15 | 認知症カフェ等での当事者の声や支援者が聞き取った声を反映させている。 |
| 16 | 認知症カフェの中で自由に発言してもらい、取り入れられる部分を反映した。 |
| 17 | 認知症カフェや本人ミーティングの場に参加している本人から聴取した意見を参考にした。 |
| 18 | 無作為抽出の高齢者を対象としたアンケート実施 |
| 19 | アンケート調査を実施 |
| 20 | アンケートを実施して、本人または家族、ケアマネジャー等に確認し、計画に反映した。 |
| 21 | 一般的なアンケートの形で意見は聞いたが、認知症本人として対象にしたものではない |
| 22 | 市民アンケートによる |
| 23 | アンケート調査を実施し、意見を計画に反映した。 |
| 24 | 認知症のみでなく介護保険認定者には、別のアンケートで予防等を把握した。 |
| 25 | 認知症の方を含む要介護者等を対象としたアンケートを実施しました |
| 26 | 本人アンケートを聞き取りで行った |
| 27 | 要介護認定者についてアンケート調査結果より、課題抽出した。 |
| 28 | 無作為のアンケートのみ。認知症に特化していない。 |
| 29 | 要介護認定・要支援認定を受けている 64 歳以上の高齢者から無作為抽出した 1,000 人を対象とした在宅介護実態調査 |
| 30 | 町民を対象に、実態調査を行い、その意見を計画に反映させた。 |
| 31 | 意向調査の内容を計画に反映 |
| 32 | 本人に限らず、高齢者に対して行ったニーズ調査の結果を計画に反映した。 |
| 33 | 認知症の方を含む要介護者を無作為抽出してニーズ調査を行い、その結果内容を計画策定の参考にした。 |
| 34 | 高齢者ニーズ調査を実施 |
| 35 | 本人及び介護者を対象とした調査で、一部反映 |
| 36 | 認知症の人に特化せず、市民に調査を実施した |
| 37 | 基礎調査や計画案に対する意見募集等により、本人や本人の関係者から意見を集め、計画に反映した。 |
| 38 | パブリックコメント |
| 39 | パブリックコメントの実施し、広く意見を求めた |

| | |
|---|---|
| 40 | パブリックコメントの実施 |
| 41 | パブリックコメントの募集 |
| 42 | ホームページによるパブリックコメントを実施した。 |
| 43 | 家族の会からの意見を聴取した。 |
| 44 | 当事者団体（家族の会）の代表に委員として参加してもらい、意見を聞いている。 |
| 45 | 介護をしている家族から、本人や介護をする人としての意見を聞き取った。 |
| 46 | 計画案を諮問する介護保険運営協議会の委員（介護施設関係者、家族介護者）を通じて反映。 |
| 47 | 市の委員会委員に認知症の人と家族の会会員を委嘱し意見を伺った |
| 48 | 計画策定委員会の委員である「認知症の人と家族の会兵庫県支部世話人」の方から、意見等をいただいている。 |
| 49 | 市の高齢者保健福祉計画策定懇話会の委員を、在宅介護家族の会やグループホーム連絡協議会の代表者に依頼をしているため、間接的にご本人の意見を反映している。 |
| 50 | 認知症大綱、国や都の調査結果や連絡会や研修内容を参考にした。 |

**設問7　施策担当者として地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してくれる人：（3名くらいまで）**

・地域包括支援センター：56
・上司：54
・認知症地域支援推進員：44
・関係部署職員全般：43
・同僚等：37
・関係部署の各担当者（地域包括ケア、在宅医療・介護連携推進事業、地域共生事業等）：36
・都道府県（認知症施策担当者、地域共生担当者等）：33
・保健師：19
・課長：17
・認知症疾患医療センター（医療・介護連携相談室、認知症認定看護師、相談員、等）：16
・医師（認知症サポート医、認知症専門医等）：16
・介護事業所：14
・社会福祉協議会：14
・他市町村の担当者：13
・生活支援コーディネーター：12
・係長：12
・介護支援専門員：11
・課長補佐：9
・社会福祉士：8
・行政職員：7
・主任介護支援専門員：7

・認知症初期集中支援チーム:7
・民生委員:6
・他部署:5
・若年性認知症支援コーディネーター:5
・専門職:5
・認知症の人と家族の会(支部代表、世話人):4
・大学教授・准教授:4
・係員:4
・先輩:4
・地域住民:3
・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター:3
・障がい分野の担当者:3
・前任者:2
・主幹:2
・認知症介護研究・研修センター:2
・認知症介護指導者:2
・中核地域生活支援センター:2
・さわやか福祉財団(インストラクター含む):2
・認知症カフェスタッフ:2
・認知症サポーター:2
・キャラバンメイト:2
・NPO法人:2
・近隣市町村の地域包括支援センター:2
・borderless-with dementia-でつながりのある当事者・家族・支援者
・B 型サービスボランティア
・チームオレンジ
・チューターさん
・ひまわりの会
・他職種の同僚
・リハビリ研究所
・医師会
・医療専門職
・家族会
・看護師
・経験豊富な地域包括支援センター職員であり、認知症地域支援推進員研修受講済み者
・県作業療法士会の作業療法士
・県若年性認知症総合支援相談センターコーディネーター

・厚生労働省社会援護局課長補佐
・広域市町村圏組合
・広域連合（介護保険保険者）職員
・市内介護予防センター長
・市立図書館担当者
・市立病院（認知症サポート医、認知症看護認定看護師）
・施策を一緒に実施している保健師数名（上司含む）
・自身のネットワーク
・推進員の研修会等での講師
・成年後見支援員
・生活支援コーディネータ担当係長
・生活支援体制整備事業でのアドバイザー（地域福祉分野の大学教員）
・精神科病院の PSW
・相談員
・地域の認知症関係団体スタッフ
・地域包括支援センター運営協議会の委員をお願いしている大学教授
・地域包括支援センター協力機関職員
・地区の区長
・町内会長
・同じ圏域自治体の施策担当者
・認知症アドバイザー（県より派遣）
・認知症施策検討委員会の委員
・認知症相談会の講師
・認知症未来共創ハブのメンバー
・福祉・介護・まちづくり分野におけるコンサルタント業をしているアドバイザー
・包括的支援体制整備推進員
・方面委員
・本人会
・老人クラブ等の組織の会長
・特に頼りにしている人はいないが、①～③に相談し総合的に判断して対応している。

### 設問８　「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方：（その他）

| No. | 「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方 |
|---|---|
| 1 | 認知症施策庁内連携会議の中で共有している。 |
| 2 | 認知症キャラバン・メイト企画運営会議での周知 |
| 3 | 認知症施策担当者が事業を実施するにあたり、本人の考え方・捉え方の参考として活用している。 |

| | |
|---|---|
| 4 | 認知症総合支援検討会にて、本人の視点を再確認するために会議の初めに皆で内容を共有している。 |
| 5 | 認知症地域支援推進員に配布。話し合いはしていない。 |
| 6 | 認知症地域支援推進員に配布活用を依頼している。 |
| 7 | 地域包括支援センターに掲示し、来所者にPR |
| 8 | 施策担当者間や地域包括支援センター内で内容を確認、共有している。 |
| 9 | 本人交流会に参加した「パートナー」（地域包括支援センター職員）に渡したり、知らせている。 |
| 10 | 介護関係者への周知 |
| 11 | 本人達が店員として参加したカフェ（きずな茶屋）で、会場の拡大コピーを掲示しました。 |
| 12 | チームオレンジの活動実績簿に載せている。 |
| 13 | 認知症サポーターステップアップ講座で使用している |
| 14 | 認知症サポーター養成講座で配布。認知症サポーターステップアップ講座で説明・配布。その他イベント時に配布。 |
| 15 | 認知症サポーター養成講座において紹介 |
| 16 | 認知症サポーター養成講座で配布し周知 |
| 17 | 認知症サポーター養成講座の内容に盛り込み、必ず読むようにしている。 |
| 18 | 認知症サポーター養成講座で紹介 |
| 19 | 認知症サポーター養成講座受講者に配布している |
| 20 | 認知症サポーター開催時に配布している |
| 21 | 認知症サポーター養成講座等の参加者に配布している。 |
| 22 | 認知症サポーター養成講座の参加者に照会、配布している |
| 23 | キャラバンメイトに周知している |
| 24 | キャラバン・メイト養成研修にて、受講者に配布している。 |
| 25 | オレンジサポーターに周知し、支援の際に活用してもらっている。 |
| 26 | オレンジパートナー養成講座で活用 |
| 27 | 研修会の際に医療関係者・介護関係者に周知をしている（ただし、掲示までは求めていない） |
| 28 | 市民対象の研修で配布した事例あり |
| 29 | 認知症フレンズ（ボランティア）対象に「本人座談会」を鑑賞しながら、グループワークを実施した際に一緒に「希望宣言」のことを伝えている。 |
| 30 | アルツハイマー月間の認知症啓発ブースでの掲示、認知症サポーター養成講座にて紹介 |
| 31 | アルツハイマー月間図書館イベント展示、講演、ステップアップ講座等で一般周知 |
| 32 | 世界アルツハイマー月間に併せて開催する啓発イベントで掲示している |
| 33 | 啓発イベントでの展示及び配付 |
| 34 | 認知症ケアパスの中に希望宣言を掲載している。 |
| 35 | 認知症パートナー講座のテキストに掲載。今後認知症ケアパス更新の際に掲載予定。 |
| 36 | 認知症ケアパスに記事を掲載し、住民に知らせている。 |

| | |
|---|---|
| 37 | 希望宣言の前に村独自で「認知症になっても安心して生活できるまちづくり宣言」をしたため、その周知を行っている。 |
| 38 | 任意団体がリレー等の活動に取組んでおられ、行政としては後方支援をしている。当市としては、上記の取組は行えていない。 |
| 39 | 認知症カフェや関係機関等の提示を促し、本人発信の普及啓発活動に活用したい。 |
| 40 | 希望宣言を知ってはいるが、事業としてはまだ活かしていない。 ※同様の意見、他あり |

**設問11　市町村での変化：（その他）**

| No. | 市町村での変化 |
|---|---|
| 1 | 年々通いの場の設置数が増えており、その中で仲間づくりや様々な活動を行っている。 |
| 2 | 認知症に関する関心は年々の高まりを感じていますし、養成講座についても地域、企業と受講希望は毎年一定数得ています。 |
| 3 | 認知症でもボランティアの継続が出来るよう、一人暮らしの認知症の方が地域の見守りで生活できるように体制を作っている。 |
| 4 | ②③についてはたくさんではありませんが、少しずつ見られています。 |
| 5 | 認知症に対する理解はまだ十分には進んでいない。属性を問わず幅広い啓蒙活動に注力していきたい。 |
| 6 | 本人の意見を聞きたいが、本人から意見を聞ける機会をまだ作れていない。 |
| 7 | 本人の視点にたって施策や支援を一緒に進める為、本人の希望や状況把握が必要だが、具体的計画は未定。 |
| 8 | いないが、今年からでもないことはある。 |
| 9 | この 1 年間は、コロナ禍において家族会やカフェの開催が制限されたため、活動が減ってしまった。 |

**設問13　地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいこと：（その他）**

| No. | 地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいこと |
|---|---|
| 1 | 本人発信に向けてどのように支援していくか方向性を担当者間で検討する必要がある |
| 2 | 共生社会の事業を主体的に推進する組織の確立を目指したい。 |
| 3 | 村内6地区へ新たな認知症カフェを創設して、属性・内容を問わない相談支援を行う事で地域の課題把握と地域での問題解決を目指しつながりを強めていく取り組みを進めていく。 |
| 4 | 地域の人や専門家と相互に情報共有し、ニーズを把握していきたい。 |
| 5 | 対象ケースの拾い上げが出来ていないため、周知活動と、認知症の理解者を増やすことで窓口につながる活動を進めていきたいと思います。 |
| 6 | 社会参加に向けて、地域の企業等と一緒に考えていけるような取り組みを進めていきたい。 |
| 7 | 本人発信ができる機会を認知症カフェと連携し行いたい。 |
| 8 | 認知症カフェや介護者交流会など既存の集いの場やチームオレンジに向けた集いを利用し、当 |

| | |
|---|---|
| | 事者の発言機会も出来ないかと模索中。 |
| 9 | 認知症サポーター養成講座等で、認知症本人や家族の声（思いや求めるもの）を反映させるように力を入れていきたい。 |
| 10 | 生活支援コーディネーターや社会福祉協議会との連携を強化していきたい。 |
| 11 | 認知症地域支援推進員の活動を支援したい |
| 12 | 本人の家族等が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 |
| 13 | まずは家族支援を重点的に行っていきたい。（その後認知症カフェを通し少しずつ本人発信を進めたい） |
| 14 | まだ本人とのつながりが持てていない状態です。今後，あらゆるルートから本人とつながりを作ること，本人が意見を伝えやすい関係性構築が必要と感じています。 |
| 15 | 問題行動としてあがってくる認知症当事者との関わりが多いが、今後は早期の関わりができる体制を整えていきたい。 |
| 16 | 地域性もあってか、本人が認知症になった場合に社会参加に対して消極的になることが多い。 |
| 17 | 本人発信や社会参加支援の対象となるような、診断を受けたばかりの認知症初期の方で、介護サービスにつながる前の空白期間の方々は行政で把握することが困難。疾患医療センターと連携したいが、なかなかつながらない。 |
| 18 | 「地域共生社会」という言葉は聞くが、具体にどこがどうするか話し合われたことがない現状であるため、なにも対応はしていない状態です。 |
| 19 | 力を入れたいが、業務が多く、すぐには取り組めない。 |

**設問14　認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望：（その他）**

| No. | 認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望 |
|---|---|
| 1 | 他自治体の取り組み事例を参考に本村において実施可能なものは積極的に取り入れていきたい。 |
| 2 | 他自治体職員間の意見交換の場がほしい。 |
| 3 | 本人の把握方法について他自治体の取組を知りたい。また、実施している自治体名を知りたい。 |
| 4 | 共生にはポピュレーションアプローチが不可欠と考えます。引き続き国全体で啓発に取り組んでいただきたいです。 |
| 5 | 地域資源がないことから病院も患者の情報提供もなく、地域に早い段階で進めようと思っていない。また、必要性を感じていないため、行政につながるのは介護保険申請時点であり、認知症も進行しているため、意向が聞き取れない。その前の段階からつながるためにはどのようにすれば良いのか知りたい。若年認知症と限らなくても良いのだろうが、70 歳前の若い人の認知症の人もほとんどいない（病院受診しているケースもない）ため、本人の意見を聞き取ることが難しい。 |
| 6 | 本市においても啓発に協力いただけると嬉しいです。 |
| 7 | 若い世代への普及啓発を促進したいが、カリキュラム上組み込むのが難しいため、国の施策として学ぶ場を確保してほしい。 |

**本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために取組んでいることや成果等**

| No. | 本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために取組んでいることや成果等 |
|---|---|
| 1 | 認知症施策とは別に生活支援体制整備事業を包括支援センターで実施しています。<br>そこでは、学生から大人まで住民が地域でできることについて意見を発信し、話し合った地域課題を元に地域食堂やゴミ出し支援などお互い協力して活動しています。<br>認知症の方本人や家族からの声を大切にしながら、地域のニーズに合った地域共生を今後とも検討していきたいと思います。 |
| 2 | 認知症当事者として発言力がありそうな方に接した折には何かの機会に協力を頂けないかと声掛けを行っている段階です。（令和 2 年度内では 1 名の方（レビー小体病認知症者）に声掛けしましたが、具体の成果はありません。） 認知症を自覚し、「生活に困っている」、「不自由している」、「地域の中に解決してもらいたいことがある」と伺うまでに至る対象者様に会うことがなかなかない現状と、アウトリーチ不足を実感しています。 |
| 3 | 認知症本人同士の交流の場の創設における課題の中で、特に、若年性認知症の支援においては、単一の日常生活圏域では、対象者が限られ、想いを共有できる場の設定が困難であり、市の課題として認知症本人活動支援推進ワーキンググループを立ち上げ、課題解決に取り組んだ。<br>結果、関係機関の協力を受け、若年性認知症本人とその家族の交流会を実施することができている。市職員への認知症啓発、本人らの能力を活かせる場の創設のきっかけづくりを目的に今年度初めて、市役所内で若年性認知症本人交流会に参加している本人らによるイベント（お弁当販売）を支援者らの協力のもと開催できた。<br>本人らから具体的な要望等は出てきにくいが、今後も本人らの声に耳を傾け、本人らの声と力を引き出せるよう取り組んでいきたい。 |
| 4 | 認知症の方や家族、関係者の声を基に始まった活動：「共に」「生きる」カフェ　ニューサマーカフェ　・Men`s サポーター |
| 5 | 認知症の本人が参加し、商店街など当事者が直面する実際の場面にて、サポーター養成講座を行う「町歩き de 認知症サポーター養成講座」を住民が主体となり取り組んでいる。 |
| 6 | 認知症フォーラム DVD を作成した。 |
| 7 | ・BPSDや医療・介護拒否が続いたケースを、認知症初期集中支援チームが介入。本人の声を細かくアセスメントし、多職種の助言により、専門医受診・介護サービスに繋がった。<br>・当事者と接する機会がある、職能団体とも情報共有し、寄り添ったニーズ把握に努めている。 |
| 8 | ・本人と発信することに取組んでいる。<br>・個別の事例：地域の居場所の人達が認知症の人とともに活動する中で、少しずつ発想の転換が図れつつあり、お互いのやりたいことを実際にやり始めている。 |
| 9 | 令和 2 年に「認知症とともに生きる希望条例」を施行。認知症のご本人 3 名が検討委員会の委員として参画し、条例の制定後も認知症施策評価委員会の委員として、施策の進捗状況について、評価していただく。 |

| | |
|---|---|
| | 「認知症とともに生きる希望計画」を令和 3 年 3 月に策定し、認知症観の転換（認知症になっても希望をもって自分らしく尊厳を持って生きていくこと）や認知症の方と支える・支えられる関係ではなく、「パートナー」として深く理解して、お互いに支えあう関係と位置付けている。<br>今後、本人からの発信を多世代に渡る地域の様々な場で共有して、地域共生社会の実現を目指していく。 |
| 10 | ・認知症ケアパス改訂において、本人を含めたワーキングを開催し、本人の声を参考に作成した。<br>・認知症の周知啓発目的で開催した『もの忘れ川柳』の選考会に本人に出席してもらった。 |
| 11 | コロナ以前に、認知症がある人もない人も一緒に調理をして、食べ、体操等をするカフェを実施していた。 |
| 12 | ご本人の声を伺い、希望がかなえられる取り組みを進め、今後、地域で楽しく過ごせる「集いの場」づくりにつなげて行く予定です。 |
| 13 | 現在若年性認知症の方で1人、自分の思いや気持ちを発信できる方がいる。今年度は認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ研修で、本人発信の場を設け、お話をしていただいた。今後本人発信の取り組みを周知していき、自分の思いや気持ちを伝えることのできる認知症の方を発掘していく。 |
| 14 | 昨年 12 月、町の広報誌に認知症特集をし本人家族が掲載されました。町の反響も大きく取り組みについてはこれからだと思っています。これから町として認知症本人の声と力を活かし地域共生を進めていきたいと思います。 |
| 15 | 推進員を中心に、チームオレンジの立ち上げ支援を行っています。 |
| 16 | 県より県の希望大使の派遣をいただきました。認知症カフェで講演していただき、参加者が前向きになれる内容でした。 |
| 17 | 第 8 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の中で、本人ミーティングや認知症本人による地域活動の実施を掲げており、今後、区の施策として、認知症本人の方の聞き、力を活かしていく取組みを開始します。 |
| 18 | 認知症に関しては、市の担当者・認知症地域支援推進員の活動が、主に個別対応となっているのが現状です。 |
| 19 | 担当業務が多くマンパワー不足。また小規模自治体で住民の顔が見えやすく、認知症当事者として活動するには規模が小さすぎ個人特定リスクが高い。また高齢化率もあまり高くない現状で当事者を見つけることも難しい。 |
| 20 | 地域共生に関する研修等ありますが、若年性認知症の方の事例がほとんどです。高齢者の認知症の方の事例も紹介してほしい。高齢者でも初期の認知症の方はディサービスは利用されませんし、市ではオレンジカフェでのつながりしかありません。研修を期待しています。 |
| 21 | 本人ミーティング（平成31年度開催。令和2年度はコロナ禍のため中止。令和3年度から再開予定） |

| | |
|---|---|
| 22 | 令和2年3月に本人ミーティングを開催する予定だったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったので、今後コロナ禍でも開催できる方法について認知症地域支援推進員とも検討しながら、本人の声を聞き、声を活かした活動を行っていく予定。 |
| 23 | どう取り組んでよいかわからず、今年度は認知症又は疑いのある方 20 人程度に施策担当者が直接訪問をし、生活の様子や希望、意向などを聞きとり、第 8 期の計画の方向性に反映させました。今後は本人ミーティング等の機会を設け直接意見を伺える機会をつくっていくようにしたい。 |
| 24 | まだまだ認知症に対しての偏見も多い現状があり、すすまない。また、相談に対しても、困っていることだけに着目し、介護サービスへつなぐことだけになってしまっている。また、80 歳以降の方が多く、意向を聞いても、何も話されない方も多い。今後、医療機関のソーシャルワーカーと連携し、本人の意向確認、必要であれば場の設定をしていくことにしている。 |
| 25 | 今年度、本人ミーティングを開催する予定でいましたが、コロナ過のため延期となり、令和3年5月に開催予定です。 |
| 26 | 介護職員向け認知症ケア研修や本人アンケートを聞き取りで行うことで、本人の声を聴き、活かしていけるような土台作りを行っている段階です。認知症カフェ登録団体や地域包括支援センター・認知症地域支援推進員が実際の活動の中で取り組みを行っていますが、本人の声と力を活かす活動にまではつながっていない状況です。 |
| 27 | 本市では令和3年度から「認知症施策推進基本計画」をスタートします。そこでは、「認知症・認知症の人への先入観の払拭」を第一に挙げ、様々な取り組みを本人視点から展開していくこととしています。 |
| 28 | 本人の声や本人の視点にたった支援関することは、まだ具体的に実施できておらず把握もできていないことが多いのでこれから力を入れていきたいと考えています。 |

＜認知症疾患医療センター＞

**設問2　認知症の本人が意見を表しやすい環境づくり:（その他）**

| No. | 認知症の本人が意見を表しやすい環境づくり |
|---|---|
| 1 | 現在、認知症当事者の方から意見を伺い、本人の希望に沿った取り組みを行う計画を立案中 |
| 2 | 運転免許を考える本人のつどいの開催（当事者による当事者の為のつどいです） |
| 3 | オレンジカフェに加え、外来リハビリにおいて本人の意見を伝える機会が随時設けられている |
| 4 | 家族交流会や認知症カフェで本人が発信する機会を作っている。 |
| 5 | 家族会や認知症カフェへの参加時に語れる機会を作っている |
| 6 | ピアサポート活動に向け、カフェ設営の準備中 |
| 7 | メールによる機会は整備している。 |
| 8 | MCI の方を外来で把握しているが、認知症カフェも紹介するなどにとどまっている。 |
| 9 | ①③について、本人と話す時間を持ったり、意見を聞くようには務めているが不十分だと感じる。 |
| 10 | 認知症カフェを設置するがコロナの関係で活用できていない。今後の在り方を地域と検討。 |
| 11 | コロナ禍以前に若年性認知症本人と家族の集いを開催したが、現在は中断している状態 |
| 12 | コロナ感染対策のため、対面式（面談や会議等）の機会が減少した。 |

**設問5－2　地域共生を進めていくための、連携担当者と地域との連携:（その他）**

| No. | 地域共生を進めていくための、連携担当者と地域との連携 |
|---|---|
| 1 | 地域住民 |
| 2 | 若年性認知症総合支援センター |
| 3 | 保険会社 |
| 4 | 免許センター |
| 5 | 民生員、区議 |
| 6 | 同級生等について。他県の疾患センターの取り組み等の情報交換を行う時がある。 |
| 7 | 上記分野にかかわらず連携支援が必要・協力できそうであれば繋げる動きはする |

**設問6　認知症の本人の地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してもらえる人:（3名くらいまで）**

・地域包括支援センター:34

・医師（認知症サポート医、精神科医等）:16

・同僚、所属する認知症疾患医療センター職員等:14

・認知症地域支援推進員:12

・市町村の担当者:9

・介護支援専門員:9

・他の認知症疾患医療センター:9

・精神保健福祉士:8

・上司:8
・基幹型認知症疾患医療センター:7
・センター長:7
・都道府県の担当者:6
・行政担当者:6
・若年性認知症支援コーディネーター:5
・医療ソーシャルワーカー:4
・認知症看護認定看護師:3
・看護師:3
・相談員:3
・認知症の人と家族の会:3
・本人:2
・家族会:2
・社会福祉協議会:2
・社会福祉士:2
・居宅介護事業所:2
・地元の介護事業所:2
・保健所:2
・認知症初期集中支援チーム:2
・若年認知症に関係する機関:2
・認知症カフェ:2
・地元の当事者活動団体
・家族介護者
・地元の医療圏域(市内のネットワーク)
・地域型センターの担当者(担当者だけの共有ネットワークがあるのでいつでも助言を頂ける)
・地域に根付いている地域包括支援センター職員
・副センター長
・認知症に関する部署の専門職
・認知症介護指導者
・認知症相談センター
・学会の理事長
・県医師会の担当理事
・高齢者虐待対応専門職チームのメンバー(社会福祉士・弁護士など)
・保健師
・訪問看護師
・公認心理師
・他地域機関の職員

・他都道府県のクリニックの医師

・他都道府県の研究者

・近隣の市町村の担当者

**設問7 「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方：（その他）**

| No. | 「認知症とともに生きる希望宣言」 の活かし方 |
|---|---|
| 1 | ご本人やご家族が、本人の会の情報を求められたときに渡したことがある。 |
| 2 | 外来の場。 |
| 3 | 感染症対策の為にポスター掲示が出来ず、機会を見て口頭でお伝えしている。 |
| 4 | 企画展示「認知症にやさしい図書館」において、配布資料とした。 |
| 5 | 人材育成研究会で配布 |
| 6 | 研修会で紹介する |
| 7 | 講演会や勉強会の際に、講演内で紹介し、パンフレットをお渡ししている。 |
| 8 | 地域の専門職・住民の勉強会で紹介し、考える機会を提供している。 |
| 9 | 地域での認知症講話会で地域包括支援センターや受講者に配布している |
| 10 | リーフレットや考え方を認知症疾患医療センター運営事業の実施に取り入れている |

**設問10 センターの取組や支援を通じた変化：（その他）**

| No. | センターの取組や支援を通じた変化 |
|---|---|
| 1 | 地域の認知症の人も増えて、「自分が認知症であってもおかしくない」とあたりまえになりつつある。 |
| 2 | センターを通じての変化ではなく、行政担当者や認知症地域支援推進員が先立って地域共生を意識した取り組みを行うようになってきた。 |
| 3 | 認知症と思われても、まだその診断がされていない方が、地域にはたくさんいる。特にカフェや相談会、勉強会等に「参加される方では、自身や家族が認知症と自覚しない方々も多くあり、その方全てに受診まで導くのはなかなか大変であります。1～3の区分け判断に回答を入れ込みにくかった。 |
| 4 | まだまだ実情を把握できていない現実がある |
| 5 | コロナ禍で地域との活動がなくなり実状がつかめない。 |
| 6 | コロナ禍において、感染症対策の為制限がかかってしまったため、活性化しなかった。 |

**設問11　認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題:（その他）**

| No. | 認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題 |
|---|---|
| 1 | 比較的、認知症センターを利用したいと考える相談者は、中等度以上の方か、MCI を含む認知症を気にしている方のどちらかが多く、前者の場合は、本人の意見が聞き取れない場合がほとんどであります。 |
| 2 | 症状的には早期相談、早期受診の傾向にあるがその年齢は80～90歳台と高く、本人が意見を発信することに繋がりにくい。 |
| 3 | BPSD や終末期症状での紹介相談受診のため、家族と話しあうことがほとんどとなっている |
| 4 | 家族のみの来院、本人は BPSD が悪い状態で来院されるケースが多く、本人の意見聴取や希望の実現が現実的でないケースが多い。生き生き過ごしてもらうことを支えられる支援者がいない、希望通りに生き生き過ごしてもらえる場がないことも多い。 |
| 5 | 地域生活が難しくなった重度の方が多い。 |
| 6 | ⑥に関して、外来で接している本人は、本人自身も偏見を持って暮らしている。 |
| 7 | まずは自分がもっと認知症について勉強すること |
| 8 | 地域のニーズや課題が不明確。また、センター管内の自治体がどのような取り組みを行っているかわからない(タイムリーに伝わってこない)。 |
| 9 | 地域性なのか差別的な言動が未だにあり、やりにくさを感じる。 |
| 10 | センターが、認知症の本人の意見や力を活かした地域共生を進めていく上での現実的な具体策を複数持てていない。 |
| 11 | 医師がその業務を医師の仕事と認識していないため、センターとして活動はできていない |
| 12 | 新型コロナウィルスの影響で現在、地域での活動が思うようにできていない |

**設問12　センターの地域連携の担当者として、今後力を入れたいこと:（その他）**

| No. | センターの地域連携の担当者として、今後力を入れたいこと |
|---|---|
| 1 | 早期受診の推進　（認知症増悪からの受診が半数以上を占め、地域共生に繋がらない） |
| 2 | 行政により介入度が異なるため、依存にならず行政に合わせた対応を目指したい。 |
| 3 | 「はたらく」の推奨（講演活動やピアサポーター、経験を活かして得意な事をする社会参画の支援）アドバンスケアプランニング（ACP/人生会議）の普及啓発 |
| 4 | 認知症家族介護者の支援 |
| 5 | 冊子や案内などと共に発信を行っている。 |
| 6 | 田舎の地域で偏見が根強い。本人が意見を表せ、積極的な活動のできる環境ではない。 |
| 7 | 上記①～⑩の重要性は理解できるが、時間・人員的に余裕がない。 |
| 8 | いずれの項目も力を入れていきたい思いはあるが、正直、本人発信や共生の具体的なイメージができていないところも多い。 |

**設問13　認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望：（その他）**

| No. | 認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくための要望 |
|---|---|
| 1 | 医師としての関わり方事例を詳細にアナウンスしてほしい |
| 2 | 医師に対して、上から指示を出して頂けるとありがたいです |
| 3 | 区にそうした体制を作る意識をしっかりもってもらいたい。 |
| 4 | ⑤、⑥のような仕組みは有り難い。施策の多くが自治体・センター任せ、地域の実情に合わせて、という印象を受ける。 |
| 5 | 日本全国を九州・沖縄、中国・四国といったブロックごとに認知症本人との接点ができるような相談先を構築してほしい。 |
| 6 | 予算の増額、地域による社会資源格差の是正 |
| 7 | 他地域での取り組み例等の情報は知りたいが、当センターで主体的に地域共生社会づくりを進めていくことは難しいように思う。 |
| 8 | 予防と共生は国の施策にもなってはいるが実現が難しい現実もある。 |
| 9 | テレビ CM にて普及啓発の映像を放送する。地域の方の目につく場所（病院、市役所、学校、認知症サポーター養成講座、お店など）で見られる映像を配布する。小学校の授業で認知症について学ぶ機会をつくる。 |

**本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために取組んでいることや成果等**

| No. | 本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために取組んでいることや成果等 |
|---|---|
| 1 | 市やその他団体と共催で 2021/3～おれんじドアの開催を始めた。 |
| 2 | 認知症疾患医療センター運営事業にて、認知症本人やご家族が参加できる交流会を開催しております。 |
| 3 | ご本人からも受診についての相談を受けることがあります。その際はご本人からお話を伺い、受診することになった場合はご家族に付き添いいただくようお願いしています。こういった際には、ご本人に受診日近くになったら改めて受診の確認を実施しています。ほかにもご家族からの相談でも、ご本人からお話を聞けるときにはご本人からお話を聞かせていただいております。ご本人様やご家族のご希望があれば、市町のサービスや包括支援センターへご案内をしております。 |
| 4 | 当センターでは、連携担当が認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員、若年性認知症支援コーディネーターを兼務しているため、地域の関係機関との連携が密であることが強み。しかし、当事者の活動についてはまだまだ不足している地域であり、昨年度初めて市内で当事者が参加する取り組み（注文の間違えるレストラン方式のカフェ）を試験的に行いました。それをきっかけとした取り組みを恒常化させる方向で検討していたが、新型コロナウイルスの影響にとり、計画が延期となってしまっている。現在は、認知症地域支援推進員と連携し、認知症当事者の方からお話を伺い、本人が地域でやってみたいことや、地域にあると嬉しいことについて取り組んでいる最中です。また医療圏域内の隣市では、認知症当事者の方がマスターをする認知症カ |

| | |
|---|---|
| | フェを行っている事業所があります。 |
| 5 | 当センター主催で、担当圏域の地域包括支援センターとの勉強会を開催。その中で、県在住の若年性認知症当事者、行政書士として近隣県に在住の高次脳機能障害当事者、近隣県の若年性認知症支援コーディネーターに参加して頂き、年2回、認知症本人、当事者の思いに振れるような機会を作らせて頂きした。 |
| 6 | 2020 年より当院で開始した軽度認知障害及び初期認知症の患者に対する「生活行為向上通所リハビリ」が有効であると考えられるので、全国で取り組んで頂きたいと考える。 |
| 7 | 当院では、センターの事業として新たに当事者の方々に集ってもらい、そこでレクなどを楽しみながら当事者の方々からの意見を拾い上げる事を目的として、『本人の集い』を数回開催致しました。しかし実際は当事者の方の参加が 0 名であったり、認知症の状態によっては部屋に入るのも難しい状態であったりと、適切に会を開催するまでに至りませんでした。これらの経験から、当事者会や本人相談については、開催が非常に難しい上、地域性にかなり左右されてしまう印象を受けています。 |
| 8 | MCI の方への予防的なアプローチは出来ている方が少数ですがいます。認知症と診断された方は、悪化されて既にそのステージにいない方がほとんどです。自動車運転返納レベルでのアプローチでうまく共生がすすんだ事例があれば参考にしたい。 |
| 9 | センターだけでは難しいので、認知症カフェ連絡協議会と協力・連携して市民向けに本人の希望や思いを伝える取組みを行いました（資料添付）。また、認知症カフェを Web にて変更し開催しました。まだまだ参加者が少ないのが課題です。 |
| 10 | 昨年までは認知症カフェを開催し、本人が発言する機会や、ボランティア、保育園児との接点を作るようにしていました。今年度はリスク管理から対象をご家族等に限定しているため、本人の力を生かした地域共生は行えていない。オンラインでの支援も何とか始めたが、現状ではご家族でもハードルが高い状況である。 |
| 11 | 全国的にも高齢化率の全国 10 位以内のうち 4～5 ヵ所の自治体が点在するこの地域では、数十年後の日本がここにあるのだと思いますが、この地域で、「認知症本人の声を活かした地域共生」はまだ実現できていません。認知症疾患医療センターの指定を受ける以前より認知症の精査をはじめて 17 年目になりますが、本人の声を前に出せていけない要因は、地域の閉鎖性があるのだと思います。本人、家族に認知症の早期診断、早期治療の重要性、介護保険サービスの利用等は浸透していますが、自身の様子を語り、地域共生へと発展していく道筋はまだです。家族会はもとより、一般社団法人のボランティア団体は先行して存在しますが、当事者グループの存在がひとつは必要だと考えております。 |

| | |
|---|---|
| 12 | 年々、認知症に対する偏見や恐怖が強くなっている印象があります。相談を受けていると「認知症になるのが怖い」とおっしゃる方が多くいらっしゃいます。報道やインターネットでの情報の影響か、若年者も認知症は忌避するものだという認識も強く、共生社会とは逆行している印象があります。本人の社会参加のための第一歩として理解をするという土台・世間の風土ができていない現状を痛感しております。認知症とかかわる当事者たちは本人発信の必要性を理解はしていても、社会全体の理解は非常にシビアなものであると感じます。地域の取り組みや対面方式での講義だけではなく、SNS などでの発信、インターネットでの情報提供も必要になってくるのではないでしょうか。 |
| 13 | 成果ではなく案じていることですが、私の区において気になるのは、包括支援センター、推進員、ケアマネなどの仕事ぶりが、本人重視ではないことです。規定通りに仕事をこなすように見受けられます。そこに本人の思いを汲み取ったり、意見を尊重したりの様子が見受けられません。色々な機会で問題提起をしたり勉強会をしたりしますが、本人重視の価値観があまりないようで頭を悩ませています。色々なイベントはしていますが、その時限りに終わっていることが残念です。草の根運動を続けるしかないと考えています。 |
| 14 | 神谷和弘氏の氏を同封します。このような考えがあることに私は賛成します。無理やり本人を引き出すのはよろしくないと思います（出たい人が出るのは大賛成ですが）。 |
| 15 | コロナ前はウオーキングイベントを通じて、地域への啓発をしていたが、コロナでなくなり大きなイベントとしての啓発や自己実現の場が減ってしまった。他に変わる活動（楽しみのようなイベント）があれば知りたい。また変わるものを今後検討して行きたいと思っている。 |
| 16 | 若年性認知症（DLB）の方が、当院（有床診療所）に入院しており、社会の中でそれこそ共生できる環境設定を現在模索しているところです。こうした実体験を貴重な学習にしたいと思っている。 |
| 17 | 全国各地での本人の活動はとても励みになりますが、本人が人前に出ることそのものが目的になってはいけないと考えます。<br>悲しいかな、ご自身も含めた認知症に対する偏見のために人前に出ることをためらったり、出たことでショックを受けたりすることへの配慮がなくてはなりません。私たちの地域はまだまだ本人の実践がないのですが、少しずつ本人の声を活かした地域共生を進めていきます。 |

# ３　本人参画推進ワーキンググループによる検討

## １）ワーキンググループの概要

### （１）ワーキンググループのメンバー

○北海道釧路市（行政・地域包括支援センター）
○神奈川県南足柄市（地域包括支援センター）
○静岡県藤枝市（行政・地域包括支援センター）
○和歌山県御坊市（行政・地域包括支援センター）
○認知症の本人、及び本人活動団体
（鳥取市、仙台市、品川区、多摩地域、上田市、香川県）
○西香川病院（認知症疾患医療センター）
○認知症研究者・有識者

### （２）実施時期

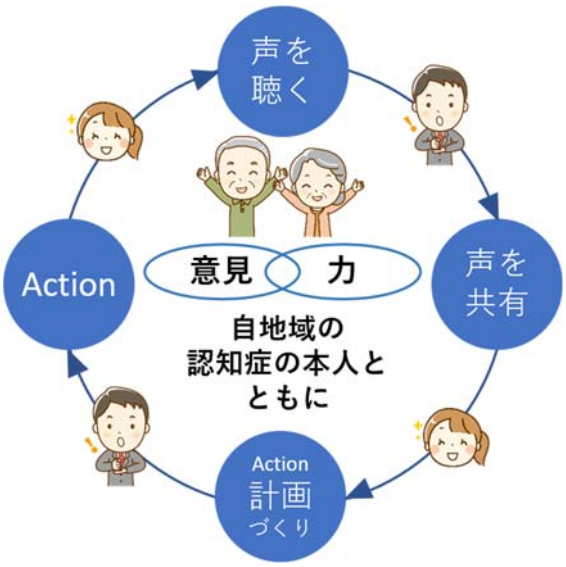
令和2年９月～令和３年３月

### （３）ワーキンググループでの検討内容、及び実施事項

「本人参画を進めるためのポイントとステップ」づくりのための検討
①本人参画を進めていく上での自治体担当者の困りごと・課題
②自治体職員の困りごと・課題に対する「認知症本人の声」の収集と整理
③実践自治体における推進アクション情報
④取組に関する実践事例（映像等を含む）収集
⑤本人参画を進めるためのポイントとステップ「手引き」の内容、及び構成等の検討

## ２）「本人参画を進めるためのポイントとステップ」づくりのための検討

本人参画を進めていく上での自治体担当者の困りごとと、実践自治体による推進アクション




| 行政の役割 | | 自治体担当者の悩み<br>取組への課題（主な事柄） | 推進アクション<br>（実践自治体から） |
|---|---|---|---|
| 自地域の認知症の本人とともに | 声を聴く | ・本人と出会う機会がない（把握できない）<br>・話ができる本人がいない<br>・本人が認知症であることを受容していない<br>・認知症カフェとどう違うのか。<br>・「本人ミーティング」ができない<br>・本人自身、家族に認知症に対する根強い偏見（先入観）がある<br>・（業務量が多く）余裕がない | **本人と出会う（知り合う）**<br>・最初の一人との出会い<br>・地元の人のつながり<br>・GH や DS 等へ訪問<br>・認知症の本人の友達を紹介してもらう<br>・「相談窓口」などでつながりの起点をつくる |
| | | | **本人の話を聞く場、機会**<br>・気軽な場（本人たちが気楽に思える場所）<br>・別の集まり等のついで<br>・本人の家へ遊びに行く<br>・本人が関心を持つ事柄から（雑談から、世間話から）<br>・質問攻めにしない（聞きたいことばかり聞かない） |
| | 声を共有 | ・誰と（どこと）共有すればよいのかわからない<br>・どんなことを共有するばよいのかわからない<br>・事業等への活かし方がわからない、ハードルが高い | **情報共有ツールと、話しあいの機会を持つ**<br>・地域共通の情報共有ツールをつくり、できるだけ多くの関係者と本人の声や意見を共有<br>・共有された情報に関する話し合いの機会（時間）を、既存の様々な会議等の中で定常的に設ける |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・ミーティング等に参加してくれる本人がいない、声のかけ方がわからない。<br>・MTG 実施に必要な要件の組み立て、調整ができない | **必ず本人たちの声・意見を聞く**<br>・本人が居るところへ出向く<br>・2～3 人ぐらいの小さな集まりを設ける<br>・ミーティングの場に誘う（会議メンバー・発信者として）<br>・行政や周囲の都合や目標を優先せず、ともに考え、工夫する |
| | | ・本人主体にすると、予定どおり（計画どおり）進められなくなるのではないか<br>・ケガや事故が心配 | **本人たちを主役（主体）に**<br>・「支援のための取組」ではなく、認知症の本人が、社会に参加・参画することが重要<br>・お客さん（事業対象者）扱いではなく、ともに運営するメンバーとして、役割等を設ける |

本人参画を進めていく上での自治体担当者の困りごとに対する、「認知症の本人」からの意見（1）

**インタビュー：藤田和子／鳥取県鳥取市　※映像資料参照**

**■「声を聴く」ことの悩み等に対して**

行政の人たち自身が、本人たちとともに、認知症になっても暮らしやすいまちをつくりたいという、はっきりした理念をもつことがまず大事ではないか。
これまでのような認知症の本人についてのイメージをすてて、本人といっしょにつくりたいという気持ちをもつことがまず最初の一歩だと思う。

本人の声がない、本人がいない、ということはないと思う。
なぜこんなふうになっているのか、なぜこんなことがおきているのか、というところから始めれば、本人にきいてみようとなり、本人がどこにいるか、ということにならないのではないか。
発想の転換をすれば、本人がどこにいるかということがわかってくるし、今までみえないとかいないと思っていた本人にも出会えるのではないか。

本人の積極性を待っていてもたぶんできないのではないか。積極的にやりたい本人は少ない。
特に今の状況では、声を出せる本人は少ない。
本人はやはりしんどい。日々のことで精一杯だったりする。
本人は、明確な目的や信念がないと動けない。自分は求められているから、なんとか続けられている。
ほかの本人は、求められてもたまにだし、やだなあと思って、（本人の声を求められる場へ）いったりすることもある。

自分が人の役に立つという実感をもてない人も多い。
それでも、自分が話したことが人の役に立つということがすこしでも経験できれば、またやりたいと思えるのではないか。
あなたの声が必要だといってもらえたら変わる。そうした場へいけば、友達ができたりもする。
本人も自分にとってのプラスがみえてくると、楽しみになる。だから、積極的に考えるようになる。
よしやろうと思えるような、本人以外の人のいきごみを、本人へ伝えることも大切。

行政の人が知らなくても、これまで本人にかかわっている人たちは本人を知っている。その人たちの協力を得れば、たくさんの本人とであえるのではないか。

本人が一人に頼り切るのではなくて、最初からいろんな人とつながることは大事。
ケアの人がいらないわけではないし、社会活動の人たちもケアの人たちとつながって、情報を知り合って、つながって一人の人を支えるのに必要な情報を共有したらいい。
本人がいろんな人とつながらないと活動の幅が広がらない。

漠然とした目的ではなく、交通機関やショッピングなど、テーマを決めて話せば、話すうちに、本人からもこのことについて考えてほしいとか、暮らしの違和感とか、話が出てきて、さらに話を深めることもできるのではないか。
どうやったら本人といっしょにやっていけるかと考え、あなたの声が必要だということを発信したり。
たくさん集めて話合いをするというところから始めないで、地道に始める、たとえば一人の本人とやってみるとか、はどうか。
これまでは、本人に問うことをせず、家族や医療の人に聞くことが多かった。
本人に聴くことは、時間も手間もかかるし、工夫もいるけれど、でもやる価値がある。あきらめずにやってほしい。

**■こうなればいいと思うこと**

<u>さまざまな部署の人とのつながりがあったらいい</u>

本人が特定の職種の人だけでなく、いろんな部署の人とつながりができたらいい。
本人が役所の窓口にいった場合、認知症のことはなんでもかんでも地域包括に、とするのではなく、自分たちの課に来られた方にはそこで対応できるような能力を養ってほしいなと思う。
連携するのは医療介護だけでなく、それぞれの部署が連携して、そこで対応できるとなっていくべきだと思う。

いろんな課の人が、本人にとってプラスになる情報や、認知症についての情報をもっていてもらえたらいい。
障害者手帳を使っている本人が増えているが、障害福祉の担当者で、本人がもつことのメリットがあることを知らない人もいた。ちゃんと情報を共有して、紹介してもらえたらいいなと思う。

## さまざまな市民がいる。だれもが暮らしやすいまちを

認知症のある人、いろんな重い病気のある人、精神疾患のある人、そういう市民がどこにでもいる。
だれもが暮らしやすいまちという考え方、元気で働ける人だけが市民ではないという感覚をもってほしい。どういった人がいても、暮らしやすいまちにしていくんだという、行政の理念があれば、いい。
この状況だとやりにくいんだなと、とまどうんだな、ということに対して、100％までいかなくても、すこしでも暮らしやすいようにしていきたいなと思ってもらえたらいい。
どうしたらいいかは、本人と一緒に考えないとすすめられない、と理解してくれる人が増えてほしい。

## 急にやろうとしないで、ゆっくりすすめてほしい

急にやろうとしないこと、ゆっくりすすめていこう、ということも大事ではないか。
年度計画があってむずかしい、ということもきくけれど、長期の計画でやっていくと考えてもらえたらと思う。

## 日常生活で支障がおきている状況を「どうしたらよくしよう」からスタート

認知症のことを受け入れられない人について、鳥取のおれんじドアでも、自分はちがう、という人がいるが、「記憶に不安があって」「いろいろあってね」とは言う。
認知症はいやだという拒否反応を持つ人がまだ多くいるし、これまで自分がもっていた認知症観が否定的だったから、自分におきたことを認めたくないという気持ちが働くのだと思うが、自分が「認知症があるけど、これこれこうだよ」と伝えると相手が和むこともある。
認知症の症状はいろんな病気から発生するものなので、原因をつきつめることをせず、現にことで、おそらく認知症では、ということでもよいかなと思う。
認知症を認めさせようということはしなくても、日常生活でなんらかの支障がおきているという状況にあるなかで、どうしたらよくなるかな、とかあなたがしんどいと思うことをなんとかよくしよう、とか、会話、コミュニケーションをとり続けたらいいのではないかと思う。

「本人」について

ちゃんと認知症と診断された人でないと本人ではない、という考え方をしなくてもいいのではないか。
ものわすれ外来や病院に通い続けているなど、疑いありも含めたらいいのではないか。
必要がなければ通わないわけだし、認知症のある状況がはじまっている人を含めたらいい。
すっかり話ができなくなった人たち、こういう状況を認知症だと思いこんでしまうと話が始まらず、対策、対応になってしまう。
すっかりできなくなってから、ではなく、入り口に立ちそうな人も含めて話をきいていかないといけないと思えたらいい。
そうした人の声をちゃんとしっかりきいてこなかったから、認知症になっても暮らしやすいまちがつくられてこなかったのではないか
制度とか、システムも、そうした人たちへの視点、理解ができていなかった。
認知症はすこしずつ始まるわけだから、認知症の入り口に立ちそうな人が社会生活でつまづかないようにすればいい。
活動していこうという人たちが少しずつ増えてきているが、まだ元気なのに認知症だねといわれる。
今まで元気でいないのが認知症という感覚をもっていたが、今はそうじゃないという理解が少しずつできつつある。
もう社会にでていきたくない、と思わなくてすむような人が増えるためにも、まだ認めたくない人たちの声も大切にして、なぜ認めたくないのかをしっかりきいていけたらいい。
そういう人にちゃんと話をきいていくと、どう変えていなかなければいけない、というのがみえてくるのではないか。

■これからにむけて

自分はもともと介護者、そして医療者として、本人とかかわることがあったけれど、そのころは本人が意思をもっているということを考えたことはなかった。
こまったことをされる人たち、うまくできない人たちなので、こちらがどう対応するか、と対処のことしか考えてなかった。自分が認知症になることを考えてなかった。
認知症になってみて初めて、本人として社会で生きていくことの苦しさを感じた。
さまざまな偏見や、自分が生きていていいのかと感じている本人がいることも目についた。
本人の人権がまもられていない、と気づいた。
だれも気付いてくれないので、本人発信をして、社会を変えたいと思って活動を始めた。
自分の活動に賛同してくれる人がすこしずつ増えてきて、発信を続けることで他の本人ともつながった。ちゃんと話をきいてくれるだけでなく、社会を変えたいという人にも出会え、どうやったら変えていけるかを考える人たちが増えてきた実感、本当に変わってきたなという実感もあり、自分の活動の手応えも感じている。

だれも通っていない道なので、道がない。最初の道をひらく人たちの一人になったので、かきわけるのは苦しい。

自分は本人だからぜったいあきらめたくない。
支えてくれる人たちは、本人ではないので、当事者とはちがう。自分たちの家庭や仕事や思いがあるので、同じ人に支えられてきたわけではないという事実もあり、ひとすぎなわではいかない。
それでも、そこにおかれた本人があきらめなければ、誰かとつながって、きりひらいていけるという経験もしているし、これからもしていきたい。
いろんな人たちが変えたいと思ってくれれば変えていける、という実感はある。

認知症の本人は、ケアの部分だけを強調されると、「してあげなくちゃいけない人」になってしまう。
ケアを受けながら、自分の考えていることをちゃんと発信できていたら、そこを切り離して、そこを活かすために、別の人につなぐこともできるのではないか。
車いすを使う人や、排せつのケアを受けているような、他の障がいのある人で、障害をもっていても暮らしやすい社会をつくりたいという活動をする人の場合は、ケアの部分だけをとりあげることがあまりないが、認知症の場合は、ケアがあっても社会で暮らす、ということにこれまであまり目がむいていなかったのかもしれない。

認知症の人たちは施設か病院にいて、隔離され、社会に参画するということが無理と思われていた。
でも、本人になってみると、社会参加したい、と自分は思った。
社会とつながりたいとか、私たちはまだまだできる、という本人がでてきたので、そういった必要性がだんだんみえてきて、それをやっていかなければいけないとなってきた。
道がまだなく、切り拓かれてきた道ではないのでむずかしく、どうしたらいいのかなというところから始まるが、全然無駄ではない。これからなる人たちが、認知症とともに生きる生活にすっと入るためにも必要なことだと思う。そうしたことがなかったから、みんな隠すし、もうだめだと思ってしまう社会だった。

今はちがってきている。ちがう方向に向けようとする分岐点の入り口に何歩か入ってきている。
協力してくれる人が後退していってしまうとあっという間にもとの社会に戻ってしまう感覚がある。
大綱や、本人とともに考えることや、希望宣言もおしてくれているし、基本法もまだできていないが、認知症とともに暮らしていける社会が必要だということもできているし、そこにむかっている市や町や県がすでにある。
いっしょにやろうといってくださる行政の人たちが音頭をとってくれると、本人にとっても心強いし、やりたい、やってみたいと思う人もすこしずつ増えてくると、信じている。

本人参画を進めていく上での自治体担当者の困りごとに対する、「認知症の本人」からの意見（2）

**インタビュー：丹野智文／宮城県仙台市　※映像資料参照**

■「しゃべれる本人がいない」といった悩み等に対して

「しゃべれる」ということの意味合いについて

しゃべれる本人はたくさんいる。
「しゃべれる本人がいない」は、「しゃべれる」ということの意味あいがちがうのではないか。
「国に対して政策提言できる本人がいない」「すばらしいことをいう本人がいない」と考えているのかもしれないが、とつぜん、認知症の施策のことについて助言ください、認知症のことを話してといわれても話せないのではないか。
知らないことについてきかれてもわからない。
自分が多くの人たちとしゃべれるのは、多くの支援者にあって、つねに話していたり、いろんな会議に入って、いろんなことをきいて学べているから、話せている。
デイサービスにいったら本人がたくさんいる。

もともと持っている知識が大事

大工さんに大工の話をきいたら、話せるはず。
もともと（施策に関することに）興味があった人もいる。年齢に関係ない。80代でも興味があって、よく本を読んでいる人にきけばこたえてくれる。
もともともっている知識がなにかが大切。それを無視して、例えば条例について突然きかれても、条例をつくる意味もわからなかったら、わからないで終わる。そこがずれているのではないか。

知らないことは話せない

仙台でも、最初は話せないけれど、講演会や勉強会をやってどんどん情報を仕入れているから、みんな話せている。「うちは田舎だから」「うちは都会だから」は、関係ないのでは。
自分が初めて、小規模多機能、グループホーム、宅老所といった専門の言葉をきいたとき、老人ホームとなにがちがうの、と思った。
老人ホームしか知らない人が、知らない情報、言葉遣い、専門の言葉をいわれても、なにも話せない。
そこをわかったふりして話しているから、本人はぽつんとして話せない。
自分が車のディーラーの営業会議に出ても、なにもこたえられないと思う。それと同じ。
知識があるかないか、が大事。かんたんなチラシをくれるとか、勉強する機会をくれるとかもなしに、入ってくださいといわれても無理。

## まずは興味のあることから。そこから糸口をみつける

本人ミーティングの題材もむずかしすぎる。
自分のことならしゃべれるけれど、最初から、国に対してとか、認知症についてどう思いますか、といわれたら、こたえられない、普通の人は。
しゃべれる人たちがいるから、といるから、と始まると、しゃべれないから、そこに入りたがらない。
あるまちで、本人ミーティングの前に、この地域でお土産買いたいけれど、なにがおいしいのかと最初にきいたら、みんなこたえられた。
どこで売ってるの、いくらするの、とか。どんな種類あるの、最近食べてるの、ときいたら、本人が最近は食べてない、といったので、なぜときいたら、最近運転してないから、といわれた。そこから認知症の話題にもっていくことはできる。
最初から、車の運転をしていますか、ときくから、考えつかないのではないか。聴き方が下手なんじゃないかなと。
ふつうの会話をして、なにを知っているのか、なにに興味をもっているかを知ってから話せば、話せる。
このまちでおいしいものときいたら、みんなこたえてくれるように、みんながこたえられる質問からしていって、糸口をみつけていけばいい。最初から、どうやったら暮らしやすいと言われても、わからない。

## だれにでもわかる言葉を使う

自分がものごとを簡単に話すのには、車の営業をしていた時、新人の女性から、タイヤのホイールは何かときかれたから。タイヤの中についている鉄のかたまりだよ、と話したらわかってもらえた。それからは、電話でタイヤ交換の話をする時には、鉄の塊ついていますか、とだれでもわかる言葉にした。
自分は講演の時も専門用語を使わないようにしている。だからわかりやすいのかなと思う。
権利擁護のこともむずかしすぎる。今まで、権利、人権は、教科書でだけできいただけ。
これまでの人生で使ったことがない言葉でいわれてもピンとこない。
いままでのあたりまえの生活を続けていきましょう、といわれたらわかるのに、希望と尊厳をもって、といわれたら、なんだろうと思ってしまう。その人のこれまで培ってきた経験とかが関係するのではないか。
認知症になった人は、ふつうに働いてきた人。みんなが福祉にかかわってきたわけではないし、人権問題にかかわってきたわけでない。
だれにでもわかる言葉で伝えていかないと、質問されてもわからない。
英語みたいな単語はぜんぜんわからない。

## ■認知症を受けて入れていない人について

診断されていないのに、まわりがあの人、認知症の人だっていうことがまちがっているのではないか。
診断されてなくて、しゃべってくれないというのも、別にしゃべる必要はないのではないかと思う。
やりたくない人に無理やりやらせること自体がおかしい。
本人が診断されたくなければ、しなくてもいいのではないか。ただ、仮に認知症の症状があって、困っていることがあれば、それを助ければいい。

本人がやりたいか、やりたくないかもききもしないで、しゃべってもらえない、のはおかしい。
なぜ認知症と診断されたくないのか、病院にいきたくないのか、ということが大事。認知症で前向きに生きてます、という講演会だけでなく、本音を話してもらう講演会があってもいいのではないか。
なぜ、病院へ行きたくないのか、それはレッテルを貼られたくないから、とか認知症といわれたら施設に入らなければいけないとおもっているか、とかあるかもしれない。
行政は、認知症があっても前向きを発信してほしいのかもしれないが、なぜ病院にいきたくないのかも大切なので、そのあとに、病院にいってからどうだったか、話してもらったらいいのでは。そんな講演会はいままでないし、段階を経た講演をしてもらったおもしろいのではないか。講演の題名をどんどん変えていくのもいいかも。

## ■本人の力と意見を活かすことについて

### 取組むときには最初から本人が入ることが大事

仙台でつくったケアパスは、本人主体でつくっている。最初から本人が入っている。
その中で本人に、この言葉をどう思う、ここはわかりやすい、ここはわかりにくい、とちゃんとみてもらっているから、だれでも見れる冊子になっているのではないか。

これまでは、行政が作った冊子に、できあがってから本人にどう思うかといわれて、いいんじゃないですか、でおわっていたのではないか。それで「本人にききました」としてしまっていたのでは。
最初から入っていないと、どういった考えでこれができてきたのかもわからず、できあがったものをどう思うか、なにをきかれても、どうも思わないのではないか。

こうした冊子をつくりたい、という時は最初から、本人が入るべき。
最初から入るからいろんなことが考えられる。どんな冊子がほしい、とかいろんなことが考えつく。
自分たちが読む冊子、家族が助かる冊子、など。
冊子ができてからどう思うといわれても無理。入る段階が今までは遅すぎる。

### 取組みの振り返りも、本人とともに。次に活かすことで、本人が変わる

仙台のおれんじドアでは、最後の振り返りも、本人でやっている。
みんなが帰ったあとに、主催者側のふりかえりに、本人委員が入っている。
1週間後だと忘れるから、終わったらすぐにやっている。それでうまくいっているのかなと思う。
本人主体の本人ミーティングといいながら、振り返りが行政だけで、本人が入っていないことが多い。ここも変えていかないといけない。
振り返りから、いっしょにつくりあげていかなければ結局やらされている感があって、前向きにならないし、楽しくない。一から十まで一緒にやっていく。どう変更したらいいかもいっしょにやればいい。
最初は一人でも、だんだんと増やしていって、最終的に多くの本人が入るようになっていく。
そうすると、自分が役に立てる、という気持ちになって、早めに部屋にきて、準備から取り組んだり、と主体的に動いてくれるようになる。

振り返りに入らないから、結局自分たちはお客様としてしか考えなくなって、その場をつくってよ、という考えになる。
本人が最初から振り返りまで入ると、自分たちがつくっているという感覚になる。
まわりがつくったものに入らせるのではなくて、本人がいっしょにつくっていってそれを応援してくれる人が増えたらうまくいくのではないか。

**行政の考えている施策と、本人の意見が異なることはとてもいいこと。このギャップを活かす**

もともと行政が考えている施策と、本人がいったことがちがうのはとてもいいこと。
いっしょだったら、今までうまくいっているはず。
本人と行政の意見がいっしょでないほうがいいと思う。今年、本人たちがこう言っているから、次の年度に、これをもとに、どうしようかとすればいいか考えましょうとすればいい。
そこだけですべて完結しようとするからうまくいかなくなるのでは。

**ほんの一言。これが大事**

本人の言葉のたった一言、それがものすごく大事。それが本人の言葉。
理路整然と話すことを考えるからおかしい。
一時間の間で、ぽつんと話した一言が、それが大事。そこを拾い上げることが大事。
ずっと話す当事者だけを考えるから、うまくいってない

## ■本人とともに取り組むことについて

話をきくだけでなく、いっしょにつくるところまで本人とともに
最近は、行政が本人の話をきこう、と変わってきてはいるが、本人と一緒になにかをしよう、までは、いってない。話をきいたあとは、汲み上げました、として行政の人だけで動いているような感じがする。
話をきくのも大切だけど、その人の力を信じて、本人がどのようにしたらいっしょに動けるかを考えて、本人といっしょにものごとを作り上げていくところまでが最終目的ではないか。結局ずれている

**本人の力を信じて、もともともっている力を最大限に活かした地域づくりを**

本人の力を信じて、といっても、結局だれも信じていなくて、低くみているような気がしている。だからうまくいかない。大工なら、なにかを直す力を活かした地域づくり。農家なら、それを活かした地域づくり。
寡黙でも、地域で活躍できる人はたくさんいる。そういう人の話をきいて、いっしょにやっていくといい。
それがなく、人権問題とか権利問題ばかりの会議で活躍できる人を探しているから、しゃべれる当事者がいないとなっているのでは。世の中の大半はしゃべれないから、みんながMCになれないし。おもしろくないから、お笑い芸人にもなれない。なれる人は一部。みんなちがう。
もともともっている能力を最大限ひきだせる地域づくりをやっていけばだれも活躍できる。

本人の実際の経験から、必要なことに取り組む。なぜ必要かを考えて本人といっしょに

たくさんの本人と話して、一番最初に本人がいうのは、「奪われた」。
行政は、前向きになった人の話ばかりきくのではなく、なぜ、「奪われた」「禁止された」という言葉がでてきたのかも考えてくれたらいい。
元気になるまでのそこまでの過程がとても大切。ただ単に元気になる人はいない。
自分も、一人の元気な本人にであって、そこで変わった。
その経験から、元気な当事者同士が出会えたらいいなと思って、元気な当事者と、そうでない当事者が出会う場、しくみとしておれんじドアをつくった。
ただ、おれんじドアが、なぜつくられたかが抜け落ちて、つくればいいやとなって、思いがないと、うまくいかないのではないか。つくる段階から本人が入っていて、なぜ必要かを考えていっしょにやれば、本人は動く。

目的を行政と共有することについて

自分の活動の目的は、本人が笑顔になること。前向きになること。これだけ。
楽しくなれる、自分の意見をいえる、というような、ゆるいものでいいと思っている。
本人が自主的に動いて、自分たちが前向きな笑顔になれるような活動をしたいと思っている。
行政と目的をいっしょにしようとすると、行政むけの目的、こうするべき、ということがつくりあげられそうで、むずかしく考えすぎてしまったり、かたいものになるのではないか。
本人が元気になる、本人が笑顔になる、という目的にならなくなりそうだし、笑顔になる、とすると、レクリエーションに走るかもしれない。
いいきってはいけないが、行政と目的意識をいっしょにすることのむずかしさも感じる。
仙台では、自分にまかせてくれていて、自由にのびのびできているからうまくいっているのかなと思う。
本人の力をもうすこし信じてもらえたらいい。あくまでも行政は、バックアップ、応援をしてくれるというのが大切だと思う。

本人参画を進めている自治体担当者から(グループミーティング採録)

■「参画」という言葉についての印象は？

参画という言葉はすごく重いイメージがあるのかな。本人の声を聴くことと参画をつなげようとすると、行政は成果を求められるので二の足を踏んでしまうのではないか。自身でハードルを上げてしまうのではないか。

御坊は条例を作る時にワーキングチームに本院が入ったが、入らなくてもいい。

ワーキングチームのメンバーだけでなく、それ以外の本人にも自分たちが会いに行って声を聴いたのもあったので、どうしても参画というと委員会やワーキングチームに本人が入ってないといけない、というイメージがあるのではないか。

■きちんとした立場で（会議等のメンバーとして）入っていないといけないという考えになる？

多分、行政的にも見栄えというか、それが本人参画ととらえやすい所があり、そうしてくる人がいれば「参画」、そういう人がいない時に、どう「参画」という形につなげるのかイメージがわかないのかもしれない。

■委員会とかに入ってくれる人がいないと参画とならないと思っているのか？

すごくわかる。参画というと、市の事業に入ってくるというイメージになりやすく、それよりももっと個別、本人の個別が大事かなと思っている。本人のふつうの暮らしだったり、そういうところの声がしっかり反映というか、これまで通りの暮らしが保たれて生活が続いていくことが大切だと思って、そこがかなえられていくことが参画につながるのかと思う。市のことに参画するイメージを持ちやすいと思うが、本人が参画する前に、本人の声をもとに希望のある暮らしが続けられているかが大切だと思う。そこが実現できてくることが参画につながるのかと思う。

■認知症施策の前に本人の生活がどうなっているかの方が大事ということか？

釧路市はようやく本人参画が進んでいない、というところで何年も前から本人ミーティングはどんなもんか話をしていた。ようやく去年のネットでの推進員のセッションを釧路の推進員が見て、御坊市の本人の声をメモするシートを見て、なるほどこういうふうに本人の声を聴けばいいんだというのが落ちれば、話の展開としては早い。今までさんざん話をしていたのに、谷口さんの話を聞いて、パクッてやろうというと、沢山出てきた。出会う機会がない、と言っていたのに、沢山出てきた。若年の人からの相談がこの半年で５～６件出てきた。今までもあったはずなのに、そこに意識が向いていなかっただけ、ちょっと意識がむいたら沢山出てきた。それをストックして、どれだけその人たちと密接に話ができて、言ってくれた意見をいろんなものに反映していくことが大事。

その流れで、若年性認知症の人と家族の集いを 11 月にやったら、弟子屈の本人が来てくれ

て意見を言ってくれて、北海道は閉鎖的で冬になると、催し物をやると釧路だけでは数が足りないので、声をかけたらよそのまちから出てきた。
これも御坊に行った時に、御坊の推進員さんを集めてやってくれたことがヒントになった。きっかけがあればポンポンいく。

包括の相談はいっぱいくるが、今までは病院の受診につながった、介護のサービスを導入した、など結果につながったら包括の支援は終わっていた。
メモをとることで、そのあともその人は生活しているところに目がむくようになり、あとをおいかけるようになった。これまでは自分しかわかっていなかったのが、セッションの中で実際に谷口さんがやっているのをみておちた、意識の共有ができたのが大きい。
ピンと来ていなかったのが、具体的にみることで、本人の声、意向をきちんとききとれることにつながるということがあっという間にわかった。それがきっかけでケアパスも本人ガイドのページが厚くなった。なんとか本人に出会いに行こうという形になった。
待ってても来ないことにようやく気付いた。

包括支援センターの職員が、個々で横山さんのような関りをできているかといえば、藤枝はまだまだかなと思う。速水さんの話を聞いて、共有するとか、誰がどのように伝えるのか、どういうふうにおちていくのか、という作業は継続的にしていかなきゃいけないと感じた。聞けているはずの声が聞き流している、聞いているが「おちるところ」、捉え方が人によって違ったり、だからこそ共有する作業が大切なんだなと。

**■考え方（方針等）や情報の共有のためには？**

写真も資料でよく使うが、動画の方が伝えやすい。郵便局の事例も動画を見て郵便局が動いてくれたり、映像や写真の取り扱いも御坊市はうるさくないが、自治体によっては制限があったりする個人のカメラに個人情報が残るものはとってはいけないとか。

**■本人の言葉の記録は？**

スマホは厳しい、デジカメ、クラウドに入るといけない、とか取り決めをしている。
デジカメなら大丈夫。動画はないが写真はある。
（本人から聞いたことは）記録としてそのままの言葉を残している。ケース記録として残している。
包括職員はみんなみれる
推進員だけがやるのではなく、包括全体で本人の声を取り入れていくために、本人のシートがあるので、書くのも見るのも共有するように伝えた。

訪問した時、電話、どういう機会であっても当事者だと思ってなくて話していても、とにかく自分が気になると思ったものはメモするように話している。

持って歩くのが難しければあとで思い出してかけ、と言っている。
それを何か月かに1回でも推進さんたちとの会議で全体で共有しようと思っている。
御坊のを使っている。
気付いた事は考察として入れるようにしている。
うちは本人以外にも、自分が講演で聴いた本人の言葉を残している。
自分だけがその話を聞いてよかったではなく、他の人も共有できるように、丹野さんや治子さんの言葉も記録している。
御坊は、４～５年前からやっている。

**■記録や本人の言葉のメモからその先に役立ったのは**

シャンプーのボトルもメモからだった。
ホッとサロンで一緒に風呂に入った時にこういうことを言っていた、と残っていて、日帰り温泉の専務に言った方がいいんじゃない、と。
本人の声を打ち込む前に、見たときに、ファイルが一つあってそこに書き込む。
専務に言いに行く前にこっちもテプラで「あたま」「からだ」作って準備していった。
向こうのスタッフに「すぐに石鹸ではがれてしまいます」と言われて、
「これ、もしよかったら貼っていただけますか？」と言って、すぐに貼ってくれたが、すぐに剥がれたと電話があった。「もう油性ペンで書きます、」と言われた。

若年性認知症の男性が買い物に行って、毎回千円札で支払い、その日に食べる弁当と缶ビールを２本毎回買っていると聞いて、そのままの言葉を書いていたら、他の職員が見て、「2 本いか買わない理由があるんじゃない？」と言われ、本人に聴きに行ったら理由があり、箱でビールを買うと飲み過ぎるから、毎日２本しか買わないと制限ができるのと毎日買い物に行く目的ができる。それをスタッフと話していて、本人なりの生活の工夫だと気づいた。それをサポーター養成講座などで伝えて、こうして工夫して暮らしている、と伝えている。

伝えるには行政同士だけでなく、本人たちがこういうふうに暮らしている情報、本人たちの姿を多くの人たちに知ってもらう、行政側がセットする部分もあれば、周りが支援に動く部分もあるだろうし、本人自身も動き出すこともあるだろうし、共生社会に向けて…
普通に暮らしているところを自分たちも見てきているはずなのに、そこに視点が行かずに本人の特別な参画のようなイメージで声を聴こうとすると、困っていることは何ですか？と聞くと、困っていることはない、と返ってくることと一緒。

本人ももし俺が認知症になって、市のかしこまった委員会の役員を頼まれたらいやだというだろう。現役時代とかどういう仕事をしてきたか、どういう役割をもってきたかによってハードルを高く感じる人や低く感じる人もいるんじゃないか。釧路にいる人は現場で働

いていた人や自営業の人もいて、もともと出不精の人もいて、本にの声をメモをとったところから始まり、一つの地区で６３～４の人と MCI の人が一度に相談に来たから、みんなで意見交換をやろうといったが、３人のうち 2 人が「俺、こわいからいやだ」といわれ、結局奥さんが来て女子会のようになった。好きなこと言っていいんだよ、という環境、雰囲気を作るのも大事かなと、それは地区で小さくやり始めて、大きくしていけばいいかな、と思う。
若年性の人の集まりも女性が来てくれた。出てくれるのは女の人の方が多い。本人さんたちだけでなく、奥さんが来てくれたら、夫婦で、そこからでもいいのかな、と思う。
若年性の集まりは 4 組集まってくれた。

簡単な案内文を作って、北海道の振興局には伝えて、振興局の管内の 8 市町村でやった。釧路市だけでは若年で知り合った人は１人だけだったので、数を集めたいと思い、７つに声をかけた。そんなの必要ない、というところはなかった。

コロナだから、どこかが言えばそれにのっかろうかと思っていたのだと思う。
誰か一人ずつ連れてきて、と言いたかったが、釧路まで時間もかかるので、行政の人の方が多かったが、管内の市町村のチラシやケアパスを持ってきて、互いに配った。目にする機会がなかったので、好評だった。

**■近隣市町村等との連携や互いのバックアップ**

自分の所だけでなく、周辺まで一つの行政単位としてやれば周りの市町がのってくる。釧路はその下地ができている。SOS ネットワークもからむが、これは保健所が釧路管内の釧路地域 SOS ネットワークを構築していて、その連絡会議を年 1 回保健所に集まって認知症関連の話をしていた。それに振興局も絡んでいるので、行方不明になった時の情報の共有とか、釧路は総合病院が３つあり、どれかにかかる人が管内の町村から来る人が多く、病院に来た時に行方不明になる人も年間何人かいるので、その人たちを探すのに、情報をスムーズに共有するにはどうしたらいいかの話し合いもされていた。そういう下地があったから推進員さんや上司、役場の偉い人達たちとも顔見知りの部分もあり、他に推進員が集まって研修をやるのも年 1 回あったので、そこには根室管内からも来ていた。去年はコロナで来なかったが、それまで合同でやっていた。
今後、それを続けるために、持ち回りも考えたが、当事者がいる町村は一生懸命やるが、いないところはやりようがないから、釧路が声をかけてやった方が長続きするだろうと思ったので、準備もなるべく簡単に済まそうと資料のやり取りもメールや電話で済ませた。
これは今年度も続くだろう。
これが本人たちの声を聴く場があるかどうか、という話になった時に、意識はしていなくてもこれがそれにあたると思ってくれれば、話はもっと進むかな、と思う。

もともとある仕組みの中で本人の声を聴くのをはじめました、という方が長続きすると思う。本人の声をきくために仕組みを作ろうとすると長続きしない。
今あるしくみを使ってみんなで本人の声を聴く取り組みをしよう、という方が話が早い。現実的で役に立つ。本人の声を聴くことを目的にしがちだから、聞いておしまいにしないためにも、今あるものの中に本人の声を聴くというアクションを取り入れていったらいい？

それをやる時に釧路市が主催となると、よその町村の人が来づらくなるので、主催は釧路管内の家族会の名前を使った。釧路市というと、釧路市でやっていることでしょ、と他の町村が来ないので、行政説明も振興局の職員にやってもらって、準備と会場の用意だけやったからよかった。
あと、主催、協力のところも協定がうるさいところがあったので、包括だと OK なので、包括支援センターとすることで工夫した。
釧路市も 7 つ包括支援センタープラス、それぞれの市町村の包括支援センターで名前を載せた。なるべく行政の雰囲気を出さないように配慮した。

さっきの他の市町の取り組みにのっかるところも本人中心に始まるのもいいのかな、と思う。御坊の希望のリレー楽団をやっていて、始まりは御坊の 2 人を繋げていたが認知症本人ワーキンググループまで広がって、あまり難しく考えず、のっかればいいんじゃないか。

（本人同士がそういうことができればいいんじゃないかな）
本人が参加することの質感、もっと日常の中で本人がするっと仲間入りしていることが本人参画ですよ、というふうに感じてもらうことが第一かな。
（釧路のメンバーが御坊の動画を見て意識が変わった、といったのはどの動画か？）
普段俺が言っていることはこういうことなんだと、耳では聞いていたが、どういう形でアクションを起こせば落としどころに辿りつくのか、を納得した、理解したと思う。
方向性としてこういうふうに、こういうところをゴールに、とゴールの話しかしないので、ふわっとすることの意味が、谷口さんたちが声をきっかけに郵便局に働きかけた、シャンプーに字を書いた、とか、本人たちの声を聴いてそれを行動に移したらこう変わったんだ、というのがわかったんだと思う。ふわっとした中え、枠組みを固めていくのが推進員の仕事なんだ、ということが実際にやっている人たちをみてわかったんだと思う。あれからこの半年でいろんなものがあっという間にいろんなことが決まっていく。
ケアパスも細かいのはちょくちょく毎年見直しているが、大きな見直しは計画策定年にやっている。認知症の部分は一緒に考えるとして、プラスしてケアパスも作り直して、という話をしていた時に、本人ガイドをケアパスに織り込んだ形に 2 冊つくるかと考えていたが、2 冊だと片方先にさけて、残るから 1 冊にまとめたい、と言い出した。左から開くと相談先がわかり、裏から開くと本人に働きかける本人ガイドの中身、左右から使える案を出

してきた。それをどう活用していくか、という時に、これまで概要版を作りサポーター養成講座などで配っていたが、それも使いつつ、今まであまりあって来なかった当事者の人にこちらから歩み寄る中身のものにできないか、その中身したうえで病院に渡して認知症だと診断を受けた人に配ってもらおうということになった。今回の 4 回の動画を見て、最初が御坊だったから本当に変わった。

推進員が、本人の声シートを自分からやると言い、最初に聞いた人が「俺の目標はホノルルマラソンに出ることだ」と言われ、マラソン走れないし、折れかけた。
自分のやってきたことを継続したい、ということだよね、ということで、
今までは聞き流していたことが、真剣に聞くと、実現するために何か手伝えることがないか、という発想になったことは大きい。

（了）

### ３）「本人参画を進めるためのポイントとステップ」に関する実践事例

（和歌山県御坊市）

収穫したスターチスはドライフラワーにして、メッセージカードと一緒に袋詰めをして花カードができあがります。この花カードづくりにみなさん集中して取り組まれています。花カードは、さまざまなイベントや介護福祉課などで配布しています。

フラワーボーイズが、母の日にお墓参りをする「母の日参り」を広げるため、PR用の花束づくりをしていることを知り、平成29年から花束づくりも始めました。

スターチスの収穫では、「久しぶり！」と声をかけ合うなど、ご本人同士のつながりも生まれています。花カードづくりをきっかけに始まった農家との交流で、社会へ参画する機会が広がっています。

## 今年も仲間たちと一緒に

ご主人が奥さんと作っていた農園を、ご本人が亡くなった後も「夫が大切にしてきた畑を活かして欲しい」と声かけがあり、本人が通っていたデイサービスの仲間たちが、今もいろいろな野菜を育てながら、交流の場にしています。

畑で足をふんばり、葉の部分をしっかりと手で掴んで、
力を込めて引き抜く…畑の整備もトラクターを使い、
手慣れた操作でならしてくれました。

まだまだできることがあるのに、
それを発揮できる場面が
減っています。
自分の力を生かして活躍できる
場にしていきたいです。



## 本人の気づきから、みんなにやさしい銭湯へ

ご家族やご本人同士の交流会「ホッとサロン」（地域包括支援センター主催）を、2カ月に1回、野天風呂「宝の湯」で開催しています。入浴したい人はお風呂へ、相談や話したい人は食堂で、互いに楽しみながら交流を重ねています。

### 本人からの提案

シャンプーとか石鹸（ボディソープ）とか、
どれがどれなのかわからへん。
もっとわかりやすく“頭”、“体”、みたいに
書いてくれたら、間違わへんと思うよ！

### この声を聞いた市の職員

宝の湯のスタッフに伝えると
「実は、スタッフ間でも、お客様が
容器を間違っているのを見て、何か
解決できないかと話していました。
貴重なご意見ありがとうございます！」
と、考えてくれました。

スタッフは、ボトルに油性マジックで
＂からだ＂、＂あたま＂と
大きく書いてくれました。

こんなことも……

脱衣場のロッカーのカギの開け閉めがわかりにくいことも伝えると、
脱衣カゴを用意してくれたので、入浴後も迷うことなく
自分のカゴの所へ行き、着替えることができました。

認知症に関係なく使って頂けるよう、
スタッフがお手伝いさせて
いただくことを心がけています！
ほんのちょっとしたことだけです！

野天風呂宝の湯　大川寿樹さん

7

## 迷ったことから、誰もがわかりやすい郵便局へ

認知症の人が郵便局へ行こうとして、すぐそばの道で迷っていました。
信号を渡れば郵便局でしたが、ご本人は「いつもと違う道から来てしまって、わからへん」と。

その人の立っている方向から見ると、「〒」マークがよく見えないことがわかりました。

いつもの道から見た郵便局 ⇩

⇩ 迷った道から見た郵便局

いつもの道から来ればわかるのに……

8

このことを市内の郵便局長さんたちと共有し、一緒に考えました。
局長さんからも、「確かにわかりにくい」と、検討いただける
ことになりました。

そして……

## 〒マーク設置！

左から
財部郵便局長
御坊郵便局長
介護福祉課長

認知症の人から郵便局が
どう見えているか、
知るきっかけになりました。
これからも認知症の人の視点から
気づいたことをもとに、
誰もが利用しやすい郵便局を
目指します！

郵便局長さん

9

## 小学校で認知症の本人が講師役

藤田小学校では、毎年、認知症について学ぶ講座を５年生に行っています。認知症のご本人が講師役になって、子どもたちに伝えます。
講師役は、ピアノが得意な楠本さんとハーモニカが上手な山際さんです。子どもたちは生演奏を交えたお二人の話しに聴き入り、拍手で盛り上がりました。
子どもたちも、認知症の人に自分ができることを考え、楽しいひとときになりました。

認知症になっても、何も変わらんで。
普通でええんやで。

山際さん

認知症になっても
楽しく過ごせそうです！

子どもたちから

11

## 幼稚園の節分、鬼役で大人気

大成幼稚園から節分の鬼を派遣してほしいと頼まれ、幼稚園とデイサービスで一緒に豆まきを行いました。背の高い土谷さんとデイのスタッフが鬼役になって、園児と一緒におじいさん、おばあさんたちも逃げ回り、楽しい時間を過ごしました。

「節分の鬼役」のような、ちょっとした役割が、地域の一員として参画していくきっかけになっています。

笑顔のやさしい土谷鬼に近寄る子どもたち…

12

地域の協力で焼き芋づくり

## 地域と世代を超えて交流

新潟県湯沢町との交流から、「焼き芋交流会」が3年前に博愛園で始まりました。
交流会には250人もの人たちが集い、アツアツの焼き芋を笑顔でほおばり、世代を超えた「つながりの場」になっています。焼いた焼き芋は、なんと600本! 回を重ねるごとに、互いにできる事を手伝いあうつながりが生まれています。

地区の民生委員さん

パプリカの演奏に踊り始める園児たち

認知症の人、地域の人、幼稚園児から和歌山高専の学生まで、世代を超えて交流する「つながりの場」になっています。

地域の人や民生委員さんが
協力してくださり、本当に感謝しています。
これからも世代を超えて
交流できる場を広げていきます。

介護老人保健施設リバティ博愛
瀬川光永さん

13

## ４）本人参画を進めるためのポイントとステップ「手引き」の構成と内容

〇全 24 頁

〇手引きを見ながら、記事に関連する映像資料（youtube コンテンツ）をQR コードで簡単に視聴可能。

〇構成

| 構成 | | 先行自治体や本人からのアドバイス |
|---|---|---|
| 大項目 | 声を聴く | **本人と出会う（知り合う）**<br>・最初の一人との出会い<br>・地元の人のつながり<br>・GH や DS 等へ訪問<br>・認知症の本人の友達を紹介してもらう<br>・「相談窓口」などでつながりの起点をつくる |
| | | **本人の話を聞く場、機会**<br>・気軽な場（本人たちが気楽に思える場所）<br>・別の集まり等のついで<br>・本人の家へ遊びに行く<br>・本人が関心を持つ事柄から（雑談から、世間話から）<br>・質問攻めにしない（聞きたいことばかり聞かない） |
| | 声を共有 | **情報共有ツールと、話しあいの機会を持つ**<br>・地域共通の情報共有ツールをつくり、できるだけ多くの関係者と本人の声や意見を共有<br>・共有された情報に関する話し合いの機会（時間）を、既存の様々な会議等の中で定常的に設ける |
| | Action 計画づくり | **必ず本人たちの声・意見を聞く**<br>・本人が居るところへ出向く<br>・2～3 人ぐらいの小さな集まりを設ける<br>・ミーティングの場に誘う（会議メンバー・発信者として）<br>・行政や周囲の都合や目標を優先せず、ともに考え、工夫する<br>・専門用語を使わない |
| | Action | **本人たちを主役（主体）に**<br>・「支援のための取組」ではなく、認知症の本人が、社会に参加・参画することが重要<br>・お客さん（事業対象者）扱いではなく、ともに運営するメンバーとして、役割等を設ける |

# ４　「認知症の本人の意見と力を活かした地域共生社会づくり」にむけた提案

## 【１】行政関係者の認知症観を変えることから始める

〇旧い認知症観のままのために、事業がうまく進まない現状がある（全国調査結果）

〇行政関係者の認知症観が、施策全体及び地域の専門職、住民、本人への影響が大

〇認知症の本人と行政との「新しい関係づくり」（これまでの先入観を払拭し柔軟で快い関係づくり）

**【方策】本人がふつうに暮らしている実際に触れる・知る**

①困りごとから入らずに、地元の本人の日常の暮らしを知る

②すでにある資材を活かす　＊希望宣言、国の動画当

③「本人とともに」取組み進めている自治体関係者の話をきく → 【5】へ

## 【２】共生実現にむけての「方針」を、行政として明確に掲げる

〇これが行政だからこそできること、やってほしいこと:

本人、支援関係者から強く求められている:

市区町村調査、疾患センター調査の結果からも

**【方策】「なにごとも本人とともに」という方針を示し、様々な場面で伝える**

①この方針を行政として掲げることを担当部署で決める

②行政があらゆる場面で、この方針を関係者、市民等に伝える

## 【３】行政が使う「ことば」の見直し・改善作業に取り組む

〇行政が使っているチラシや書類等に、古い認知症観の「ことが」がたくさん紛れ込んだままになっている

〇行政関係者が、古い認知症観に根差した「ことが」をしばしば発している

〇それらが、取組みを進めるうえでブレーキになっている

**【方策】「ことば」の見直し・改善作業をやれる範囲から即実行する**

①地元の本人の声を聴きながら、一緒に進める

②「①」がどうしても難しい場合は、他地域の本人の力を借りる。その場合も、その過程で他地域の本人と地元の本人が出会い、地元の本人が発言できる機会をつくる。

## 【４】「本人の声」を記録し、地域に活かす

〇本人の声が聞き流されている

〇声が活かされていない。本人発信を特別新たな事業とせずに、今でている声を大切に生かす

**【方策】地域の関係者とともに、本人の声を記録し、活動や事業に活かす**

①今、なされている相談や各種事業での「本人の声」のシンプルな記録を呼び掛ける
　本人や関係者の許諾が得ながら、映像（写真、動画）での記録ができると効果的

②記録をもとに、本人とともにできること、課題を話しあう機会をつくる

③すぐできることを即実行し、時間がかかることは計画的に進める

④以上を本人とともに進めることを大切に、一人からでも地元の本人と進める
　*無理と決めつけず、取組んで見ることで、進み始める

## 【５】担当者が、「本人とともに」進めている自治体と相談・交流できる機会・しくみをつくる

〇自治体間の進み具合に大きな違いが出ている

〇都道府県が開催する市区町村担当者等の研修や連絡会等に加えて、もう一歩具体的な情報共有や相談、そして継続的な交流機会をもつことへ高率の要望（9 割強）が、市区町町村調査及び疾患医療センター調査で示されている

**【方策】「本人とともに」進めている自治体との相談・交流機会を、多様なカタチでつくる**

①都道府県単位で、圏域単位で、近隣市区町村と、など、多様なやり方を考えながら、
まずは取組み始められるカタチで始め、やりながら改良していく。
　＊すでに始めている実例を参考に

②いずれの場合も、行政関係者のみで進めずに、本人の参加を必ず検討し、参加できる配慮・調整をする

③オンラインを積極的に活用しながら、全国の担当者が相談や交流をしやすいつながりを育てていく。その際、本人が参加することも積極的に行い、そのための工夫や配慮を充実させていく

# 資　料

## 1．自治体施策・事業における地域共生社会づくりに関する本人参画状況全国調査

### 1）都道府県調査票

**認知症本人の意見と力を活かした地域共生社会の推進全国調査**
**【都道府県用】**

**貴自治体の概要をご記入下さい　（令和3年1月1日時点、あるいは直近の状況）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 都道府県名 | | |
| 2 | 人口 | 人 | |
| 3 | 高齢化率 | % | |
| 4 | 管内市区町村数 | 市区町村 | |
| 5 | 管内認知症疾患医療センター数 | 箇所 | |
| 6 | 認知症施策担当部署名 | ※主となる担当部署名（右欄に） | |

**Ⅰ.貴都道府県の認知症施策の現状についてお尋ねします**

**設問1　貴都道府県の認知症施策の方針について**

| 各項目について、下記の該当する数字を1つ選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. 役所全体での方針である　2. 役所全体ではないが、担当部署全体の方針である<br>1. 担当部署全体ではないが担当職員の方針である　0. そうした方針はない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指す。 | |
| ② | 認知症に関する施策や取組みを、本人の意見を踏まえて進めていく。 | |
| ③ | 認知症に関する施策や取組みは、本人が参画し、本人の力を活かして進めていく。 | |

**設問2　認知症施策の計画策定の際に、本人が意見を出せる（意見を聞く）機会作りについて**

| 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 都道府県の委員会や検討会等に、本人が委員として参加し、発言する機会を作っている。 | |
| ② | 都道府県の委員会や検討会等に本人を招き、本人が発言する機会を作っている。 | |
| ③ | 計画策定時、施策担当者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を直接聞いている。 | |
| ④ | 計画策定時、都道府県関係者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を集めている。 | |
| ⑤ | 計画策定時、本人が集う場に担当者や関係者が出向き、本人の意見を集めている。 | |
| ⑥ | 計画策定時、本人自身の調査を行い、本人の意見を集めている。 | |
| ⑦ | 計画策定時、本人を含む住民等の集まりを開き、本人が発言する機会を作っている。 | |
| ⑧ | 計画策定時、担当者や関係者が日常的に聞いている本人の意見を集約している。 | |
| ⑨ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑩ | 特にない。 | |

**設問3　貴都道府県の第8期介護保険事業支援計画に、認知症本人の意見の反映について**

| 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 計画案を策定する段階から本人が直接発言できる機会を作り、意見を聞いて計画に反映した。 | |
| ② | 計画の案が固まってきた段階で、案を示して本人の意見を直接聞き、計画に反映した。 | |
| ③ | 本人の意見を直接は聞かなかったが、調査や関係者を通じて本人の意見を集め計画に反映した。 | |
| ④ | その他のやり方で、本人の意見を計画に反映した。（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑤ | 第8期の計画に、本人の意見は反映はしなかった。 | |

**設問4　日常の中で、本人が意見を表しやすい環境づくりについて**

| 各項目について、下記の該当する数字を1つ選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. コロナ禍以前からかっている　2. コロナ禍になってやり始めた<br>1. 以前はやっていたことがコロナ禍でやっていない　0. 今までやっていない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 施策担当者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っている。 | |
| ② | 地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことを施策担当者として推進している。 | |
| ③ | 都道府県として本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合い意見を表せるようにしている。 | |
| ④ | 都道府県等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている。 | |
| ⑤ | 専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている。 | |
| ⑥ | 認知症疾患医療センターと協力して、本人が意見等を語れる機会をつくっている。 | |
| ⑦ | 都道府県としてオンラインを使って、本人が意見を語ったり、話し合える機会を作っている。 | |
| ⑧ | その他(下欄に、具体的にご記入ください) | |
| | | |

**設問5　都道府県としての事業や取組を実際に進める上での、本人の意見の反映・参画について**

| 下記の項目で該当する番号を下記から選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. 実施/運営を本人参画で共に進めている<br>2. 本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている(本人は参画していない)<br>1. 事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない<br>0. 事業自体を実施していない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 都道府県の認知症関連のチラシや冊子等の作成・改善 | |
| ② | 都道府県の認知症関連のホームページの作成・改善 | |
| ③ | 都道府県の本人ミーティングの開設や運営 | |
| ④ | 都道府県として、ピアサポート(本人による本人の相談等)の開設や運営 | |
| ⑤ | 都道府県として、認知症バリアの点検・改善 | |
| ⑥ | 都道府県として、本人が望む社会参加活動の場や機会づくり | |
| ⑦ | 都道府県として、市区町村のチームオレンジの促進 | |
| ⑧ | 都道府県として、見守り・SOS体制作り | |
| ⑨ | 都道府県として、医療・介護サービスの質の向上 | |
| ⑩ | 都道府県版の希望大使の任命・活動 | |
| ⑪ | 都道府県の認知症に関する条例づくり | |
| ⑫ | その他(下欄に、具体的にご記入ください) | |
| | | |

**設問6　管内の市区町村が「本人の意見と力を活かした地域共生」を進めていくために、都道府県が市区町村に行っている支援について**

| 下記の項目で該当する番号を下記から選んで、回答欄にご記入下さい。<br>2. 行っている。<br>1. 取組みをしているが、「本人の意見や力を活かした地域共生」に関してはあまり行っていない。<br>0. 取組み自体をしていない。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 管内市区町村に出向いて、事業全般の情報の収集と話合いをする取組みをしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」についても話し合いをしている。 | |
| ② | 管内市区町村に調査シート等を送付し、事業全般の情報を収集する取組をしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」に関する情報を収集し、集約結果を市区町村に共有している。 | |
| ③ | 全国の参考情報を集める取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても情報収集し、管内市区町村に情報提供している。 | |
| ④ | 市区町村の担当者が会場に集まり、情報交換や話しあいをする取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても話合しあう時間を設けている。 *オンラインの活用は、下記の④で | |
| ⑤ | 市区町村の担当者がオンライン参加で情報交換等をする取組をしており、「本人の意見と力を活かした地域共生」に関しても時間を設けている。 | |
| ⑥ | 市区町村の担当者に本人の話しを聞いてもらう取組をしており、その中で本人が地域で活動をしている話もしてもらっている。（集合型あるいはオンラインで） | |
| ⑦ | 市区町村の担当者等が視聴できる動画等を作って配信する取組をしており、本人が地域で活躍している話しや様子を収録した動画等を作成し、市区町村に提供している。 | |
| ⑧ | 市区町村担当者から講師等の紹介依頼に応えるようにしており、地域で活躍している本人を紹介したり、つないでいる。 | |
| ⑨ | 都道府県として、管内で重点（モデル）市区町村を設定して認知症施策を推進する取組みをしており、その中で「本人の意見と力を活かした地域共生」に関するテーマとして、成果等を管内全体に広げている。 | |
| ⑩ | その他(下欄に、具体的にご記入ください) | |
| | | |
| ⑪ | 特に行っていない。 | |

**設問7　地域共生を進めていくための、認知症施策担当者と地域との連携について**

| 下記の項目の中で、最も近いものを1つ選んで、その数字を右の回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 本人の声をもとにしながら、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている。 | |
| ② | 本人の声をもとにしてはないが、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている。 | |
| ③ | 地域の中で連携相手を広げているが、本人の声や地域共生をあまり意識してこなかった。 | |
| ④ | 地域の中で、連携相手をあまり広げていない。 | |

| 上記①～③とお答えの方にお聞きします。<br>下記の項目で、実際の連携相手として該当する場合は「1」を、該当しない場合は「0」をご記入を下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 都道府県内の認知症の本人 | |
| ② | 近隣都道府県の認知症の本人 | |
| ③ | ①②以外の、全国の認知症の本人あるいは本人の活動組織 | |
| ④ | 認知症の本人の「家族」あるいは家族の組織 | |
| ⑤ | 認知症の本人が活動することをふだん一緒に行っている人（パートナー等） | |
| ⑥ | 住民 | |
| ⑦ | 小中高生や学生、学校の関係者 | |
| ⑧ | 保育園・幼稚園等の子供たちや子育て関係者/組織 | |
| ⑨ | 店舗や交通機関等、企業等、生活関連領域で働いている人/組織 | |
| ⑩ | 農林水産、環境等の分野の人たち/組織 | |
| ⑪ | 本人が就労している会社等の関係者 | |
| ⑫ | 地域包括支援センターの職員 | |
| ⑬ | 初期集中支援チームのチーム員 | |
| ⑭ | 認知症地域支援推進員 | |
| ⑮ | 生活支援コーディネーター | |
| ⑯ | 就労支援の専門職・関係者 | |
| ⑰ | 介護支援専門員 | |
| ⑱ | ⑰以外の地域の介護事業所の職員 | |
| ⑲ | 医療機関の医師・職員（認知症疾患医療センター以外） | |
| ⑳ | 認知症疾患医療センターの医師 | |
| ㉑ | 認知症疾患医療センターの医師以外の職員（連携担当者、職員等） | |
| ㉒ | 都道府県が配置している若年性認知症コーディネーター | |
| ㉓ | 地元で認知症の人の地域活動の支援をしている組織 | |
| ㉔ | 地元で障害者や子供等の地域活動の支援をしている組織 | |
| ㉕ | 都道府県の担当部署内の行政職員 | |
| ㉖ | 都道府県の担当部署以外の多分野の行政職員 | |
| ㉗ | 近隣都道府県内の認知症施策担当者 | |
| ㉘ | ㉖以外の全国の認知症施策担当者 | |
| ㉙ | 市区町村の認知症施策担当者 | |
| ㉚ | 担当者の友人、知人、同級生、同窓生等 | |
| ㉛ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |

**設問8　施策担当者として地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してくれる人がいますか**

| 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 職場の中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ② | 自分が働いたり暮らしている市区町村内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ③ | 都道府県内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ④ | 全国のネットワークの中で、、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ⑤ | 特にいない。 | |

| 上記①～④で、「助言してくれる人がいる」と回答された場合、<br>その中でも、特に頼りにしている人の立場を、下欄にご記入下さい(3名くらいまで)。 |
|---|
| |

**設問9　貴都道府県での「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方について　　*以下「希望宣言」と略**

| 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 認知症の本人に渡したり、知らせている。 | |
| ② | 認知症の本人の家族に渡したり、知らせている。 | |
| ③ | 広く住民等に渡したり、知らせている。 | |
| ④ | 医療機関に掲示してもらったり、活かしてもらっている。 | |
| ⑤ | 介護事業者に掲示してもらったり、活かしてもらっている。 | |
| ⑥ | 成年後見や権利擁護の関係者に渡したり、知らせている。 | |
| ⑦ | 役所に掲示し、役所職員や役所に来る人に知らせている。 | |
| ⑧ | 議員や首長に渡したり、知らせている。 | |
| ⑨ | 「希望宣言」をもとに本人と話し合い、本人が前向きに暮らしていくきっかけにしている | |
| ⑩ | 「希望宣言」をもとに地域の関係者で話し合い、希望のリレーに取組んでいる | |
| ⑪ | 市区町村として地元版の希望大使を任命している。 *名称は希望大使以外の独自のものでも | |
| ⑫ | その他、「希望宣言」を活かしている（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑬ | 「希望宣言」を知らなかった。 | |

**Ⅱ.貴都道府県でみられている変化/成果、課題についてお尋ねします。**

**設問10　貴都道府県では、地域の中で意見を発する地元の認知症の本人が増えていますか**

| 下記の選択肢から最も近い内容を一つ選び、その数字を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 意見を発する本人が増え、本人が自分から意見を活発に発するなってきている。 | |
| ② | 増えてはいないが、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている。 | |
| ③ | 地域の中で意見を発する本人がまだいない。 | |
| ④ | 把握していない。 | |

**設問11　貴都道府県では、地域の中で活き活きと暮らしている本人が増えていますか**

| 下記の選択肢から最も近い内容を一つ選び、その数字を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿が増え、その姿や場面がより充実してきている。 | |
| ② | 増えてはいないが、地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿や場面が充実してきている。 | |
| ③ | 地域活動の場につながる本人は増えているが、自ら活き活き活躍するまでにはなっていない。 | |
| ④ | 地域活動の場につながる本人があまりいない。 | |
| ⑤ | 把握していない。 | |

**設問12　貴都道府県では、以下のような変化がみられていますか**

| 各項目について、下記の該当する場合を、回答欄にご記入下さい。<br>3. 年々拡充してきている　2. 今年からみられている　1. ない　0. 把握していない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 前向きに暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている。 | |
| ② | 本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている。 | |
| ③ | 地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている。 | |
| ④ | 地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている。 | |
| ⑤ | 地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている。 | |
| ⑥ | 地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑦ | 地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑧ | 地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑨ | 認知症疾患医療センターの医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑩ | 行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑪ | 本人の意見や力を活かして行政の他部署ともつながり、施策や取組をより総合的に進められるようになってきている。 | |
| ⑫ | 認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている。 | |
| ⑬ | 認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている。 | |
| ⑭ | 立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている。 | |
| ⑮ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑯ | 特になし | |

**設問13　貴都道府県が、認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題をお聞かせください**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 都道府県としての認知症施策の方針が不明確であり、実際には地域共生を目指せていない。 | |
| ② | 認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての、役所内の意識や優先順位が低い。 | |
| ③ | 担当者が事業や取組でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない。 | |
| ④ | 施策担当者が、自分の意見を語り地域で活き活き過ごす地元の本人に出会えておらず、<br>地域共生の具体的なイメージや可能性をつかめていない。 | |
| ⑤ | 地元の本人には、自分の意見を言えるような状態の人がいない。 | |
| ⑥ | 本人が語る機会や場をつくっても、本人が集まらない。 | |
| ⑦ | 地域の偏見がまだ強く、本人が意見を言えたり、地域に参画できる雰囲気・環境ではない。 | |
| ⑧ | 相談の際に、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）、意見を活かす機会になっていない。 | |
| ⑨ | 認知症カフェが、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない。 | |
| ⑩ | 本人ミーティングが、本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない。 | |
| ⑪ | 都道府県内の地域/場によって、本人の意見や力を活かす意識/取組みに温度差がある。 | |
| ⑫ | 本人が社会参加したくても、送迎や付き添う人の確保で課題が生じている。 | |
| ⑬ | 本人が社会参加したくても、家族が「本人は無理」「話せない」等と、理解・協力が得られない。 | |
| ⑭ | 家族が本人の代わりに話す場合が多く、本人自身の声を聞けないことが多い。 | |
| ⑮ | 担当者が、本人発信や社会参加支援の方法がよくわからない。 | |
| ⑯ | 担当者が、本人の意見を施策や事業等にどう反映させていけばいいかよくわからない。 | |
| ⑰ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑱ | 課題は特にない。 | |

## Ⅲ.今後についてお尋ねします

**設問14　貴都道府県で地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいことがありますか**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 担当者が、地域や取組現場に出向いて、本人の意見に触れる機会を増やしたい。 | |
| ② | 認知症地域支援推進員が、本人発信や本人の社会参加支援の活動ができるよう後押しをしたい。 | |
| ③ | 医療専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 | |
| ④ | 介護専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 | |
| ⑤ | 地域住民等が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 | |
| ⑥ | 認知症疾患医療センターと、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい。 | |
| ⑦ | 地域の医療機関と、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい。 | |
| ⑧ | 本人が、本人発信や社会参加について前向きになれるよう、本人自身への働きかけを強めたい。 | |
| ⑨ | 本人が日常の中で発している意見が、行政まで届いて施策や取組に活かせるように、関係者間の<br>つながりや協働、フォーメーション作りに力を入れたい。 | |
| ⑩ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑪ | 特にない。 | |

**設問15　貴都道府県として、認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために要望がありますか。**

| 下記の選択肢から該当する項目は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 他自治体の取り組み事例を知りたい。 | |
| ② | 他自治体の計画・企画について具体的に知りたい。 | |
| ③ | 職場内の方針や合意づくりを進めていくために、利用できる資料がほしい。 | |
| ④ | 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、具体的な進め方や内容の資料がほしい。 | |
| ⑤ | 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、わかりやすい映像資料がほしい。 | |
| ⑥ | 本人の意見や力を活かした地域共生に関する研修や情報交換の場がほしい。 | |
| ⑦ | 行政担当者が、気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、全国で作ってほしい。 | |
| ⑧ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑨ | 特にない。 | |

**☆貴都道府県で、本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために取組んでいることや成果等、他の自治体等に紹介したい情報がありましたら、どうぞ教えてください。**

※自由にご記入下さい。あるいはこの調査票返信時に関連資料をご添付下さい。

設問は以上です。ご協力、本当にありがとうございました。

## 2）市区町村調査票

# 認知症本人の意見と力を活かした地域共生社会作り全国調査
# 【市区町村用】

**貴自治体の概要をご記入下さい　（令和3年1月1日時点、あるいは直近の状況）**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 都道府県名 | | | |
| 2 | 市区町村名 | | | |
| 3 | 地方公共団体コード | | 参照：総務省HP | http://www.soumu.go.jp/denshijiti/code.html |
| 4 | 人口 | 人 | | |
| 5 | 高齢化率 | % | | |
| 6 | 地域包括支援センター数 | か所 | | |
| 7 | 認知症地域支援推進員数 | 人 | | |
| 8 | 貴市区町村内での、認知症疾患医療センターの有・無 | | 右欄に：有=1／無＝2 | |

**Ⅰ.貴市区町村の認知症施策の現状についてお尋ねします**

**設問1　貴市区町村の認知症施策の方針について**

| | 各項目について、下記の該当する数字を1つ選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. 役所全体での方針である　　2. 役所全体ではないが、担当部署全体の方針である<br>1. 担当部署全体ではないが担当職員の方針である　　0. そうした方針がない | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指す。 | |
| ② | 認知症に関する施策や取組みを、本人の意見を踏まえて進めていく。 | |
| ③ | 認知症に関する施策や取組みは、本人が参画し、本人の力を活かして進めていく。 | |

**設問2　認知症施策の計画策定の際に、本人が意見を出せる機会作りについて**

| | 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 市区町村の委員会や検討会等に、本人が委員として参加し、発言する機会を作っている。 | |
| ② | 市区町村の委員会や検討会等に本人を招き、本人が発言する機会を作っている。 | |
| ③ | 計画策定時、施策担当者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を直接聞いている。 | |
| ④ | 計画策定時、地域の関係者が本人のところに個別に出向いて、本人の意見を集めている。 | |
| ⑤ | 計画策定時、本人が集う場に担当者や関係者が出向き、本人の意見を集めている。 | |
| ⑥ | 計画策定時、本人自身の調査を行い、本人の意見を集めている。 | |
| ⑦ | 計画策定時、本人も含む住民等の集まりを開き、本人が発言する機会を作っている。 | |
| ⑧ | 計画策定時、担当者や関係者が日常的に聞いている本人の意見を集約している。 | |
| ⑨ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑩ | 特にない。 | |

**設問3　貴市区町村の第8期介護保険事業計画に、認知症本人の意見を反映しましたか**

| | 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 計画案を策定する段階から本人が直接発言できる機会を作り、意見を聞いて計画に反映した。 | |
| ② | 計画の案が固まってきた段階で、案を示して本人の意見を直接聞き、計画に反映した。 | |
| ③ | 本人の意見を直接は聞かなかったが、調査や関係者を通じて本人の意見を集め計画に反映した。 | |
| ④ | その他のやり方で、本人の意見を計画に反映した。（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑤ | 第8期の計画に、本人の意見は反映はしなかった。 | |

**設問4　日常の中で、本人が意見を表しやすい環境作りについて**

| 各項目について、下記の該当する数字を1つ選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. コロナ禍以前からかっている　2. コロナ禍になってやり始めた<br>1. 以前はやっていたことがコロナ禍でやっていない　0. 今までやっていない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 施策担当者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っている。 | |
| ② | 地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことを施策担当者として推進している。 | |
| ③ | 相談の際に、本人自身が意見を言える（本人意見を聞く）ことに力をいれている。 | |
| ④ | 地域ケア会議や事例検討会等に、本人が参加し、本人が意見を言えるようにしている。 | |
| ⑤ | 本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合いながら、意見を表せるようにしている。 | |
| ⑥ | 住民等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている。 | |
| ⑦ | 専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている。 | |
| ⑧ | 認知症疾患医療センターと協力して、本人が意見等を語れる機会をつくっている。 | |
| ⑨ | オンラインを使って、本人が意見を出したり、話し合える機会を作っている。 | |
| ⑩ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑪ | 特にない。 | |

**設問5　事業や取組を実際に進める上での、本人の意見の反映・参画について**

| 下記の項目で該当する番号を下記から選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. 本人の意見を反映するとともに、実施/運営を本人参画で共に進めている<br>2. 本人の意見を反映しているが、実施/運営は、担当者等で行っている（本人は参画していない）<br>1. 事業は実施しているが、本人の意見の反映や参画はない<br>0. 事業自体を実施していない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 「認知症ケアパス」の作成・改良 | |
| ② | 認知症関連の普及・啓発用のチラシや冊子等の作成・改良 | |
| ③ | 認知症関連のホームページの作成・改良 | |
| ④ | 相談支援体制づくり | |
| ⑤ | 認知症カフェの開設や運営 | |
| ⑥ | 本人ミーティングの開設や運営 | |
| ⑦ | ピアサポート（本人による本人の相談・支えあい等）の開設や運営 | |
| ⑧ | 自地域内の認知症バリアの点検・改善（認知症バリアフリー） | |
| ⑨ | 本人が望む社会参加活動の場や機会づくり | |
| ⑩ | チームオレンジの企画・運営 | |
| ⑪ | 見守り・SOS体制作り | |
| ⑫ | 医療・介護サービスの質の向上 | |
| ⑬ | 市区町村版の希望大使の任命 | |
| ⑭ | 認知症に関する条例づくり | |
| ⑮ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |

**設問6 「地域共生」を進めていくための、認知症施策担当者と地域との連携について**

| 下記の項目の中で、最も近いものを1つ選んで、その数字を右の回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 本人の声をもとにしながら、「地域共生」をすすめていくために地域の中で連携相手を広げている。 | |
| ② | 本人の声をもとにしてはないが、「地域共生」を進めていくために地域の中で連携相手を広げている。 | |
| ③ | 地域の中で連携相手を広げているが、本人の声や「地域共生」をあまり意識してこなかった。 | |
| ④ | 地域の中で、連携相手をあまり広げていない。 | |

| 上記①～③とお答えの方にお聞きします。<br>下記の項目で、実際の連携相手として該当する場合は「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入ください。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 地元の認知症の本人 | |
| ② | 近隣自治体や都道府県内の認知症の本人 | |
| ③ | ①②以外の、全国の認知症の本人あるいは本人の活動組織 | |
| ④ | 認知症の本人の「家族」あるいは家族の組織 | |
| ⑤ | 認知症の本人が活動することをふだん一緒に行っている人（パートナー等） | |
| ⑥ | 地域の住民 | |
| ⑦ | 小中高生や学生、学校の関係者 | |
| ⑧ | 保育園・幼稚園等の子供たちや子育て関係者 | |
| ⑨ | 地域の店舗や交通機関等、企業等、生活関連領域で働いている人 | |
| ⑩ | 農林水産、環境等の分野の人たち/組織 | |
| ⑪ | 地域の本人が就労している会社等の関係者 | |
| ⑫ | 地域包括支援センターの職員 | |
| ⑬ | 初期集中支援チームのチーム員 | |
| ⑭ | 認知症地域支援推進員 | |
| ⑮ | 生活支援コーディネーター | |
| ⑯ | 就労支援の専門職・関係者 | |
| ⑰ | 地域の介護支援専門員 | |
| ⑱ | ⑯以外の地域の介護事業所の職員 | |
| ⑲ | 地域の医療機関の医師・職員 | |
| ⑳ | 認知症疾患医療センターの医師 | |
| ㉑ | 認知症疾患医療センターの医師以外の職員（連携担当者、職員等） | |
| ㉒ | 都道府県が配置している若年性認知症コーディネーター | |
| ㉓ | 地元で認知症の人の地域活動の支援をしている組織 | |
| ㉔ | 地元で障害者や子供等の地域活動の支援をしている組織 | |
| ㉕ | 市区町村の担当部署内の行政職員 | |
| ㉖ | 市区町村の担当部署以外の多分野の行政職員 | |
| ㉗ | 近隣自治体や都道府県内の認知症施策担当者 | |
| ㉘ | ㉗以外の全国の認知症施策担当者 | |
| ㉙ | 都道府県の認知症施策担当者 | |
| ㉚ | 担当者の友人、知人、同級生、同窓生等 | |
| ㉛ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |

**設問7　施策担当者として地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言もらえる人がいますか**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 職場の中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ② | 自分が働いたり暮らしている市区町村内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ③ | 都道府県内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ④ | 全国のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ⑤ | 特にいない。 | |

| ※上記①～⑤で、「助言してくれる人がいる」と回答された場合、<br>その中でも、特に頼りにしている人の立場を、下欄にご記入下さい(3名くらいまで)。 |
|---|
| |

**設問8　貴市区町村での「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方について　　*以下「希望宣言」と略**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 認知症の本人に渡したり、知らせている。 | |
| ② | 認知症の本人の家族に渡したり、知らせている。 | |
| ③ | 広く住民等に渡したり、知らせている。 | |
| ④ | 医療機関に掲示してもらったり、活かしてもらっている。 | |
| ⑤ | 介護事業者に掲示してもらったり、活かしてもらっている。 | |
| ⑥ | 成年後見や権利擁護の関係者に渡したり、知らせている。 | |
| ⑦ | 役所に掲示し、役所職員や役所に来る人に知らせている。 | |
| ⑧ | 議員や首長に渡したり、知らせている。 | |
| ⑨ | 「希望宣言」をもとに本人と話し合い、本人が前向きに暮らしていくきっかけにしている。 | |
| ⑩ | 「希望宣言」をもとに地域の関係者で話し合い、希望のリレーに取組んでいる。 | |
| ⑪ | 市区町村として地元版の希望大使を任命している。 *名称は希望大使以外の独自のものでも | |
| ⑫ | その他 、希望宣言を活かしている（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑬ | 「希望宣言」を知らなかった。 | |

**Ⅱ.貴自治体でみられている変化/成果、課題についてお尋ねします。**

**設問9　貴市区町村では、地域の中で意見を発する地元の認知症の本人が増えていますか**

| 下記の選択肢から最も近い内容を一つ選び、その数字を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 自分の意見を発する本人が増え、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている。 | |
| ② | 増えてはいないが、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている。 | |
| ③ | 地域の中で意見を発する本人がまだいない。 | |
| ④ | 把握していない。 | |

**設問10　貴市区町村では、地域の中で自ら活き活き活躍する本人が増えていますか**

| 下記の選択肢から該当するな項目を一つ選び、その数字を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿が増え、その姿や場面がより充実してきている。 | |
| ② | 増えてはいないが、地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿や場面が充実してきている。 | |
| ③ | 地域活動の場につながる本人は増えているが、自ら活き活き活躍するまでにはなっていない。 | |
| ④ | 地域活動の場につながる本人があまりいない。 | |
| ⑤ | 把握していない。 | |

**設問11　貴市区町村では、以下のような変化がみられていますか**

| 各項目について、下記の該当する場合を、回答欄にご記入下さい。<br>3. 年々拡充してきている　2. 今年からみられている　1. ない　0. 把握していない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 前向きに暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている。 | |
| ② | 本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている。 | |
| ③ | 地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている。 | |
| ④ | 地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている。 | |
| ⑤ | 地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている。 | |
| ⑥ | 地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑦ | 地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑧ | 地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑨ | 認知症疾患医療センターの医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑩ | 行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑪ | 本人の意見や力を活かして行政の他部署ともつながり、施策や取組をより総合的に進められるようになってきている。 | |
| ⑫ | 認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている。 | |
| ⑬ | 認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている。 | |
| ⑭ | 立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている。 | |
| ⑮ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑯ | 特にない。 | |

**設問12　貴市区町村として、認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題をお聞かせください。**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 市区町村としての認知症施策の方針が不明確であり、実際には地域共生を目指せていない。 | |
| ② | 認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての、役所内の意識や優先順位が低い。 | |
| ③ | 担当者が事業や取組でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない。 | |
| ④ | 施策担当者が、自分の意見を語り地域で活き活き過ごす地元の本人に出会えておらず、地域共生の具体的なイメージや可能性をつかめていない。 | |
| ⑤ | 地元の本人には、自分の意見を言えるような状態の人がいない。 | |
| ⑥ | 地域の偏見がまだ強く、本人が意見を言えたり、地域に参画できる雰囲気・環境ではない。 | |
| ⑦ | 本人が語る機会や場をつくっても、本人が集まらない。 | |
| ⑧ | 相談の際に、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）、意見を活かす機会になっていない。 | |
| ⑨ | 認知症カフェが、認知症の本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない。 | |
| ⑩ | 本人ミーティングが、本人が意見を語る（意見をよく聞く）・意見を活かす機会になっていない。 | |
| ⑪ | 市区町村内の地域/場によって、本人の意見や力を活かす意識/取組みに温度差がある。 | |
| ⑫ | 本人が社会参加したくても、送迎や付き添う人の確保で課題が生じている。 | |
| ⑬ | 本人が社会参加したくても、家族が「本人は無理」「話せない」等と、理解・協力が得られない。 | |
| ⑭ | 家族が本人の代わりに話す場合が多く、本人自身の声を聞けないことが多い。 | |
| ⑮ | 担当者が、本人発信や社会参加支援の方法がよくわからない。 | |
| ⑯ | 担当者が、本人の意見を施策や事業等にどう反映させていけばいいかよくわからない。 | |
| ⑰ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑱ | 課題は特にない。 | |

## Ⅲ．今後についてお尋ねします。

**設問13　貴市区町村で地域共生を進めていくために、担当者として今後力を入れたいことがありますか。**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 担当者が、地域や取組現場に出向いて、本人の意見に触れる機会を増やしたい。 | |
| ② | 認知症地域支援推進員が、本人発信や本人の社会参加支援の活動に取組めるよう後押しをしたい。 | |
| ③ | 医療専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 | |
| ④ | 介護専門職が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 | |
| ⑤ | 地域住民等が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 | |
| ⑥ | 認知症疾患医療センターと、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい。 | |
| ⑦ | 地域の医療機関と、本人発信や本人参画についての取組に関し連携を図りたい。 | |
| ⑧ | 本人が、本人発信や社会参加について前向きになれるよう、本人自身への働きかけを強めたい | |
| ⑨ | 本人が日常の中で発している意見が、行政まで届いて施策や取組に活かせるように、関係者間のつながりや協働、フォーメーション作りに力を入れたい | |
| ⑩ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑪ | 特にない。 | |

**設問14　貴市区町村として、認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために要望がありますか。**

| 下記の選択肢から該当する項目は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 他自治体の取り組み事例を知りたい。 | |
| ② | 他自治体の計画・企画について具体的に知りたい。 | |
| ③ | 職場内で地域共生に向けた方針や合意づくりを進めていくために、利用できる資料がほしい。 | |
| ④ | 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、具体的な進め方や内容の資料がほしい。 | |
| ⑤ | 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、わかりやすい映像資料がほしい。 | |
| ⑥ | 本人の意見や力を活かした地域共生に関する研修や情報交換の場がほしい。 | |
| ⑦ | 行政担当者が、気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、都道府県で作ってほしい | |
| ⑧ | 行政担当者が、気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、全国で作ってほしい | |
| ⑨ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑩ | 特にない。 | |

**☆☆貴自治体で、本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために取組んでいることや成果等、他の自治体等に紹介したい情報がありましたら、どうぞ教えてください。**

※自由にご記入下さい。あるいはこの調査票返信時に関連資料をご添付下さい。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

### 3）認知症疾患医療センター調査票

## 認知症本人の意見と力を活かした地域共生社会の推進全国調査
## 【認知症疾患医療センター用】

※貴センターの「地域連携のご担当者」にご記入願います。

**貴センターの概要について**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 都道府県名 | | |
| 2 | センター名（医療機関名） | | |
| 3 | センターの類型 | 該当する番号を右欄にご記入ください。<br>1. 基幹型 2. 地域型 3. 連携型 | |
| 4 | センターの設置年（西暦） | 年 | |
| 5 | 連携担当の部署名 | | |
| 6 | 初期集中支援チームの設置<br>あるいはチーム員としての参画 | 該当する番号を右欄にご記入ください。<br>1. 病院に設置　2. 職員がチーム員として参画　3. なし | |
| 7 | 地域包括支援センターの設置 | 該当する番号を右欄にご記入ください。<br>1. 病院に設置　2. 関連法人に設置　3. なし | |
| 8 | 認知症地域支援推進員の配置 | 該当する番号を右欄にご記入ください。<br>1. 病院に配置　2. 関連法人に配置　3. なし | |

**Ⅰ.貴センターの取組みの現状についてお尋ねします**

**設問1　貴センターの方針について**

| | 各項目について、下記の該当する数字を1つ選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. 病院全体での方針である　2. 病院全体ではないが、連携担当部署全体の方針である<br>1. 連携担当部署全体ではないが連携担当職員の方針である　0. そうした方針がない | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指す。 | |
| ② | 認知症に関する施策や取組みを、本人の意見を踏まえて進めていく。 | |
| ③ | 認知症に関する施策や取組みは、本人が参画し、本人の力を活かして進めていく。 | |

**設問2　認知症の本人が意見を表しやすい環境作りについて**

| | 各項目について、下記の該当する数字を1つ選んで、回答欄にご記入下さい。<br>3. コロナ禍以前から行っている　2. コロナ禍になって以降に始めた<br>1. 以前はやっていたことがコロナ禍以降やっていない　0. 今まで行っていない | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | センター職員が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っている。 | |
| ② | 地域の関係者が、本人と共に過ごす時間をもち、本人が意見を言いやすい関係を作っていくことをセンターとして推進している。 | |
| ③ | 面談等の際に、本人自身が意見を言えることに力をいれている。 | |
| ④ | ケア会議や事例検討会等に、本人が参加し、本人が意見を表せるようにしている。 | |
| ⑤ | 本人ミーティング等を開催し、本人同士が語り合いながら、意見を表せるようにしている。 | |
| ⑥ | 住民等向けの講座や講演会等で、本人が意見等を語れる機会をつくっている | |
| ⑦ | 専門職向けの研修や集まりで、本人が意見等を語れる機会をつくっている | |
| ⑧ | 市区町村と協力して、本人が意見を伝える発機会をつくっている。 | |
| ⑨ | オンラインを使って、本人が意見を表したり、話し合える機会を作っている。 | |
| ⑩ | 病院内の認知症バリアの点検・改善（認知症バリアフリー）のために、本人が意見等を語れる機会を作っている。 | |
| ⑪ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑫ | 特にない。 | |

**設問3　認知症の本人が、他の本人の相談や支えを行う「本人相談（ピアサポート）」について**

| 下記の選択肢から該当する内容を一つ選び、回答欄に数字をご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | センターが主催して、「本人による本人相談」を実施している。 | |
| ② | 管内の自治体等が実施する「本人による本人相談」に、協力している。 | |
| ③ | これまで「本人による本人相談」はなかったが、今後行う予定がある。（検討中を含む） | |
| ④ | 特に行っておらず、今のところ予定はない。 | |

**設問4　認知症の診断後の本人の地域支援や連携について**

| 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 診断後、本人が地域の中でやりたいことを本人に聴くようにしており、それが実現するような支援や連携を、連携担当者やセンター職員が行っている。 | |
| ② | 診断後、本人が地域の中でやりたいことを聴くようにはしていないが、地域の中で暮らすための支援や連携を、連携担当者やセンター職員が行っている。 | |
| ③ | 特に行っていない。 | |

**設問5　地域共生を進めていくための、連携担当者と地域との連携について**

| 下記の項目の中で、最も近いものを一つ選び、回答欄に数字をご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 本人の声をもとにしながら、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている。 | |
| ② | 本人の声をもとにしてはないが、地域共生を進めていくために、地域の中で連携相手を広げている。 | |
| ③ | 地域の中で連携相手を広げているが、本人の声や地域共生をあまり意識してこなかった。 | |
| ④ | 地域の中で、連携相手をあまり広げていない。 | |

| ※ | 上記①、②とお答えの方にお聞きします。<br>下記の項目で、連携相手として該当する場合は「1」を、該当しない場合は「0」を、ご記入下さい。 | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 管内の認知症の本人 | |
| ② | ①以外の都道府県内の認知症の本人 | |
| ③ | ①②以外の、全国の認知症の本人あるいは本人の活動組織 | |
| ④ | 認知症の本人の「家族」あるいは家族の組織 | |
| ⑤ | 認知症の本人が活動することをふだん一緒に行っている人（パートナー等） | |
| ⑥ | 地域の住民 | |
| ⑦ | 小中高生や学生、学校の関係者 | |
| ⑧ | 保育園・幼稚園等の子供たちや子育て関係者 | |
| ⑨ | 地域の店舗や交通機関等、企業等、生活関連領域で働いている人 | |
| ⑩ | 農林水産、環境等の分野の人たち/組織 | |
| ⑪ | 地域の本人が就労している会社等の関係者 | |
| ⑫ | 地域包括支援センターの職員 | |
| ⑬ | 初期集中支援チームのチーム員 | |
| ⑭ | 認知症地域支援推進員 | |
| ⑮ | 生活支援コーディネーター | |
| ⑯ | 就労支援の専門職・関係者 | |
| ⑰ | 地域の介護支援専門員 | |
| ⑱ | ⑯以外の地域の介護事業所の職員 | |
| ⑲ | 地域の医療機関の医師・職員 | |
| ⑳ | 他の認知症疾患医療センターの医師 | |
| ㉑ | 他の認知症疾患医療センターの医師以外の職員（連携担当者、職員等） | |
| ㉒ | 都道府県が配置している若年性認知症コーディネーター | |
| ㉓ | 地元で認知症の人の地域活動の支援をしている関係者/組織 | |
| ㉔ | 地元で障害者や子供等の地域支援をしている関係者/組織 | |
| ㉕ | 市区町村の担当部署内の行政職員 | |
| ㉖ | 市区町村の担当部署以外の多分野の行政職員 | |
| ㉗ | 近隣自治体や都道府県内の認知症施策担当者 | |
| ㉘ | ㉖以外の全国の認知症施策担当者 | |
| ㉙ | 都道府県の認知症施策担当者 | |
| ㉚ | 担当者の友人、知人、同級生、同窓生等 | |
| ㉛ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |

**設問6　認知症の本人の地域共生を進めていく上で、知りたいことがあった時や悩んだ時に助言してもらえる人について**

| 各項目について、該当する場合は数字の「1」を、該当しない場合は「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 職場の中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ② | センターのある管内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ③ | 都道府県内のネットワークの中で、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ④ | 全国のネットワークの中で、、地域共生に関して助言してもらえる人がいる。 | |
| ⑤ | 特にいない | |

| ※上記①～⑤で、「助言してくれる人がいる」と回答された場合、<br>その中でも、特に頼りにしている人の立場を、下欄にご記入下さい(3名くらいまで)。 |
|---|
| |

**設問7　貴センターでの、「認知症とともに生きる希望宣言」の活かし方について　　*以下「希望宣言」と略**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を、回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 認知症の本人に渡したり、知らせている。 | |
| ② | 認知症の本人の家族に渡したり、知らせている。 | |
| ③ | 広く住民等に渡したり、知らせている。 | |
| ④ | センター内に掲示し、来院する人に活かしてもらっている。 | |
| ⑤ | 管内の医療機関に掲示してもらったり、活かしてもらっている。 | |
| ⑥ | 管内の介護事業者に掲示してもらったり、活かしてもらっている。 | |
| ⑦ | 成年後見や権利擁護の関係者に渡したり、知らせている。 | |
| ⑧ | 役所に掲示し、役所職員や役所に来る人に知らせている。 | |
| ⑨ | 議員や首長に渡したり、知らせている。 | |
| ⑩ | 「希望宣言」をもとに本人と話し合い、本人が前向きに暮らしていくきっかけにしている | |
| ⑪ | 「希望宣言」をもとに地域の関係者で話し合い、希望のリレーに取組んでいる | |
| ⑫ | 本人が希望大使として活動する支援をしている。 | |
| ⑬ | その他 、「希望宣言」を活かしている。(下欄に、具体的にご記入ください) | |
| | | |
| ⑭ | 「希望宣言」を知らなかった。 | |

**Ⅱ.貴センターの取組みを通じた変化/成果、課題について**

**設問8　センターが関わった認知症の本人の中で、地域の中で意見を発する人が増えていますか**

| 下記の選択肢から最も近い内容を一つ選び、回答欄に数字をご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 自分の意見を発する本人が増え、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている。 | |
| ② | 増えてはいないが、本人が自分から意見を活発に出すようになってきている。 | |
| ③ | 地域の中で意見を発する本人がまだいない。 | |
| ④ | 把握していない。 | |

**設問9　地域の中で活き活きと活躍している本人について**

| 下記の選択肢から最も近い内容を一つ選び、回答欄に数字をご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | センターが関わってきた本人の中で、地域の中で活き活きと活躍している人が増えてきている。 | |
| ② | 増えてはいないが、地域の中で自ら活き活き活躍する本人の姿や場面が充実してきている。 | |
| ③ | センターが関わった本人にはいないが、センター管内の地域の中でそうした本人がいる。 | |
| ④ | 管内でそうした本人はいない。 | |
| ⑤ | 把握していない。 | |

**設問10　貴センターの取組や支援を通じて、以下のような変化がみられていますか**

| 各項目について、下記の該当する場合を、回答欄にご記入下さい。<br>3. 年々拡充してきている　2. 今年からみられている　1. 変化がみられていない　0. 把握していない | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 活き活き暮らす（先輩の）本人の姿や声に触れ、落ち込みから立ち直り前向きに暮らす本人が増えている。 | |
| ② | 本人の家族の中で、本人の意見や力を大切にしながら、前向きに暮らす家族が増えている。 | |
| ③ | 地域の住民の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する人が増えている。 | |
| ④ | 地域の学生や子供の中で、本人の思いや力を大切にしながら本人と共に過ごす/活動する学生や子供が増えている。 | |
| ⑤ | 地域で働く人たち（企業、商店、交通機関、金融機関その他）の中で、本人の思いや力を大切にしながら、本人と共に過ごす/活動する人が増えている。 | |
| ⑥ | 地域の介護職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑦ | 地域の医師が、本人の意見や力を体大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑧ | 地域の医師以外の医療職が、本人の意見や力を大切にしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑨ | 認知症疾患医療センター内の医師や職員が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑩ | 行政担当者が、本人の意見や力を活かしながら、地域共生に取組むようになってきている。 | |
| ⑪ | 本人の意見や力を活かして、病院や法人の部署間がつながり地域共生に共に取り組むようになってきている。 | |
| ⑫ | 認知症を隠さずに、早目に地域で相談する人が増えてきている。 | |
| ⑬ | 認知症バリアフリーを本人とともに進める実例が生まれている。 | |
| ⑭ | 立場や職種を超えて、認知症とともに共に生きる地域共生について取組む仲間が増えている。 | |
| ⑮ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑯ | 特になし | |

**設問11　貴センターが、認知症の本人の意見や力を活かして地域共生を進めていく上での課題について**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | センターとして、地域共生をめざしていく方針がない/不明確。 | |
| ② | 認知症の本人の意見や力を活かしていくことについての、センター内の意識や優先順位が低い。 | |
| ③ | 連携担当者が業務等でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない。 | |
| ④ | 連携担当者が、自分の意見を語り地域で活き活き過ごす地元の本人に出会えておらず、共生の具体的なイメージや可能性をつかめていない。 | |
| ⑤ | センターを受診・受療する本人に、自分の意見を言えるような状態の人がいない。 | |
| ⑥ | 地域の偏見がまだ強く、本人が意見を言えたり、地域で共に生きる雰囲気・環境ではない。 | |
| ⑦ | 家族が本人の代わりに話す場合が多く、本人自身の声を聞けないことが多い。 | |
| ⑧ | センターがとらえた本人意見を、自治体や地域に伝えて活かしていく機会やしくみがない。 | |
| ⑨ | 地域共生を進めていくために協働していける地域の関係者と出会えていない。 | |
| ⑩ | その他（下欄に、具体的にご記入ください） | |
| | | |
| ⑪ | 課題は特にない。 | |

## Ⅱ.今後についてお尋ねします

**設問12　センターの地域連携のご担当者として、今後力を入れたいことについて**

| 下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を回答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 連携担当として、認知症の本人が意見を表せる機会を増やしたい。 | |
| ② | 連携担当として、認知症の本人一人からでも、本人の意見と力を活かした地域共生のための連携や支援に取組んでいきたい。 | |
| ③ | センターの職員が、認知症の本人の意見と力を活かした地域共生に関心や意識を高めるように働きかけたい。 | |
| ④ | 自治体の行政関係者と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい。 | |
| ⑤ | 管内の医療関係者と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい。 | |
| ⑥ | 管内の認知症地域支援推進員と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい。 | |
| ⑦ | 管内の地域包括支援センターと、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい。 | |
| ⑧ | 管内の介護関係者と、本人が地域共生できるように、連携を図りたい/強めたい。 | |
| ⑨ | 地域住民等が、本人発信や社会参加についての意識や取組を強めていくよう推進をしたい。 | |
| ⑩ | 本人が、本人発信や社会参加について前向きになれるよう、本人自身への働きかけを強めたい。 | |
| ⑪ | その他(下欄に、具体的にご記入ください) | |
| | | |
| ⑫ | 特にない。 | |

**設問13　貴センターとして、認知症本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために要望がありますか。**

| 下記の選択肢から該当する項目は、数字の「1」、該当しないものは「0」を解答欄にご記入下さい。 | | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 本人の意見や力を活かして地域共生を進めている他のセンターの取組み例を知りたい。 | |
| ② | 地域共生を進めている他のセンターの企画や進め方について、具体的な情報や資料がほしい。 | |
| ③ | 本人の意見や力を活かした地域共生に関する、わかりやすい映像をみたい。 | |
| ④ | 本人の意見や力を活かした地域共生を進めていくための、研修や情報交換の機会がほしい。 | |
| ⑤ | 気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、都道府県で作ってほしい。 | |
| ⑥ | 気軽に相談でき助言等をもらえる人につながれる仕組みを、全国で作ってほしい。 | |
| ⑦ | その他(下欄に、具体的にご記入ください) | |
| | | |
| ⑧ | 特にない。 | |

**☆貴センターで、本人の声と力を活かした地域共生を進めていくために取組んでいることやそれによる成果、他のセンターや自治体等に紹介したい情報がありましたら、どうぞ教えてください。**

※自由にご記入下さい。あるいはこの調査票返信時に関連資料をご添付下さい。

**設問は以上です。ご協力ありがとうございました。**

## 2. 認知症の本人の意志と力を活かした地域共生社会づくり　話あいシート

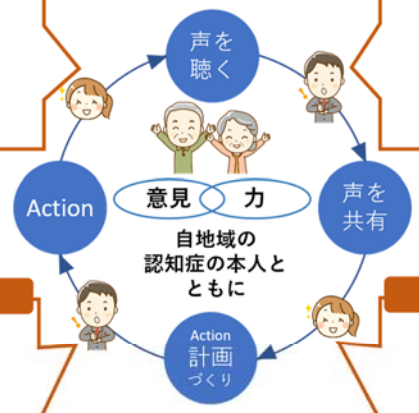
（A3 タテサイズで作成）

### 認知症の本人の意見と力を活かした地域共生社会づくり 話あいシート

1）自分自身の困りごとや担当（担当部署）としての課題をメモしてみよう。

困りごとや担当としての課題と考えること

困りごとや担当としての課題と考えること




困りごとや担当としての課題と考えること

困りごとや担当としての課題と考えること

2）メモをもとに、さまざまな立場の人たちと話あいをしてみよう。

| | 話あいメモ（工夫やアイデア、無理なくできそうなこと） | 話しあいのヒント |
|---|---|---|
| 声を聴く | | 本人と出会う（知り合う）<br>・最初の一人との出会い<br>・地元の人のつながり<br>・GHやDS等へ訪問<br>・認知症の本人の友達を紹介してもらう<br>・「相談窓口」などでつながりの起点をつくる |
| 声を共有 | | 本人の話を聞く場、機会<br>・気軽な場（本人たちが気楽に思える場所）<br>・別の集まり等のついで<br>・本人の家へ遊びに行く<br>・本人が関心を持つ事柄から（雑談から、世間話から）<br>・質問攻めにしない（聞きたいことばかり聞かない） |
| | | 情報共有ツールと、話しあいの機会を持つ<br>・地域共通の情報共有ツールをつくり、できるだけ多くの関係者と本人の声や意見を共有<br>・共有された情報に関する話し合いの機会（時間）を、既存の様々な会議等の中で定常的に設ける |
| Action 計画づくり | | 必ず本人たちの声・意見を聞く<br>・本人が居るところへ出向く<br>・2～3人ぐらいの小さな集まりを設ける<br>・ミーティングの場に誘う（会議メンバー・発信者として）<br>・行政や周囲の都合や目標を優先せず、ともに考え、工夫する |
| Action | | 本人たちを主役（主体）に<br>・「支援のための取組」ではなく、認知症の本人が、社会に参加・参画することが重要<br>・お客さん（事業対象者）扱いではなく、ともに運営するメンバーとして、役割等を設ける |

令和２年度　老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

# 認知症の本人の意見と力を活かした
# 地域共生社会づくりに関する調査研究事業
# 報　告　書

発　行：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ
http://www.jdwg.org/

令和３（２０２１）年３月